

男女平等に関する 市民意識・実態調査報告書



令和5年3月

釧路市

はじめに

国が平成11年に制定した『男女共同参画社会基本法』においては、男女が互いに人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現は、21世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置づけられました。

釧路市では男女共同参画社会の実現のため、平成9年11月に「くしろ男女共同参画プラン」、平成20年3月に「くしろ男女平等参画プラン」（計画期間平成20年～29年）平成30年3月には、現行の「くしろ男女平等参画プラン」（計画期間平成30年～令和9年）を策定し、各種施策を推進してまいりました。

この度、令和5年度に予定している「くしろ男女平等参画プラン」の中間見直しに向けて、市民の皆様にも男女平等参画についてのご意見や現状をお聞きし、課題を把握するため、「男女平等に関する市民意識・実態調査」を実施し、その結果を本報告書に取りまとめました。

今回の調査結果につきましては、プラン中間見直しの基礎資料として活用してまいりますが、関係機関や団体の皆様におかれましても、男女平等参画社会実現のための参考資料としてご利用いただければ幸いです。

最後に、この調査にご協力をいただきました多くの市民の皆様にも厚くお礼申し上げますとともに、本市における男女平等参画社会の実現に向け、一層のご理解とご協力をお願いいたします。

令和5年3月

釧路市長 蝦名大也

目 次

I	調査のあらまし	1
II	調査結果	
	調査結果の概要	3
	回答者のプロフィール	5
	男女平等について	9
	家庭生活について	21
	人権について	32
	教育について	39
	就労について	42
	社会参加及び男女平等参画の推進について	59
	性の多様性について	69
資料	アンケート調査票	74

I 調査のあらまし

1 調査の目的

本調査は、釧路市の男女平等参画推進について、市民の意見や現状を把握することにより、令和5年度に予定している「くしろ男女平等参画プラン」の中間見直し及び今後の男女平等参画に関する施策に反映させるための基礎資料とするものです。

2 調査項目

- (1) 男女平等について
- (2) 家庭生活について
- (3) 人権について
- (4) 教育について
- (5) 就労について
- (6) 社会参加および男女平等参画の推進について
- (7) 性の多様性について ☆新規項目

3 調査対象および調査方法等

調査対象 釧路市内に居住する18歳以上の男女
調査数 2,000人(男女各1,000人)
抽出方法 住民基本台帳より等間隔無作為抽出
調査方法 郵送配布・郵送およびインターネット回収
調査期間 令和4年10月25日～11月15日(3週間)
調査機関 釧路市総合政策部市民協働推進課

4 回収結果

- (1) 配布数 2,000件(男女各1,000件)
- (2) 返送数 郵送 544件(回収率27.2%)(うち無効21件)
インターネット 101件(回収率5.1%)
- (3) 回答数 624件(回答率31.2%)
※うちインターネット回答101件
(全回答数に占める割合 16.2%)
 - 女性 349人(55.9%)
 - 男性 270人(43.3%)
 - 性別無回答 5人(0.8%)

5 本報告書の見方

- (1) nとは、回答者数を表しています。
- (2) 比率は、各設問の「無回答」を含む集計対象総数に対する百分率(%)で表示しています。
- (3) 比率は、少数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しています。このため、比率の合計が100%にならない場合があります。
- (4) 複数回答ができる設問では、比率の合計が100%を超える場合があります。
- (5) 「前回調査」とは、平成24年度に釧路市が実施した「男女平等に関する市民意識・実態調査」を指します。

また、設問の内容が共通する場合には、

- ・国の「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和元年度)、「人々のつながりに関する基礎調査」(令和3年度)
 - ・北海道の「道民意識調査(男女平等参画について)」(平成27年度)、「道民意識調査(男女平等参画を阻害するあらゆる暴力の根絶について)」(平成30年度)
 - ・札幌市の「男女共同参画に関する市民意識調査」(令和3年度)
 - ・横浜市の「男女共同参画に関する市民意識調査」(令和2年度)
- との比較を行っています。

調査結果の概要

男女平等について

- ・調査結果から、家庭生活や結婚についての考え方で「男は仕事、女は家庭」という役割分担の考え方に「賛成」「どちらかといえば賛成」とする回答は合計 12.1%と、前回調査よりも低下し、「反対」「どちらかといえば反対」とする回答は 48.2%で、前回調査よりも上昇していることから、家事や育児に対する性別役割分担の解消に向けた意識が浸透してきているものの、男女の地位の平等感については、「男性の方が非常に優遇されている」「男性の方が非常に優遇されている」を合計した『男性優遇』とする回答割合が「地域活動の場」「職場の中で」を除いて、前回調査よりも高くなっていることから、今後も、男女平等意識の浸透や、男女平等参画社会の実現に向けた取り組みを進めていくことが必要と考えられます。

家庭生活について

- ・調査結果から、女性が主となって家事を行う割合について前回調査と比較すると、女性が主に家事を担っている割合は、「炊事」についてはほぼ変化がなく、「洗濯」「掃除」「ゴミ出し」については低下していることがわかりましたが、共働き家庭においても家事は女性が主で、女性が家事と仕事の両方を行う状況であることから、女性の活躍推進のためには、家事分担の男女平等に向けた意識啓発が必要と考えられます。また「少子化の原因として感じていること」では「子育てにかかる費用の負担が大きいから」とする割合が前回調査より 10 ポイント上昇しており、「人とのつながりについて」では、「自分には人との付き合いがない」「取り残されている」「ほかの人たちから孤立している」と常に感じる人の割合は、男性の方が女性よりも高くなっていることから、これらの課題の解消に向けた施策が必要と考えられます。

人権について

- ・調査結果から、「DV・デートDV・セクハラ」の被害にあった時の相談先は、上位から「家族」55.4%「友人・知人・交際相手」39.9%「公的な相談機関」34.9%の順で、前回調査と同様の順となっており、「暴力をなくすために」必要なこととしては上位から「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」55.4%「法律・制度の制定や見直しを行う」52.4%「捜査や裁判における担当者に女性を増やすなど、被害を届けやすいような環境をつくる」48.7%の順で、上位の項目は前回調査と同様となっています。DV等の被害にあった時には「家族」に相談するとの回答が最も多く、また、暴力をなくすために「被害者のための相談機関や保護施設を整備すること」が必要であるという回答が最も多いことから、既に設置されている相談機関等の活用のため、窓口の周知等も行っていく必要があると考えられます。

教育について

- ・調査結果から、「学校における教育が平等ではない」と考える理由として、上位から「服装」51.2%「言葉遣いなどに対する先生の注意の仕方」35.7%「名簿が男女別で男性が先」27.4%の順となり、名簿に関して現在では、男女混合名簿への変更が進められていることから、男女平等に向けた課題がひとつ解決されているものの、その周知が進んでいないことがわかりま

す。また「学校で男女が平等に教育されていると思う」と回答した割合は、前回調査と比較すると9ポイント低下していることから、「平等ではない」と思う理由の1位となった「服装」に関することも含め、学校教育における男女平等の推進に向けた周知啓発を行う必要があると考えられます。

就労について

- ・調査結果から、「女性が社会に出て働くことと家庭との関係」では、「家庭に影響を与えない程度に働き続ける」「結婚や出産にかかわらず働き続ける」とする『職業継続派』が46.5%、「子どもの手が離れたら家庭に影響を与えない程度に働く」「子どもの手が離れたら元のように働く」とする『中断就業派』が33.2%で、『職業継続派』の割合が高くなっており、前回調査では、『職業継続派（35%）』の割合は『中断就業派（48%）』よりも低かったことから、女性の就労に対する意識は、働き続ける方向へと変化していることがわかります。「男性が育児休業や介護休業をとること」については「家族として当然である」の回答割合が最も高くなっており、前回調査では「他に子育て・介護をする者がいない場合はとることもやむを得ない」の割合が最も高かったことから、男女ともに、男性の育児・介護休業に対する意識は変化してきていることがわかります。『仕事』『家庭生活』『地域・個人の生活』の中で何を優先したいかの設問では、「仕事を優先したい」と「希望」している人の割合は3.8%でしたが、「現実」では「仕事を優先している」人の割合が18.1%で、特に女性では、「仕事を優先したい」人は1.1%のところ、現実では15.5%が「仕事を優先している」と回答しており、希望と現実との間で乖離がみられます。女性も男性もともに働きやすい社会を作るためには、市民への啓発を行っていくとともに、市内事業所に対して、育児休業制度などの各種制度の周知啓発を進めるなど、環境や条件の整備を進めていく必要があると考えられます。

社会参加及び男女平等参画の推進について

- ・調査結果から、「仕事以外に参加している社会活動」では「参加していない」55.0%が最も高い割合となり、前回調査と比較すると「参加していない」割合は11.2ポイント上昇し、「参加している」割合はいずれの活動についても低下しており、社会活動への参加が低調になっていることがわかります。また、男女平等参画に関する言葉の認知度を前回調査と比較すると「ジェンダー」「育児・介護休業法」についての認知度は大きく上昇していますが、「釧路市男女平等参画センター（ふらっと）」についての設問では「知らない」と回答した割合が7割以上となり、認知度が低いことがわかったため、今後も男女平等参画推進の意義とあわせ、男女平等参画センター（ふらっと）についても周知及び啓発を続けていく必要があると考えられます。

性の多様性について

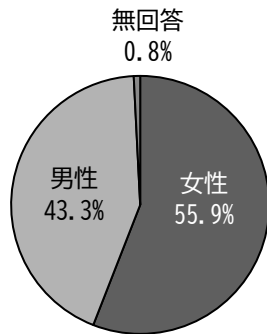
- ・調査結果からは、「LGBT」という「言葉自体を知らない」「言葉は知っているが意味を知らない」割合は合計で31.9%となっており、また「性的マイノリティ（LGBT等）の方々にとって差別や偏見などにより生活しにくい社会」であると「思う」「どちらかといえば思う」割合は合計で71.3%であったことから、性的マイノリティについての理解を進めるための啓発を行っていくとともに、性的マイノリティの方も含めたすべての方が暮らしやすく、多様性が尊重される社会を実現していくための施策が必要であると考えられます。

II 調査結果

【回答者のプロフィール】

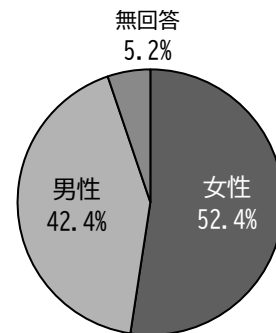
○男女の回答数では、女性の方が多く、年代別構成では60歳以上の回答割合が55.3%となっている。
 前回調査は、75歳までの市民を対象としていたため、単純比較はできない。
 (前回調査では60歳以上の回答割合は38.8%)

●性別



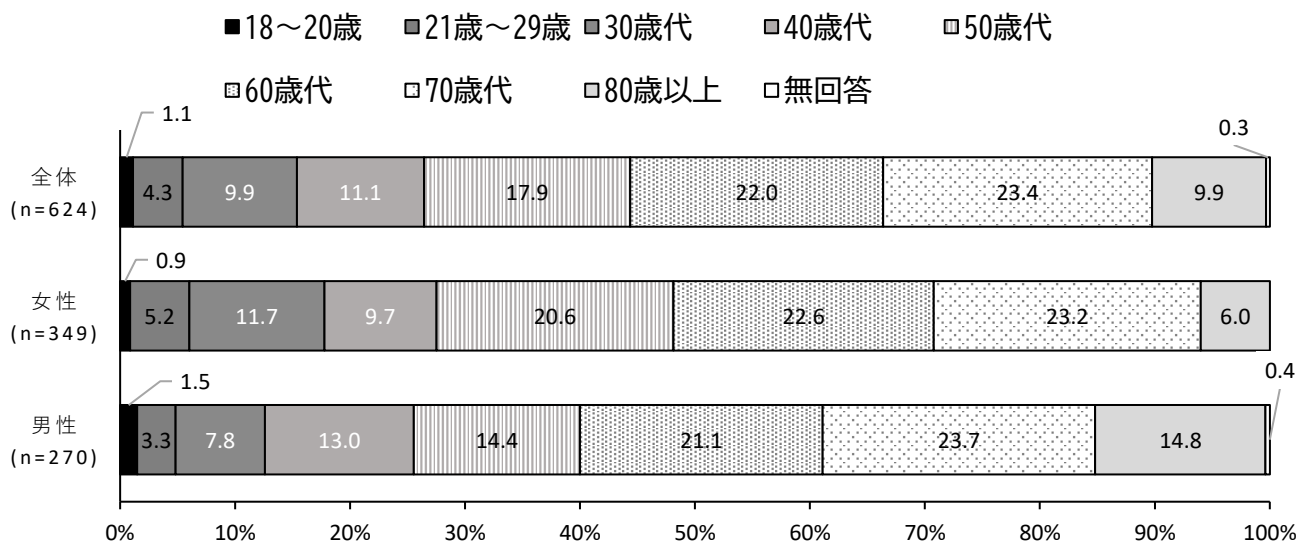
(n=624)

前回調査：性別 (平成24年度)

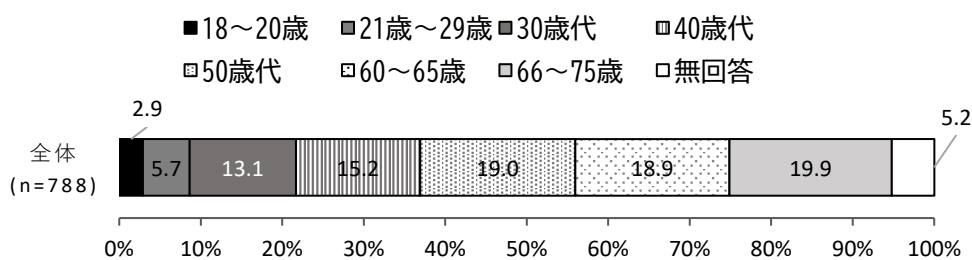


(n=788)

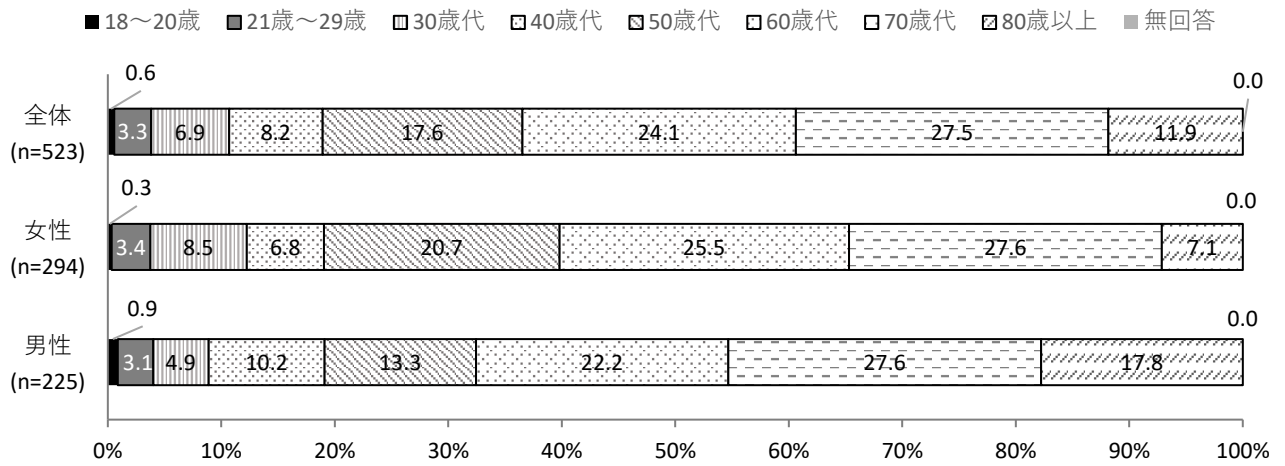
●年齢



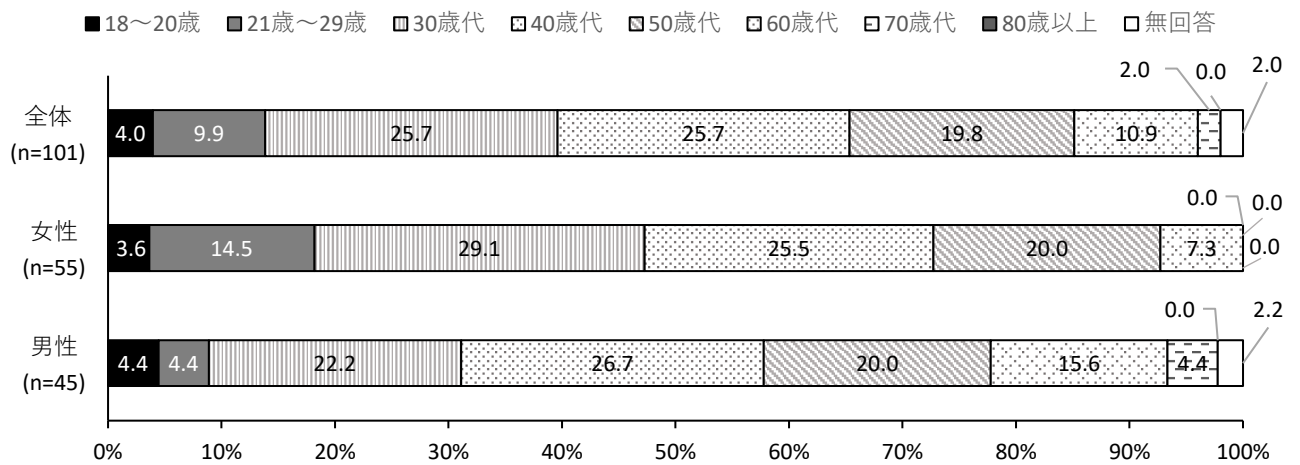
年齢：前回調査



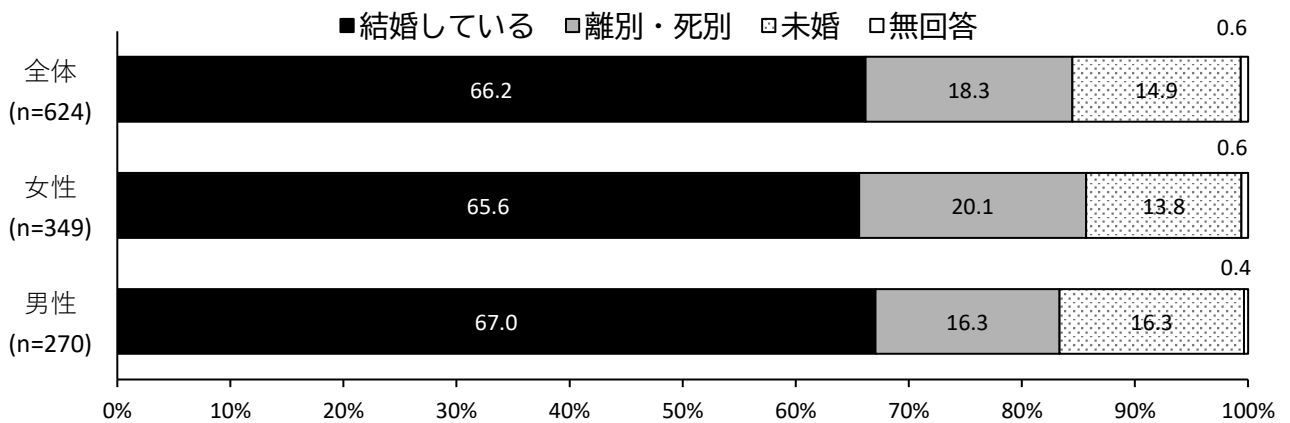
郵送による回答：年代別



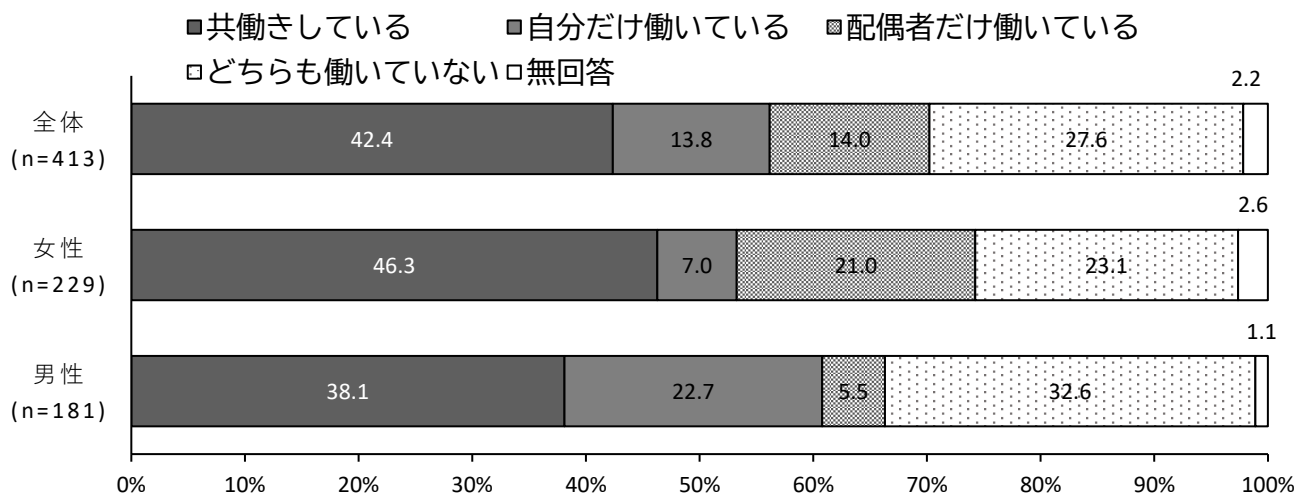
インターネットによる回答：年代別



●婚姻状況

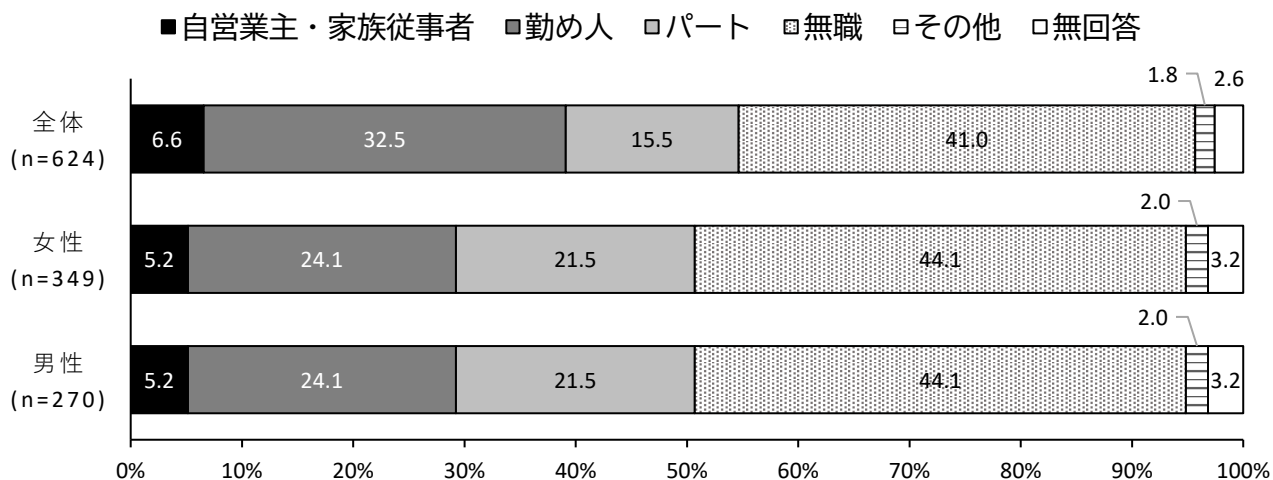


●結婚している人の就労状況

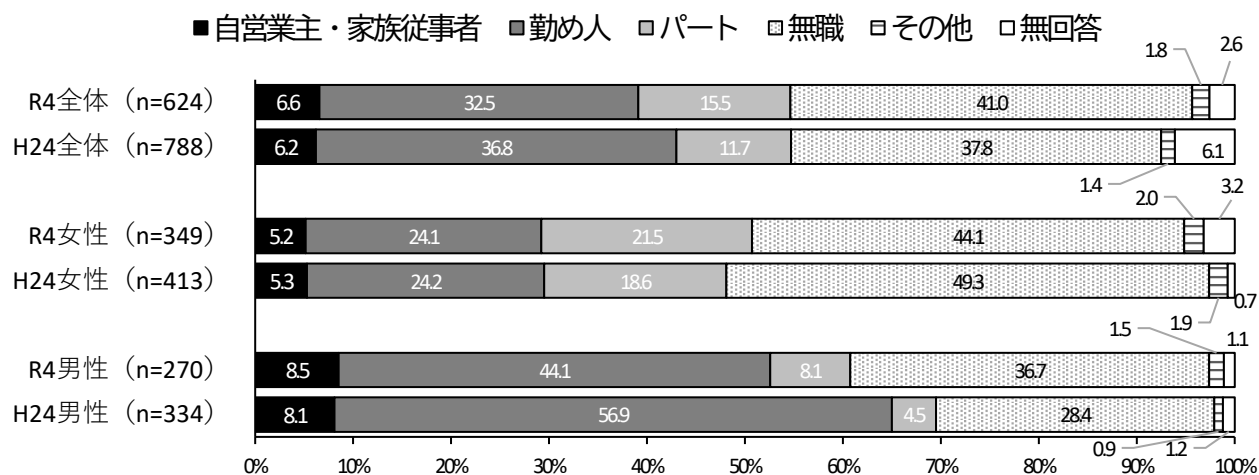


●職業

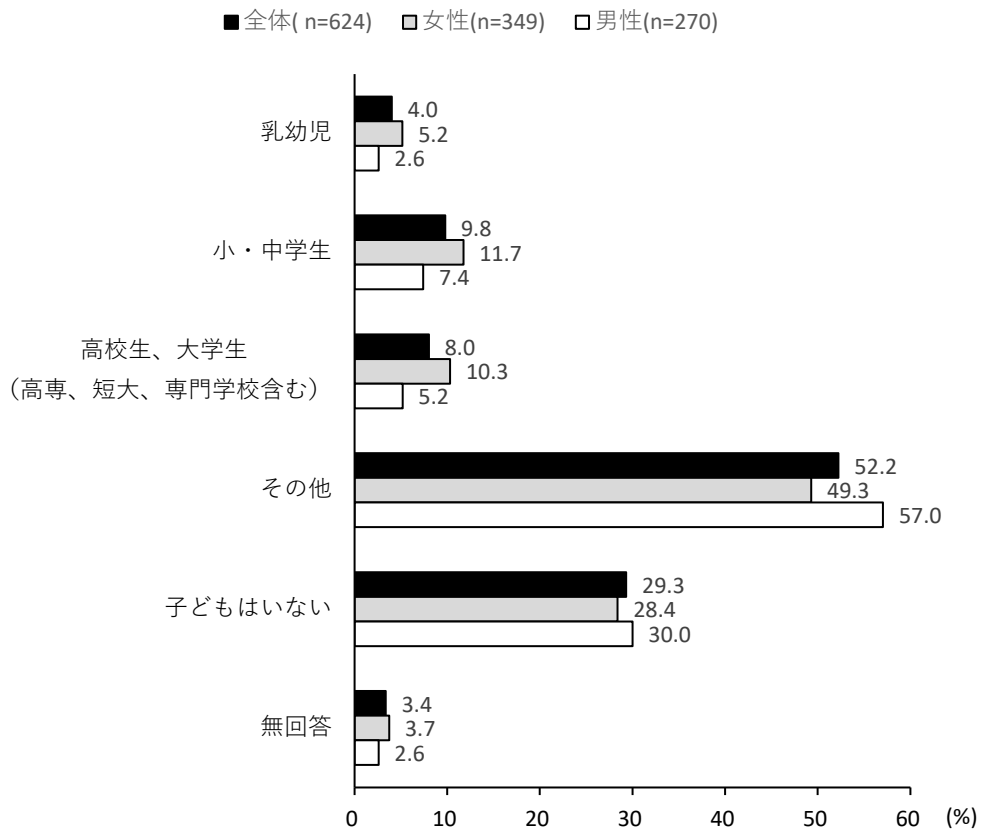
- 職業は、無職が41.0%、勤め人が32.5%、パートが15.5%の割合となっている。
 前回調査と比較すると、無職、パートの割合が増え、勤め人の割合が低下している。
 女性では、無職の割合が減り、仕事に就いている人の割合が上昇している。



職業：前回調査との比較



●子どもの有無（複数回答）

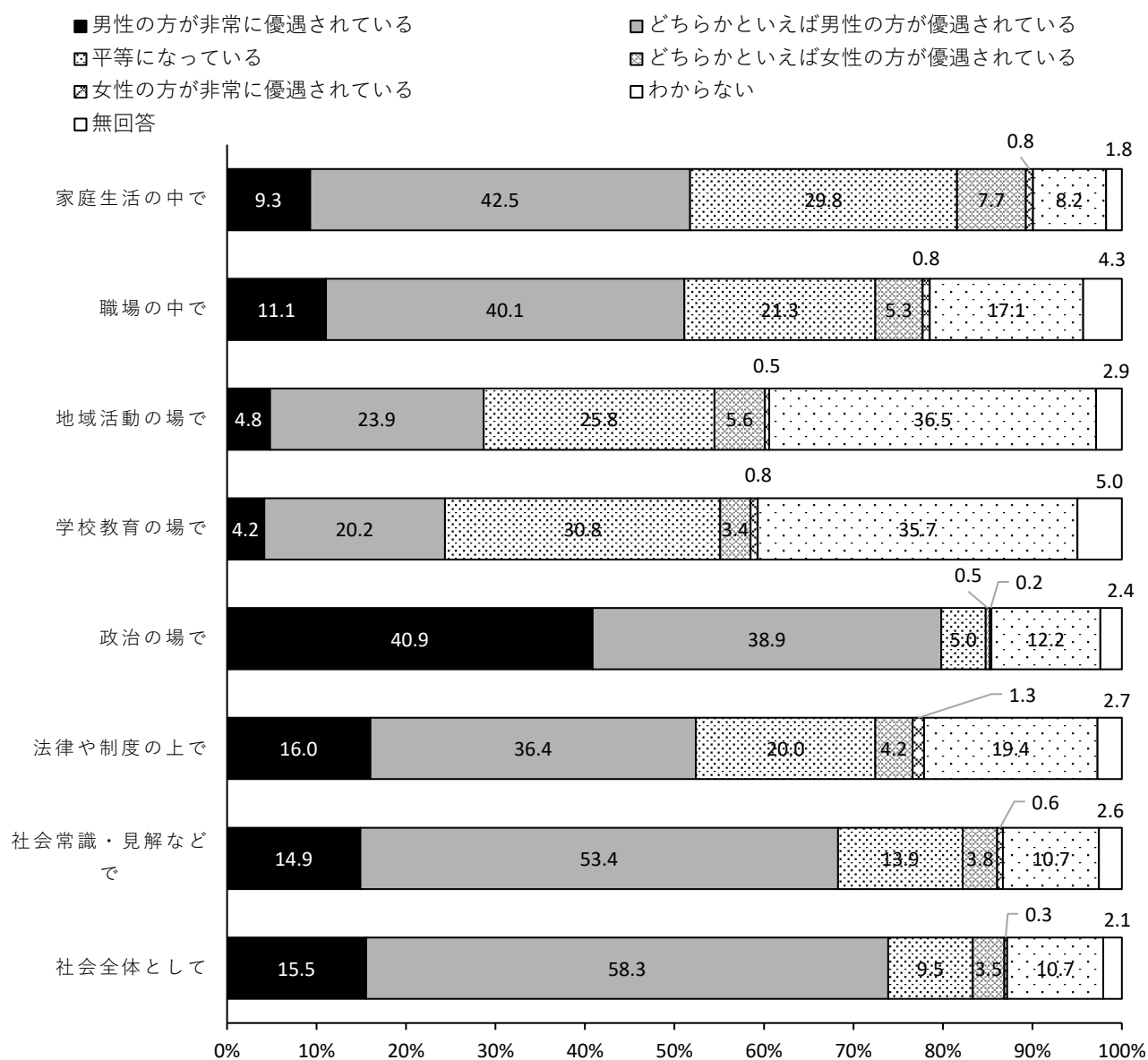


【男女平等について】

問1 次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(n=624)

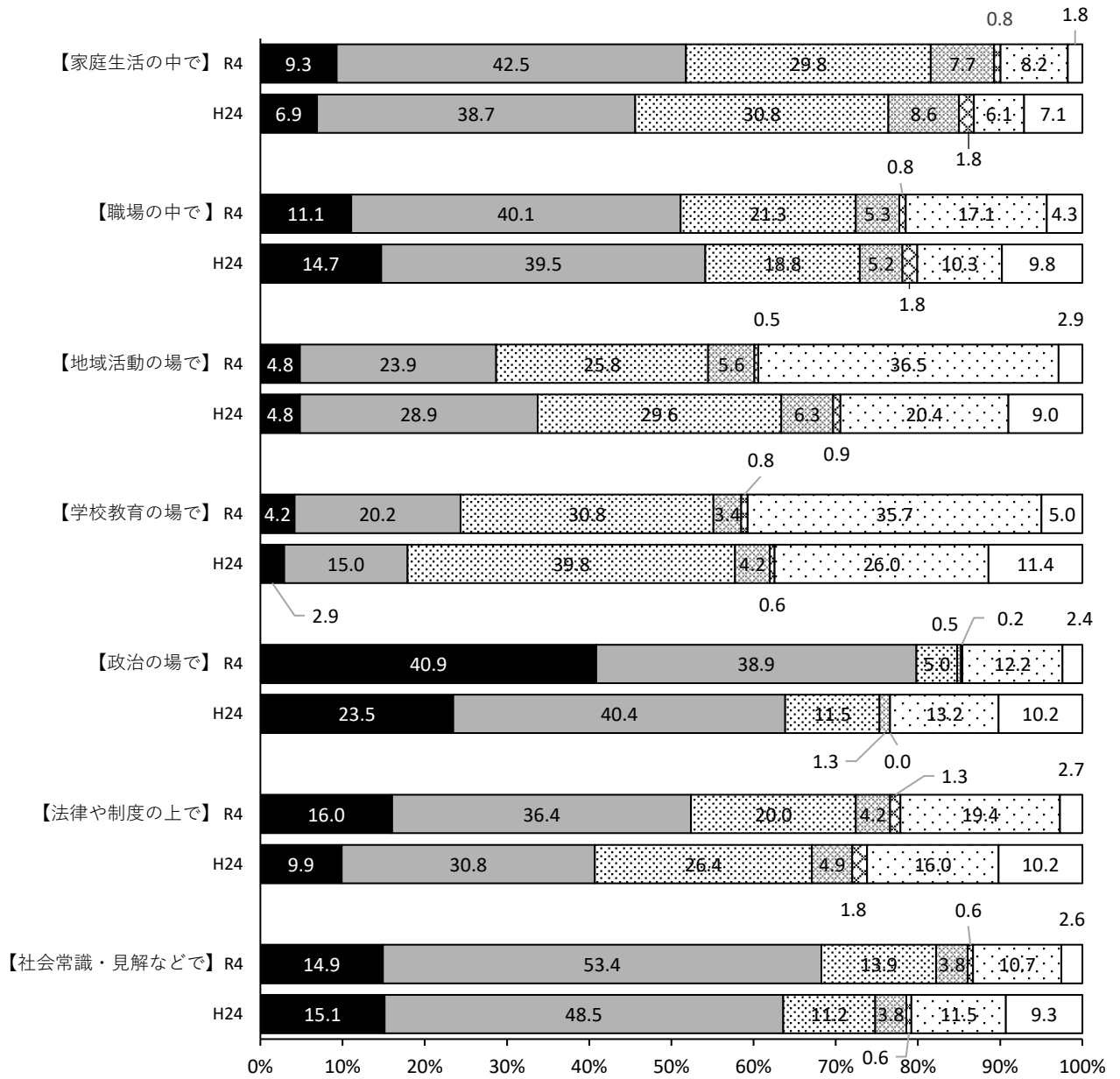
○男女の地位の平等感について

- ・「平等」と回答した人の割合は「学校教育の場で」が30.8%と最も高く、「家庭生活の中で」の29.8%、「地域活動の中で」の25.8%がこれに続いている。(P9)
- ・「男性の方が非常に優遇」「どちらかといえば男性の方が優遇」を合わせた『男性優遇』の割合について前回調査と比較すると、「地域活動の中で」「職場の中で」では前回は下回っているが、その他の項目ではいずれも前回は上回っている。特に「政治の場で」は「男性の方が非常に優遇」と回答した割合が17.4ポイント上昇している。(P10)
- ・男女別では、「平等」と答えた割合は男性の方が女性よりもいずれの項目でも高くなっており、『男性優遇』と答えた割合は、女性の方が男性よりいずれの項目でも高くなっている。(P11)

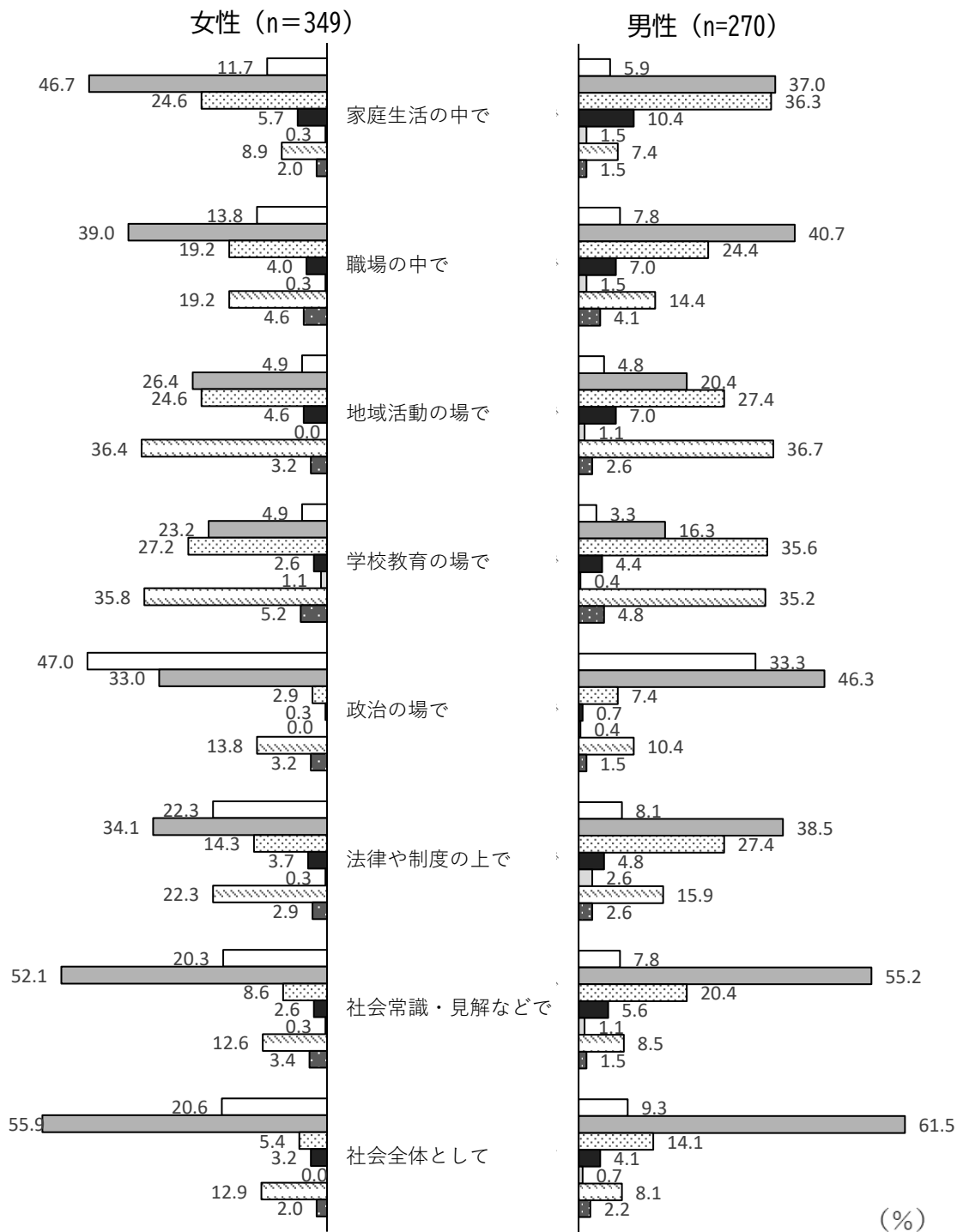


男女の地位：前回調査との比較

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ 平等になっている
- ▩ 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない



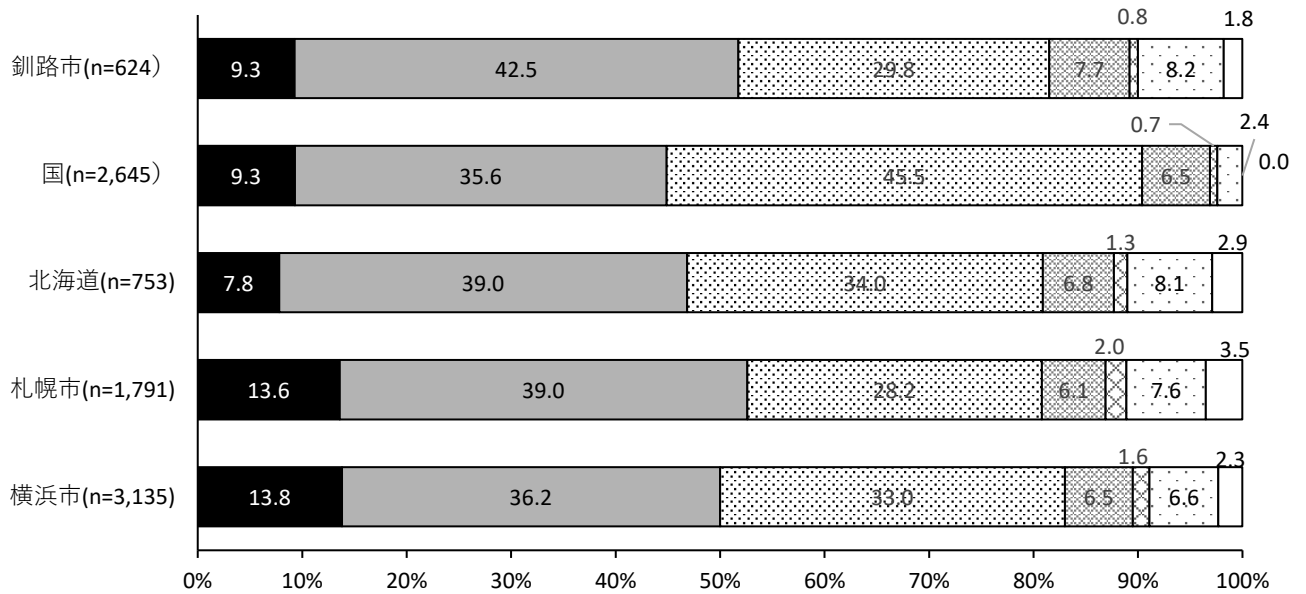
男女の地位：性別回答



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ 平等になっている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

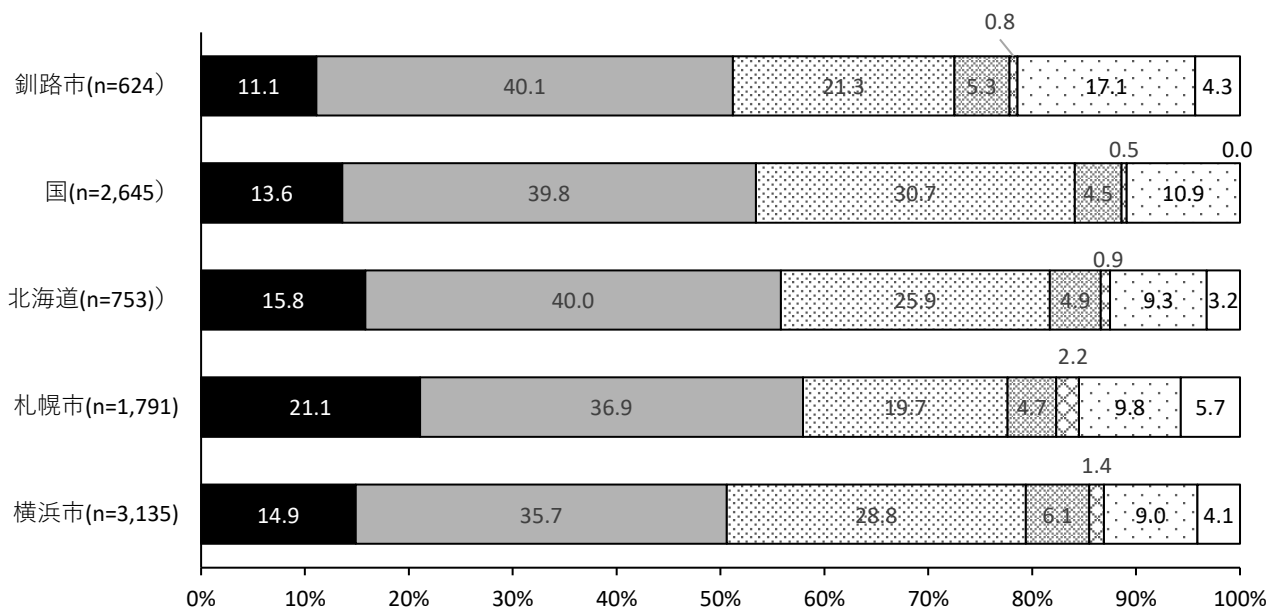
家庭生活の中で：国・道・政令市との比較

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▣ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ 平等になっている
- ▩ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



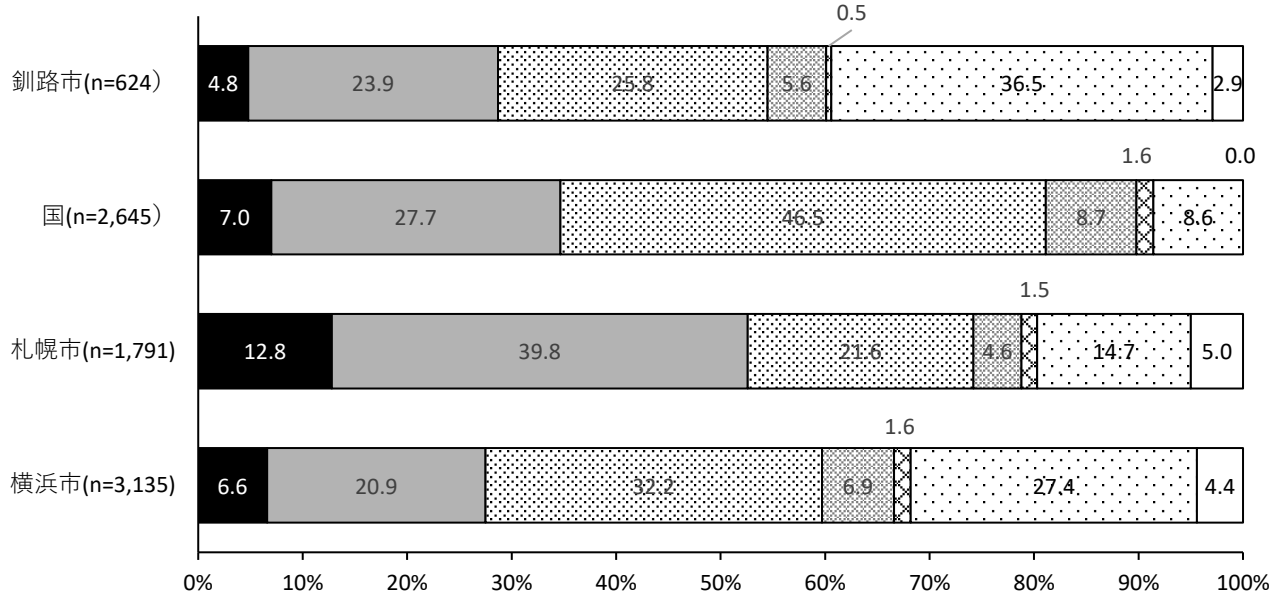
職場の中で：国・道・政令市との比較

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▣ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ 平等になっている
- ▩ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



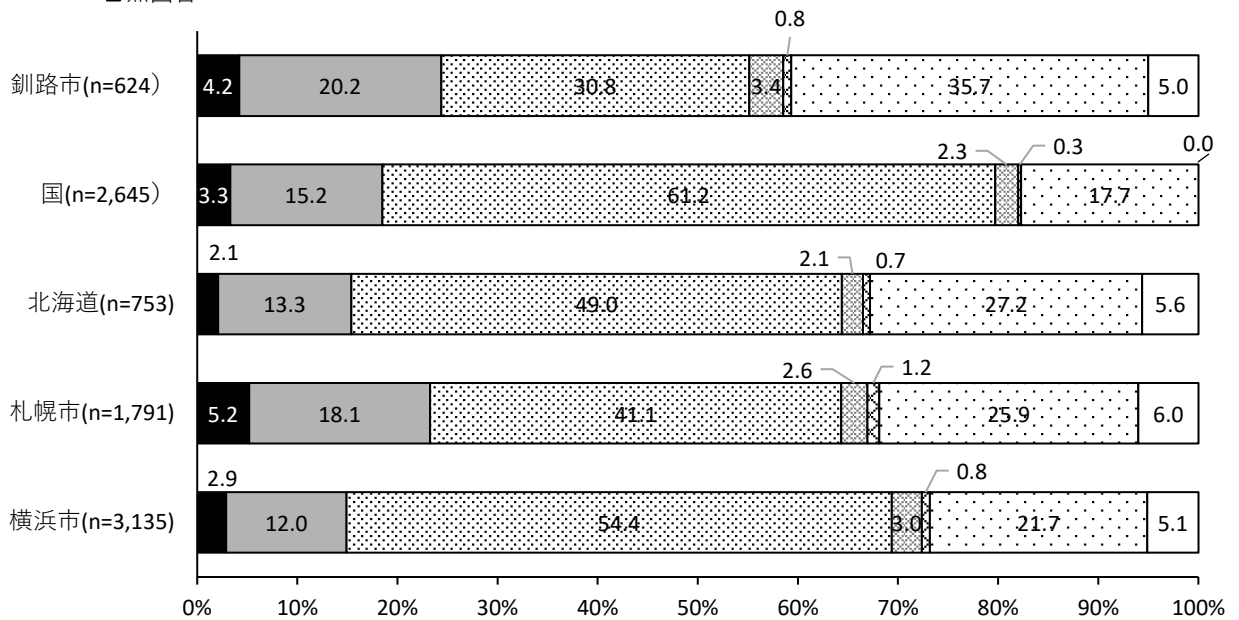
地域活動の場で：国・政令市との比較

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▣ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▤ 平等になっている
- ▥ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▧ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



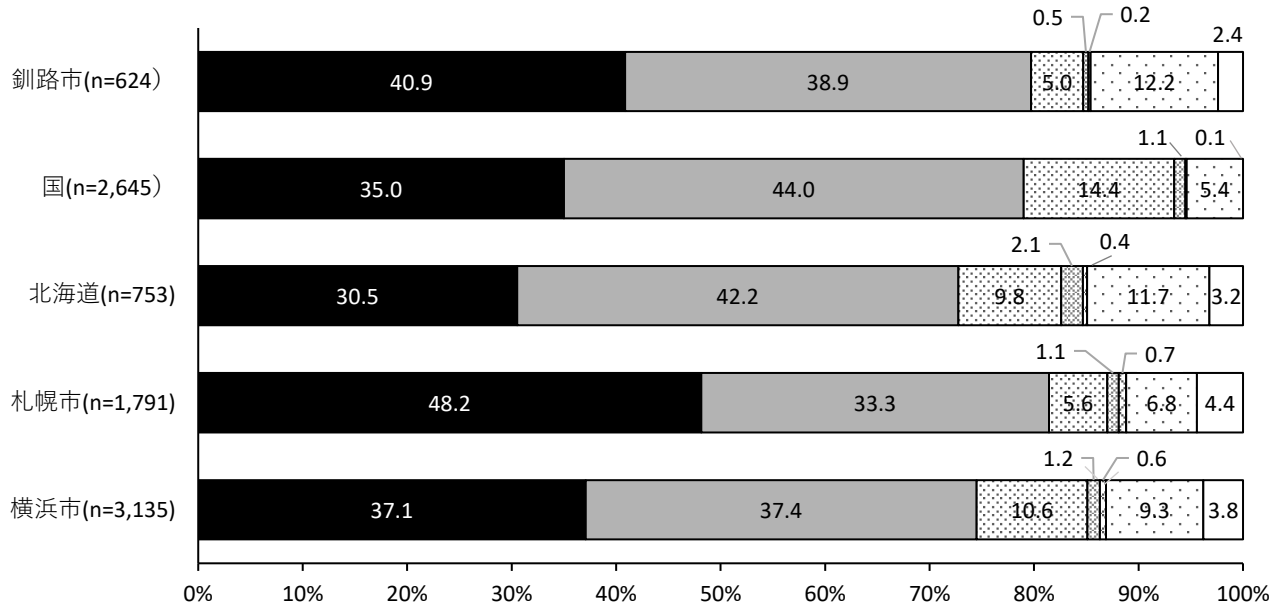
学校教育の場で：国・道・政令市との比較

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▣ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▤ 平等になっている
- ▥ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▧ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



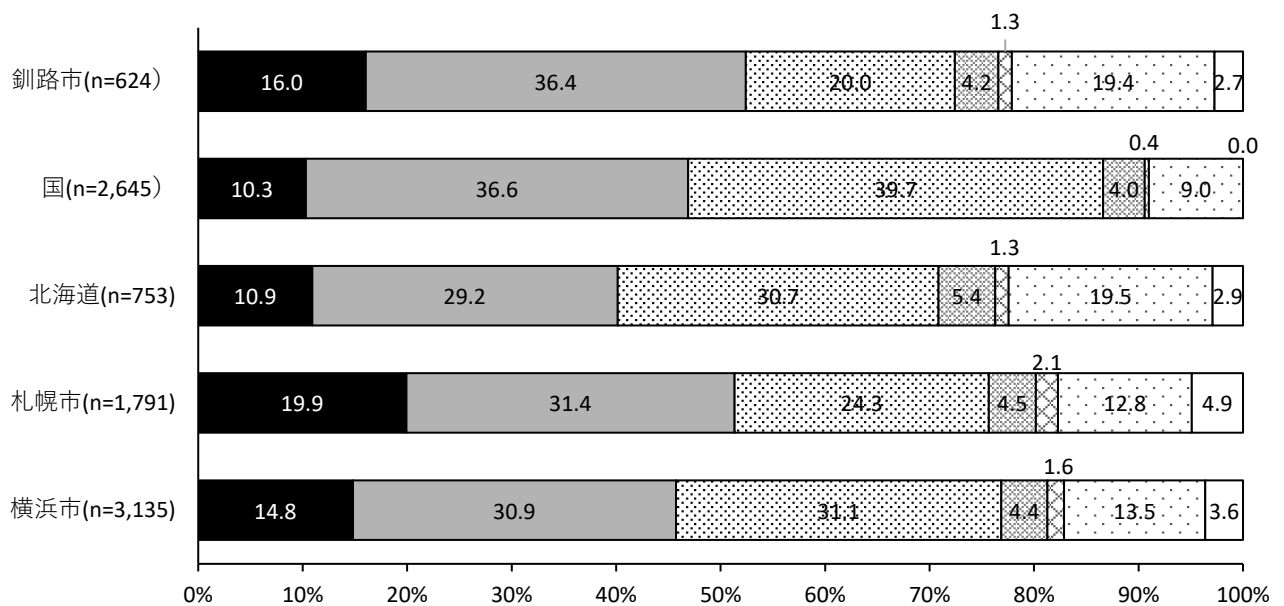
政治の場で：国・道・政令市との比較

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ 平等になっている
- ▩ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▧ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



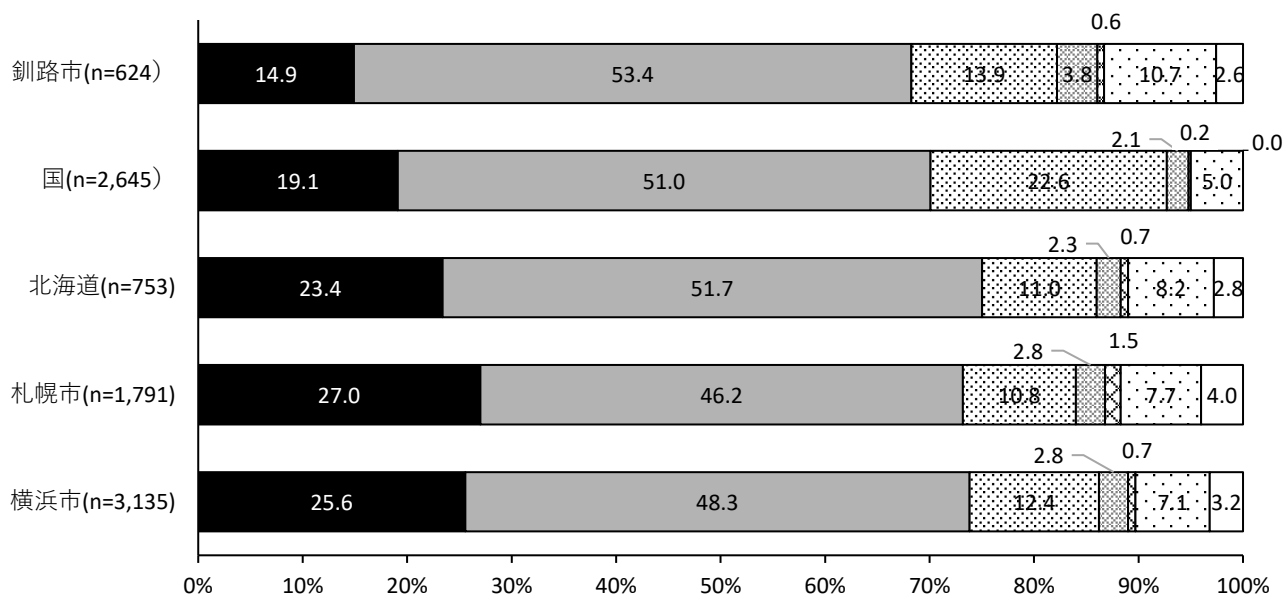
法律や制度の上で：国・道・政令市との比較

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ 平等になっている
- ▩ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▧ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



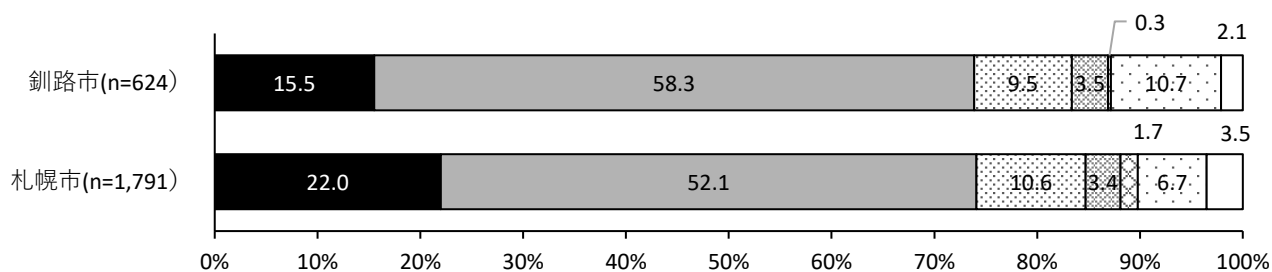
社会常識や見解などで：国・道・政令市との比較

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ 平等になっている
- ▩ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▧ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



社会全体として：政令市との比較

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ 平等になっている
- ▩ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▧ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



問2 家庭生活や結婚についての考え方

○家庭生活や結婚についての考え方

・「男は仕事、女は家庭」という役割分担の考え方に対しては、「どちらかといえば反対」「反対」と答えた人の割合は合計で48.2%で、「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合の合計12.1%を36.1ポイント上回っている。(P16)

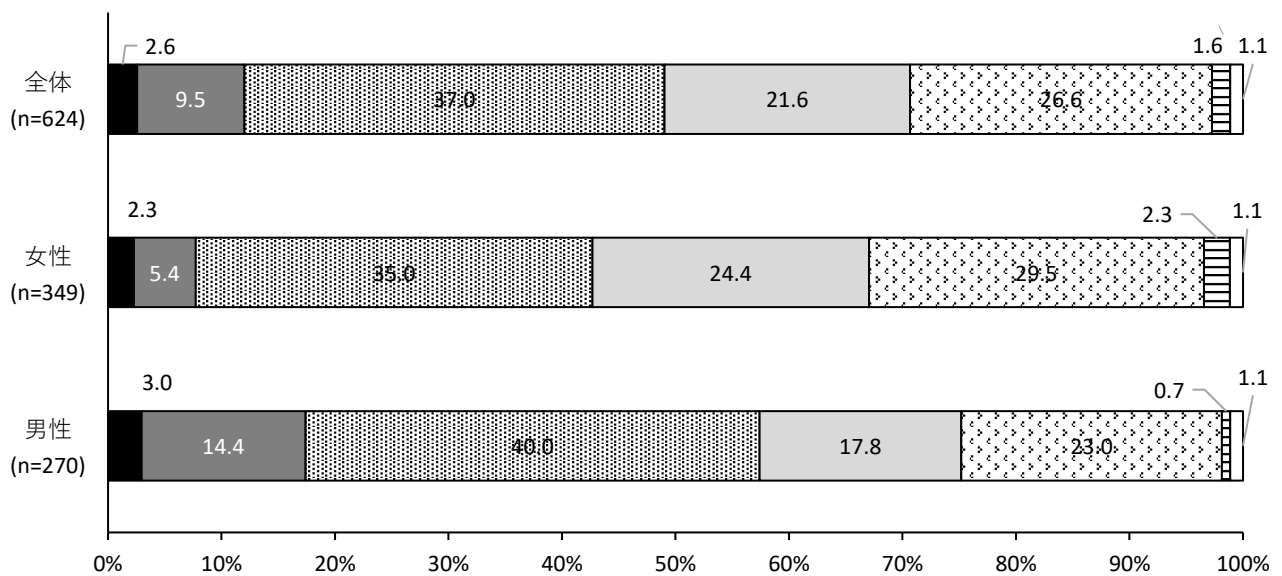
・男女別でみると、男性では「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計は17.4%で、女性の割合の合計7.7%と比較すると2倍以上の割合となっている。(P16)

・前回調査と比較すると「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合は、前回の32.9%から12.1%へ大きく低下している。(P16)

※前回調査における問は「賛成、反対」ではなく「共感できるかどうか」であった。

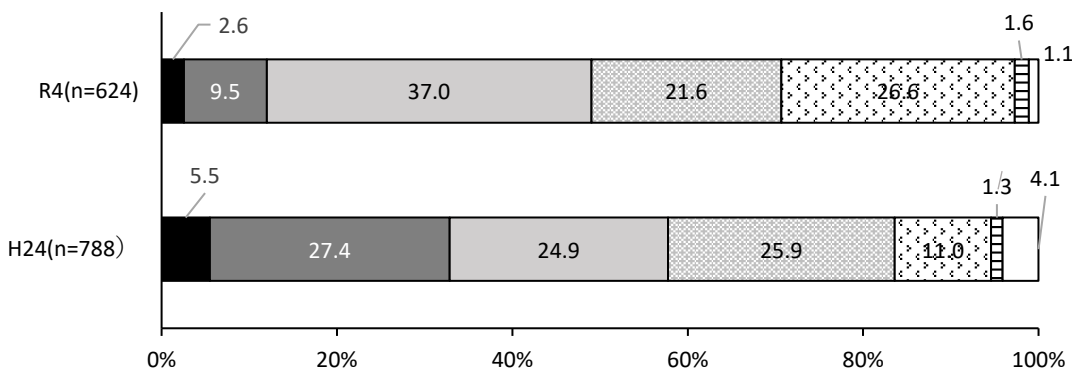
問2ア 男は仕事、女は家庭という役割分担の考え方

■賛成 ■どちらかといえば賛成 ■どちらともいえない □どちらかといえば反対 □反対 □わからない □無回答



男は仕事、女は家庭という役割分担の考え方：前回調査との比較

■賛成 ■どちらかといえば賛成 ■どちらともいえない
 □どちらかといえば反対 □反対 □わからない □無回答



※ 前回調査の選択肢は、「賛成」「反対」ではなく、「共感できる」「共感できない」としていた。

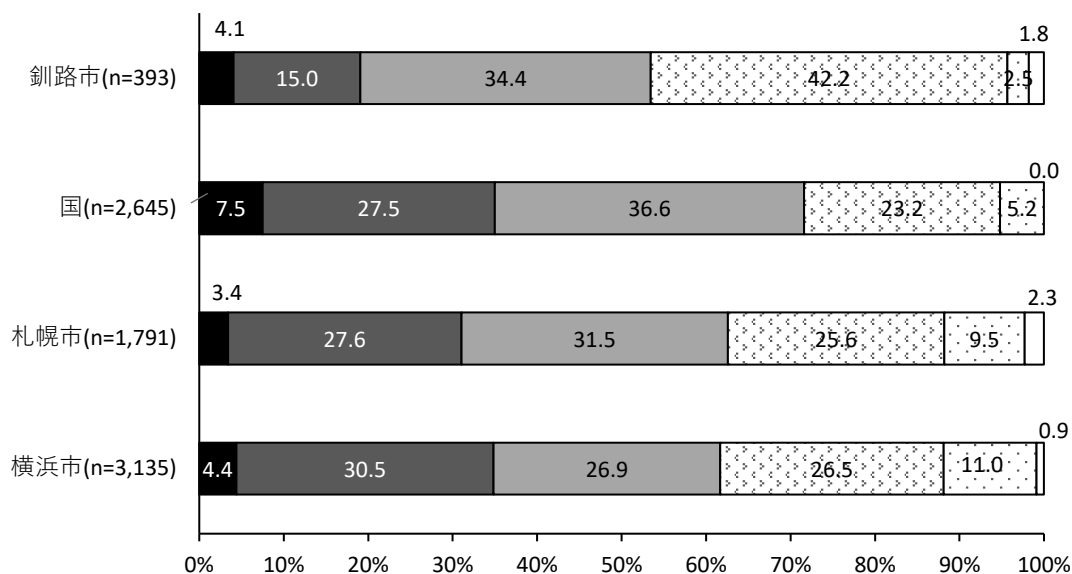
【参考】国・政令市との比較

○国・政令市と比較すると、男は仕事、女は家庭という考え方に「賛成」「どちらかといえば賛成」とする回答割合は低くなり、「反対」とする割合は高くなっている。(P17)

※釧路市の調査には、他の調査にはない選択肢「どちらともいえない」が含まれているため、回答結果から「どちらともいえない(231件)」を除外したうえで再計算し、比較を行っている。

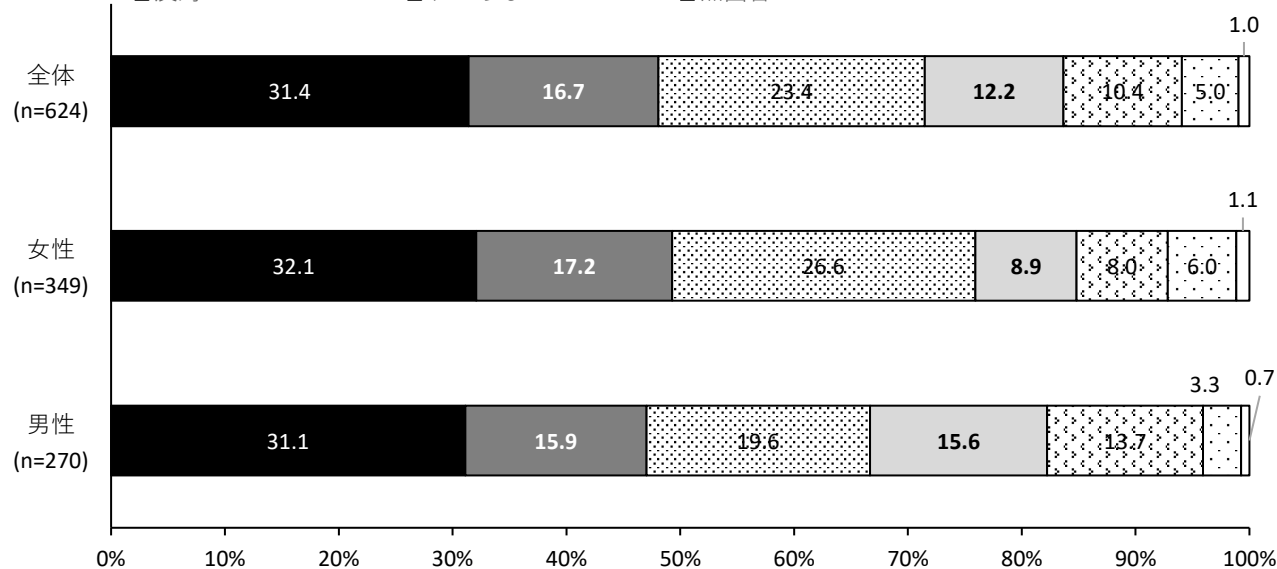
男は仕事、女は家庭という役割分担の考え方

■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ■ どちらかといえば反対 □ 反対 □ わからない □ 無回答

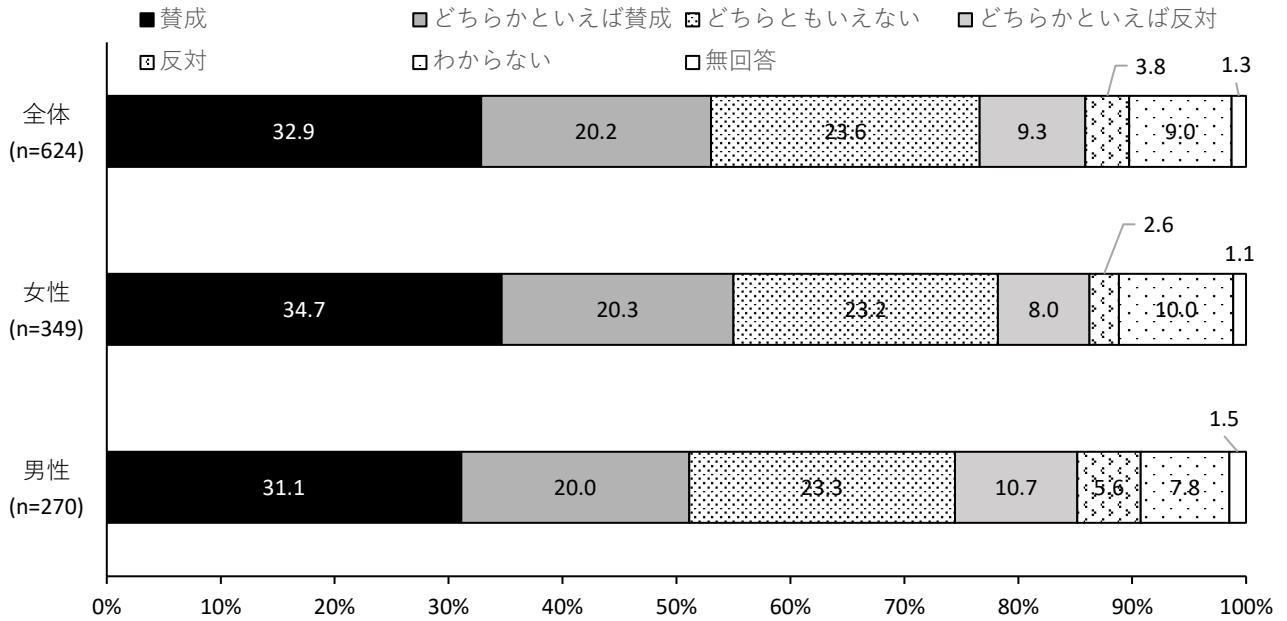


問2イ 夫婦は戸籍上、別々の姓を名乗ってもかまわない

■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ■ どちらともいえない □ どちらかといえば反対 □ 反対 □ わからない □ 無回答



問2ウ 結婚後、通称として旧姓使用が可能な範囲が広がるほうがよい

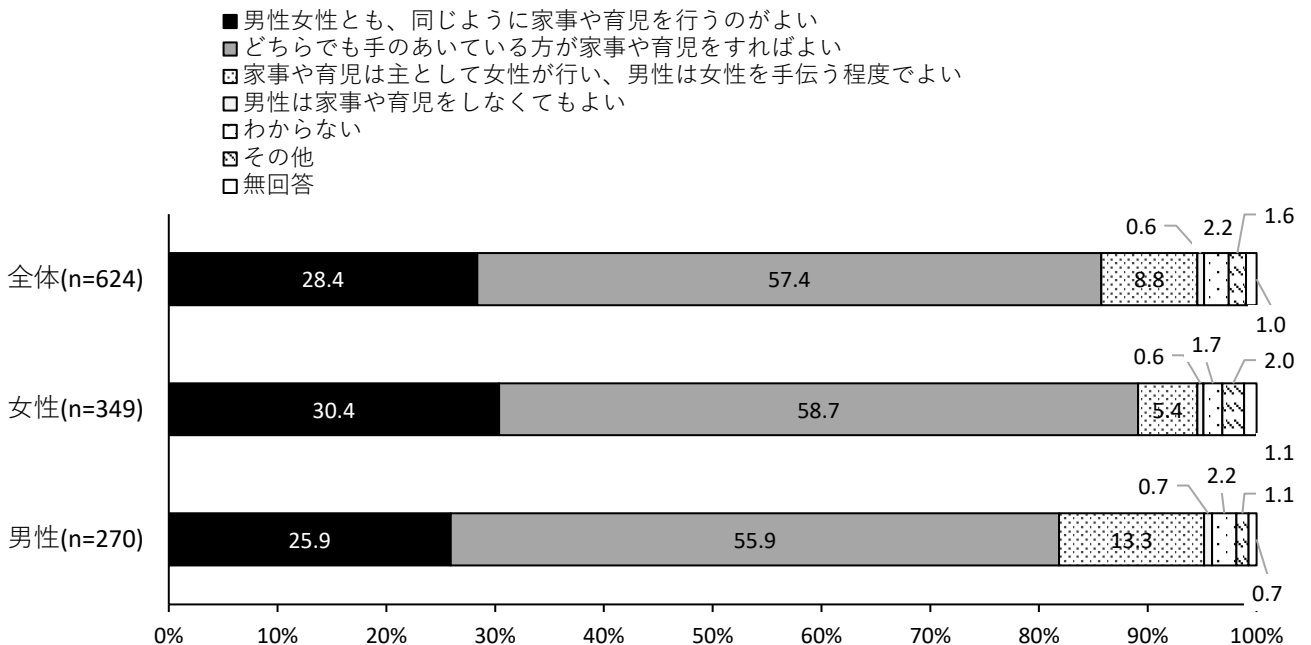


問3 共働き家庭での家事や育児の役割分担についてどのように考えますか。

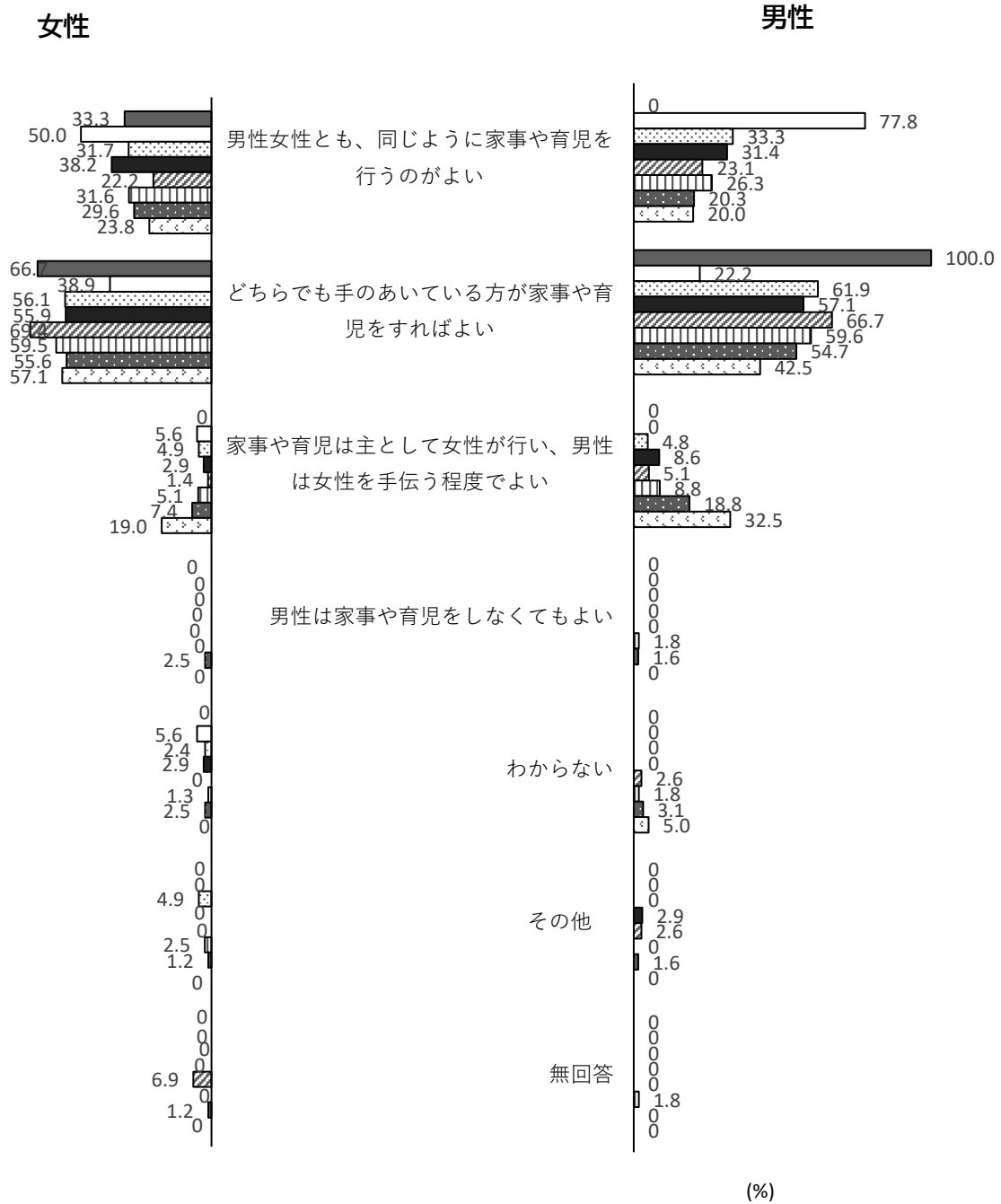
○共働き家庭での家事や育児の役割分担

・男性・女性ともに「どちらでも手のあいている方が家事や育児をすればよい」とする回答の割合が最も高くなっている。「男性女性とも、同じように家事や育児を行うのがよい」の回答割合は、女性の方が男性よりも4.5ポイント高くなっている。

・前回調査と比較すると「家事や育児は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」と回答した割合は、前回の21.3%から8.8%へと大きく低下している。



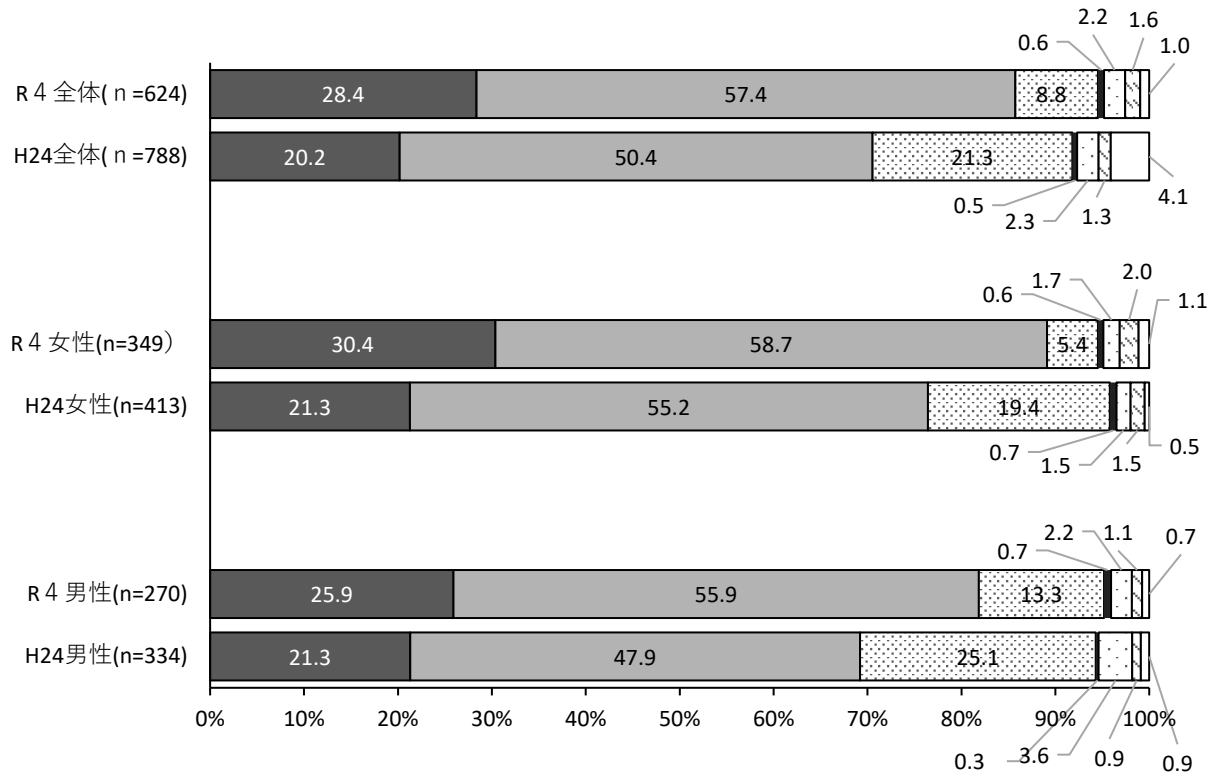
問3 共働き家庭での家事や育児の役割分担について：年代別・性別回答



■ 18~20歳 □ 21~29歳 ▨ 30~39歳 ■ 40~49歳
 ▩ 50~59歳 □ 60~69歳 ■ 70~79歳 □ 80歳以上

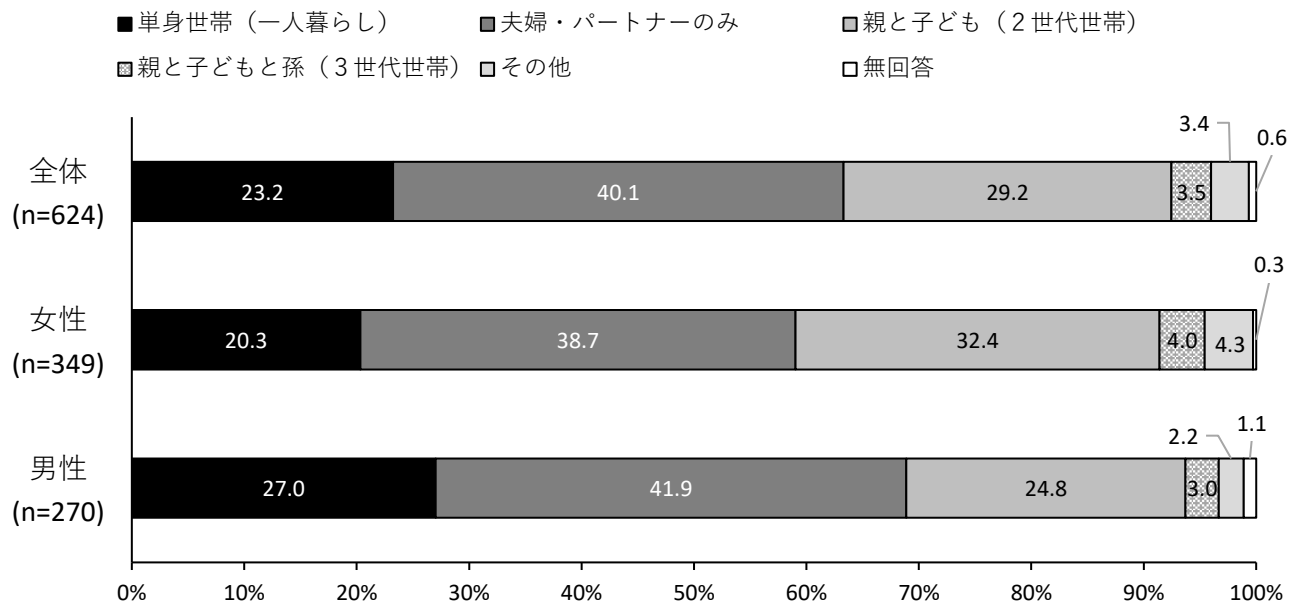
家事や育児の役割分担：前回調査との比較

- 男性女性とも、同じように家事や育児を行うのがよい
- ▣ どちらでも手のあいている方が家事や育児をすればよい
- ▨ 家事や育児は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい
- 男性は家事や育児をしなくてもよい
- わからない
- その他
- 無回答



【家庭生活について】

問4 世帯構成はどのようになっていますか



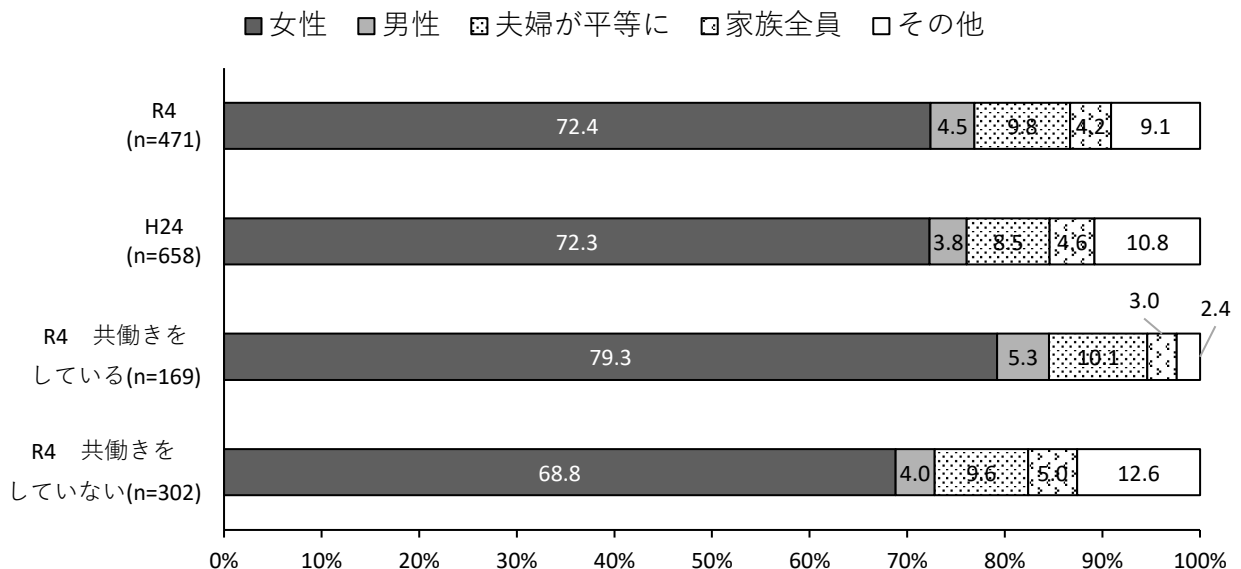
問5 あなたの家庭では、次にあげる仕事はどなたが主にしていますか。

○家庭生活における仕事の分担について

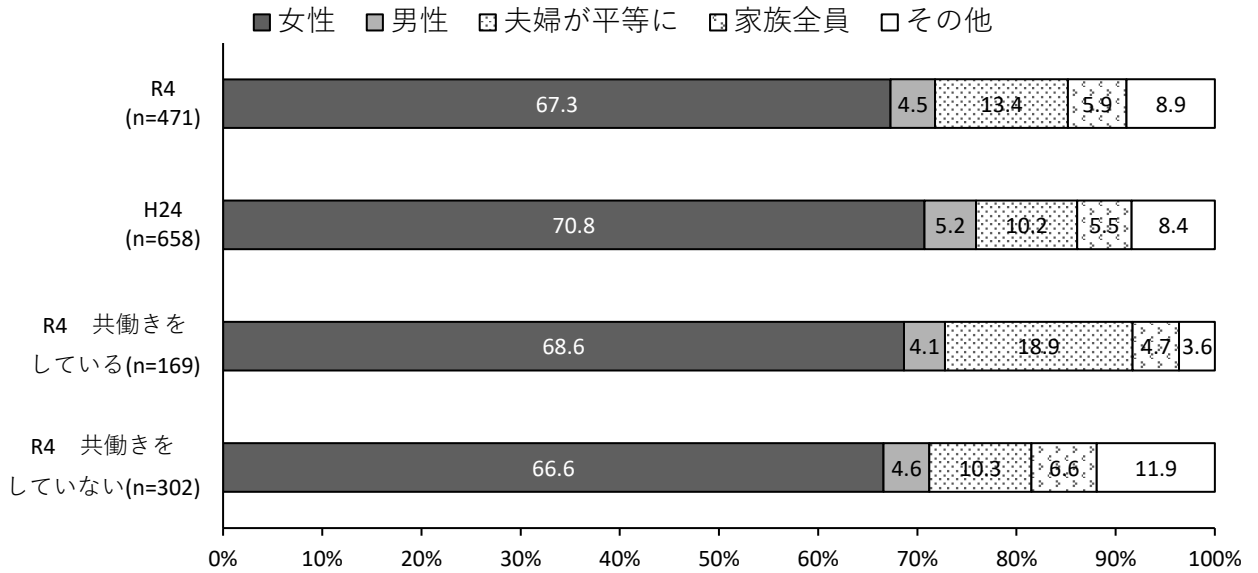
・いずれの項目でも主に女性が家事を行っているという回答割合が高く、共働きの家庭とそうではない家庭においても、主に女性が家事を行う状況にはほとんど差がない。(P21~24)

・前回調査と比較すると、主に女性が家事を行っている割合は「炊事」を除いて低下しており、女性の家事負担について軽減の傾向がみられる。(P21~23)

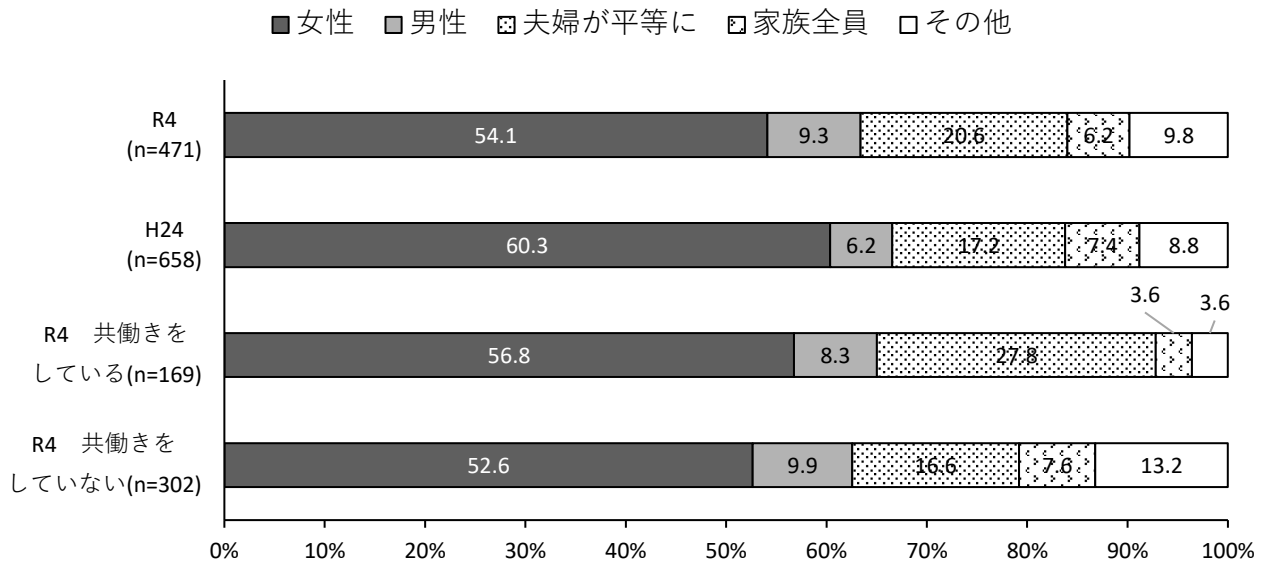
炊 事



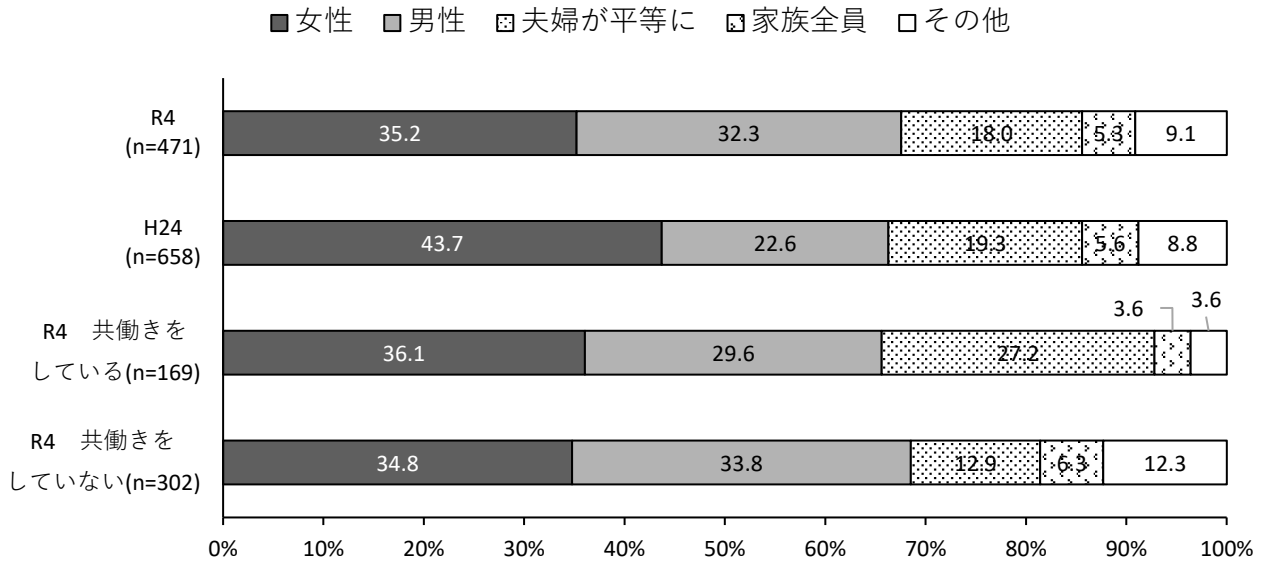
洗 濯



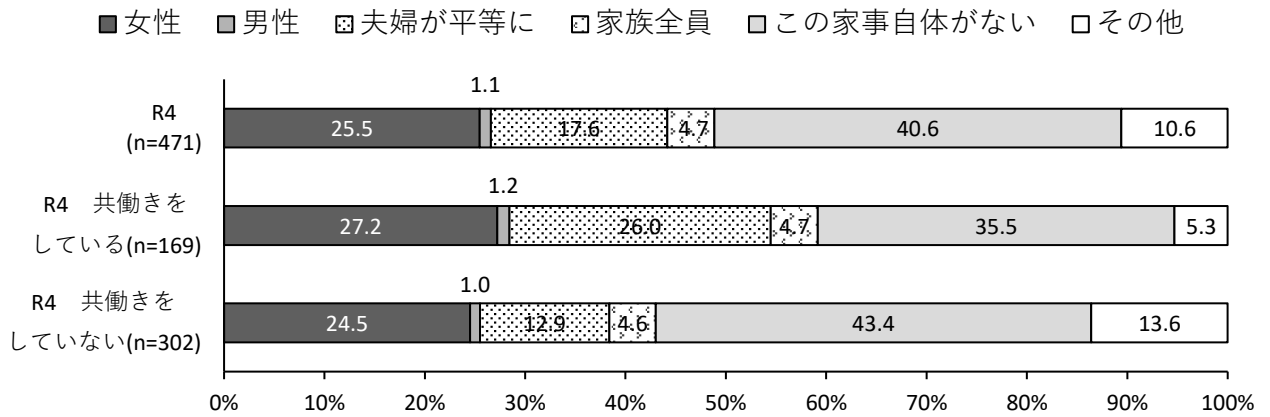
掃 除



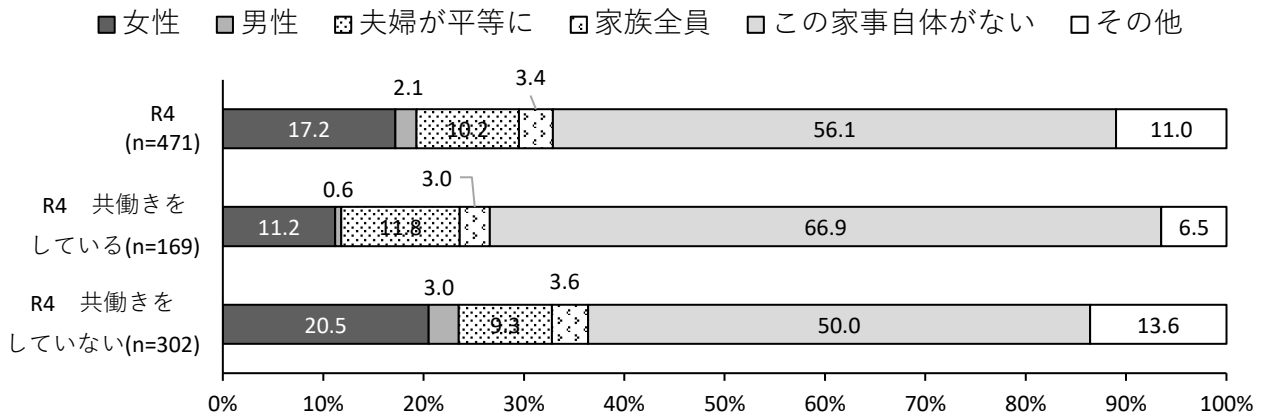
ゴミ出し



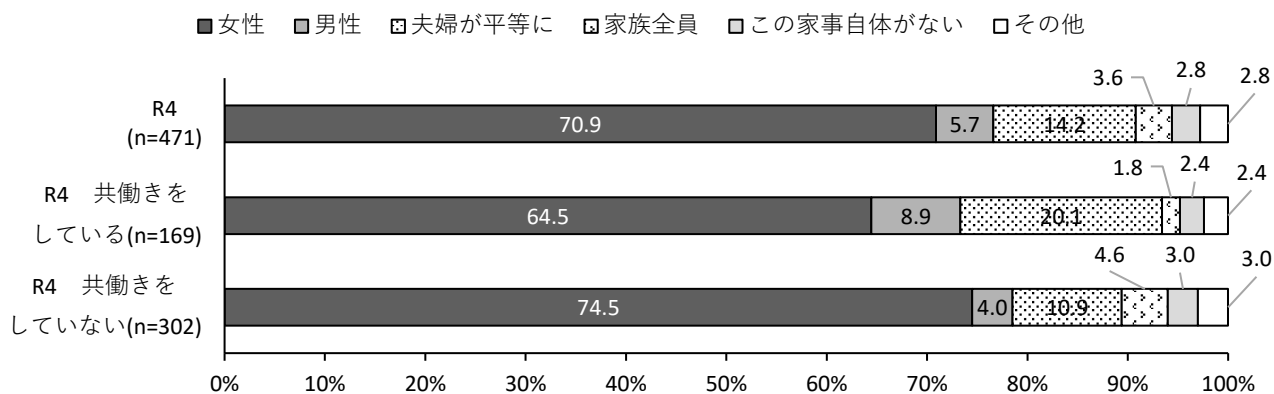
子どもの世話・しつけ



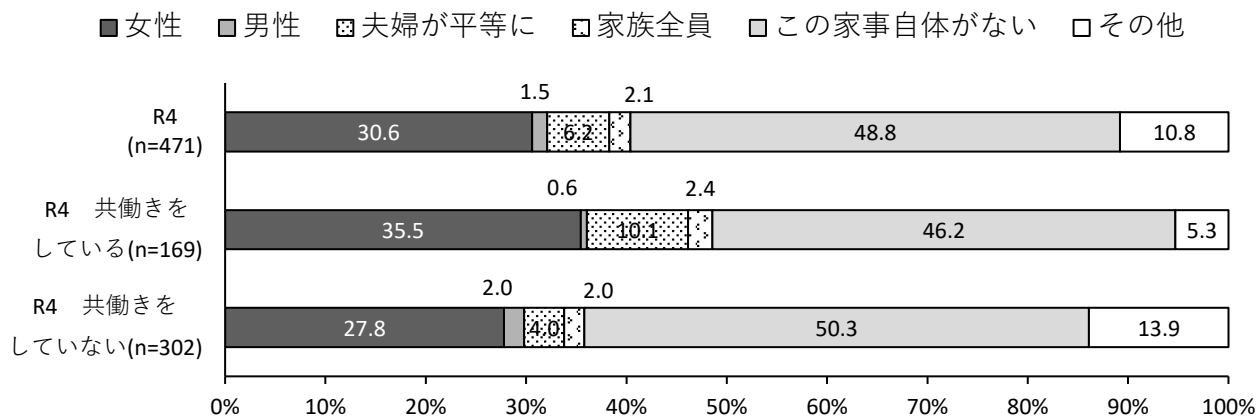
家族の介護



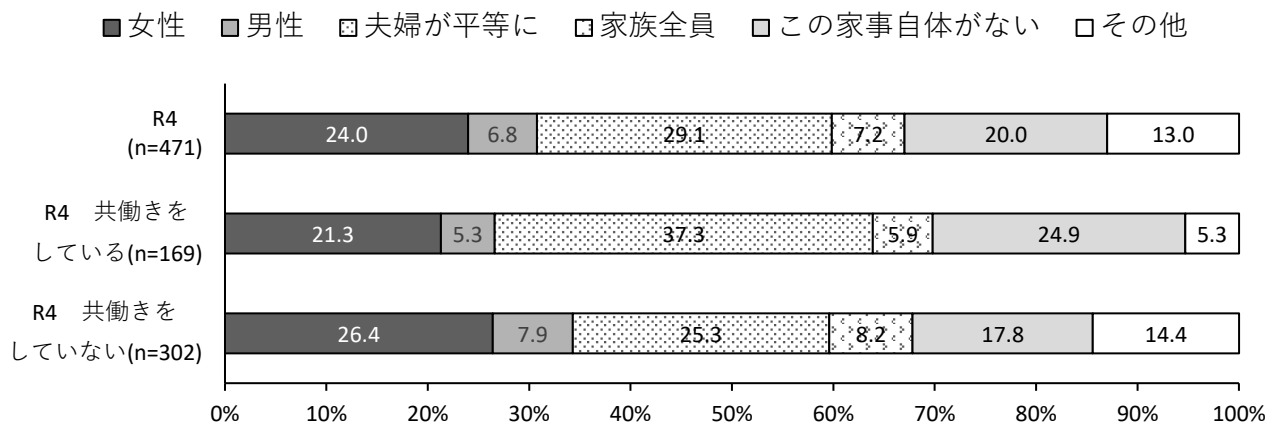
家計の管理



学校行事・PTA活動



地域活動・近所づきあい

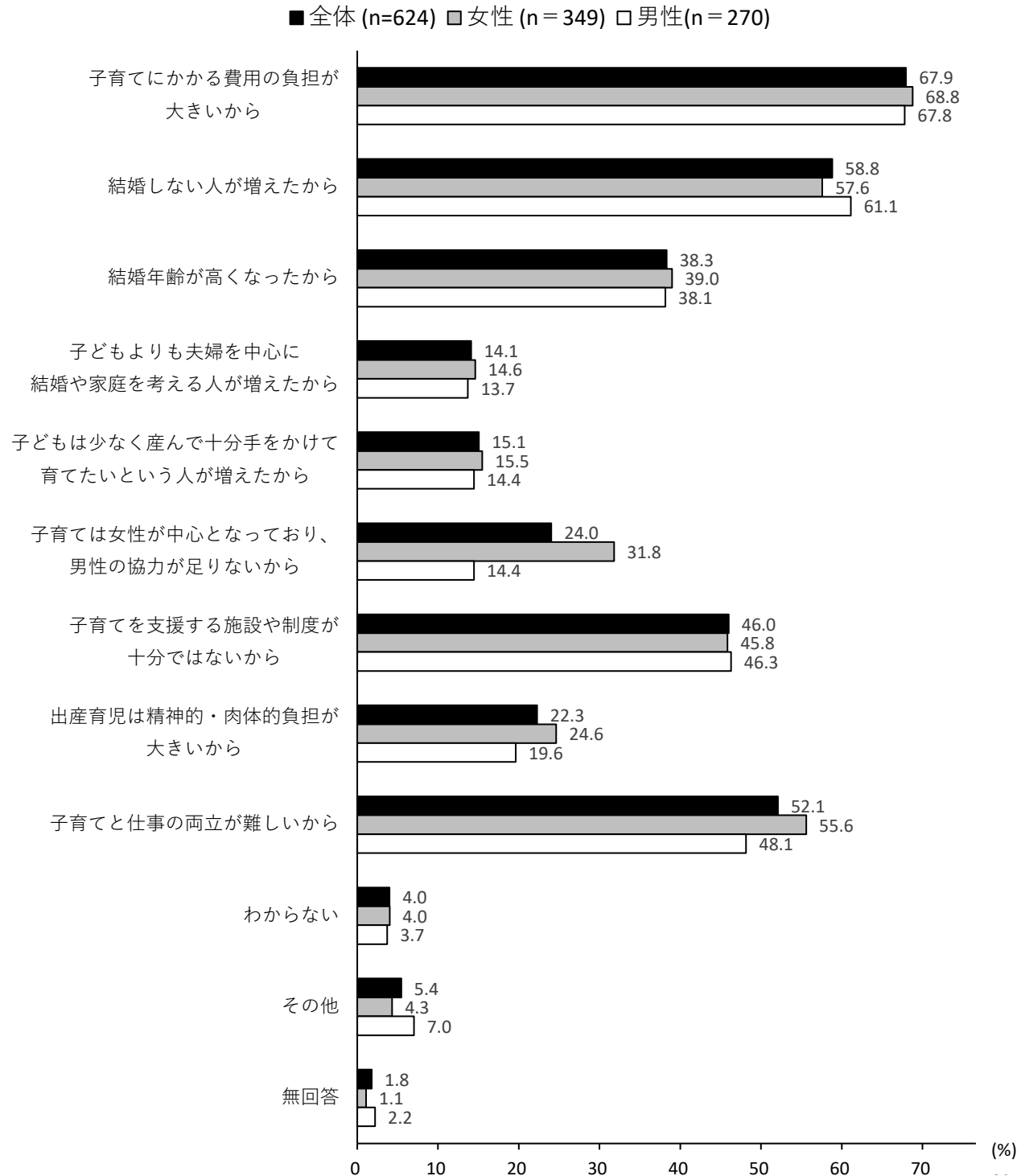


問6 「少子化」の原因として感じていることは何ですか（複数回答）

○少子化の原因について

・回答割合の高い順から「子育てにかかる費用の負担が大きいから」67.9%、「結婚しない人が増えたから」58.8%、「子育てと仕事の両立が難しいから」52.1%、「子育てを支援する施設や制度が十分ではないから」46.0%となり、前回調査とは多少順位は異なるが、上位の項目はほぼ同じとなっている。(P25・27)

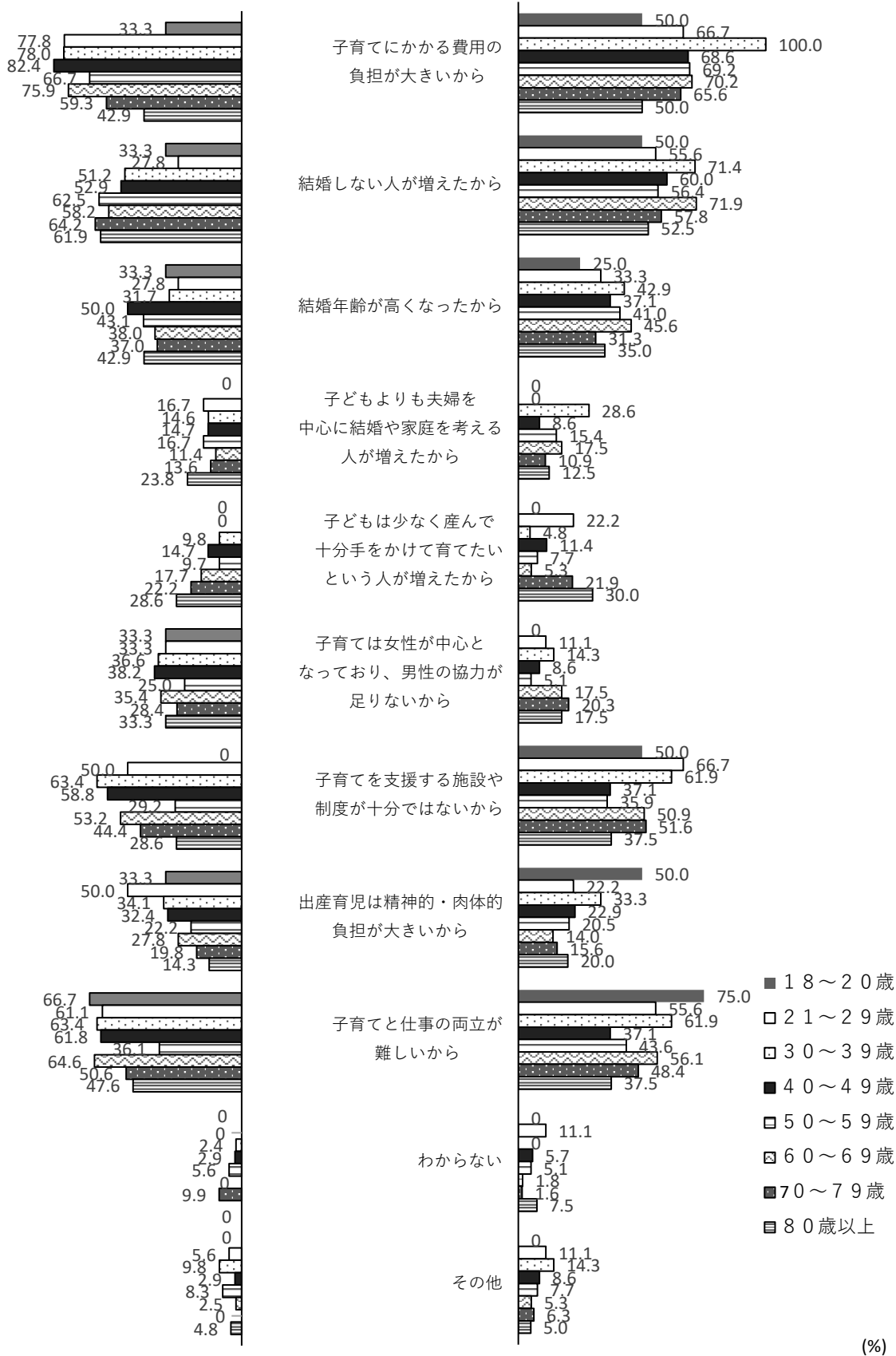
・前回調査と比較すると「子育てにかかる費用の負担が大きいから」は前回の57.9%から67.9%へと10ポイント上昇している。(P25・27)



問6 「少子化」の原因：年齢別・性別回答（複数回答）

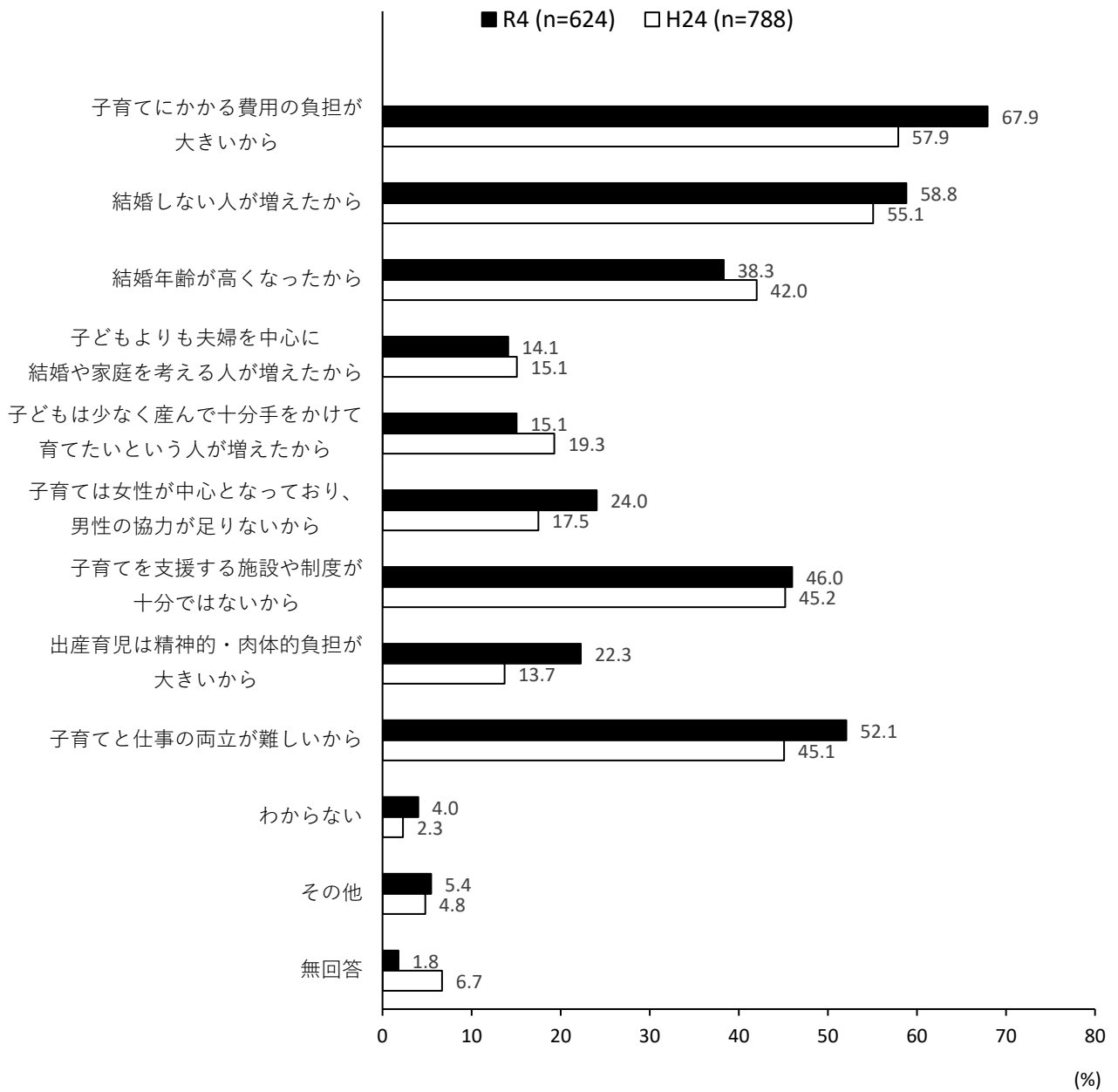
女性

男性



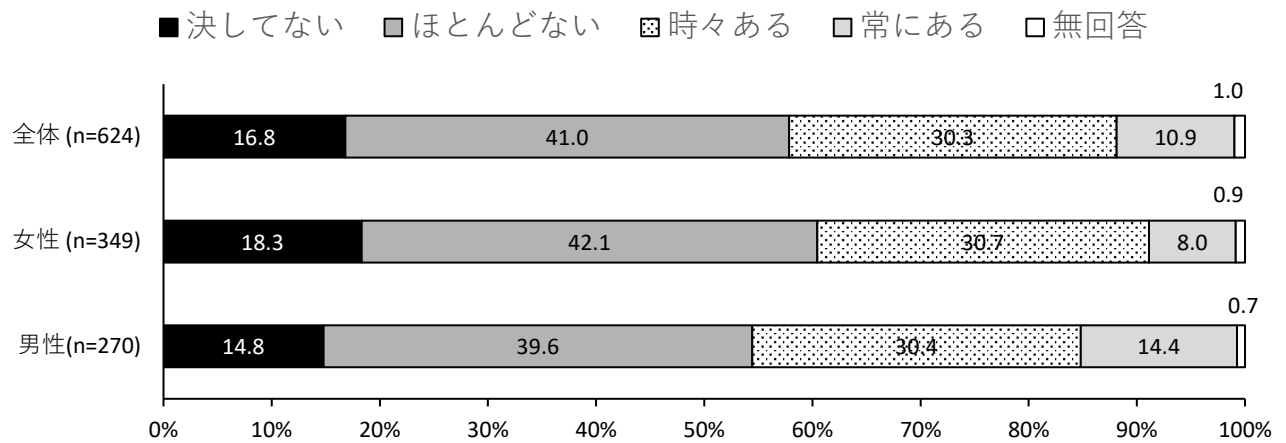
(%)

少子化の原因：前回調査との比較

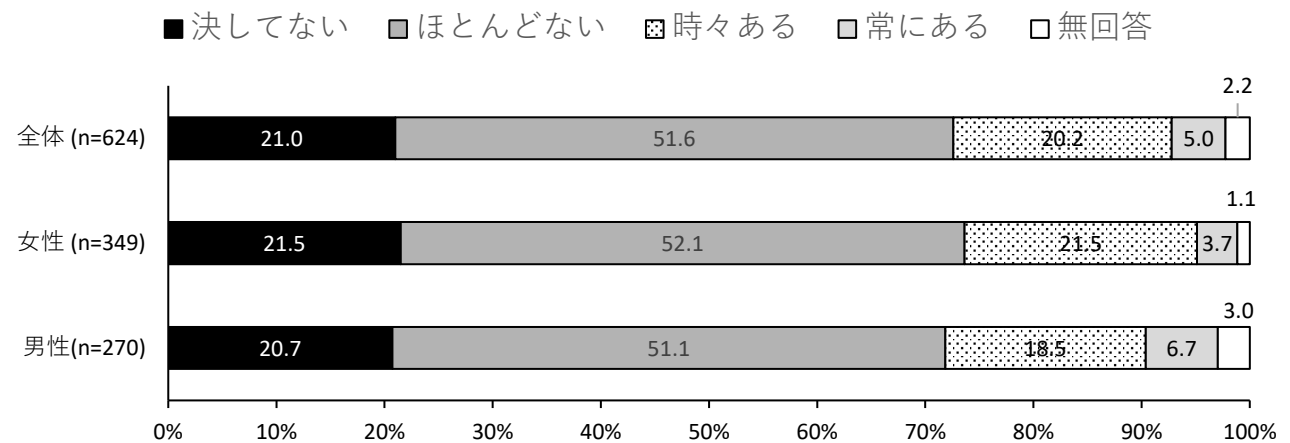


問7 人とのつながりについてどのように感じていますか。

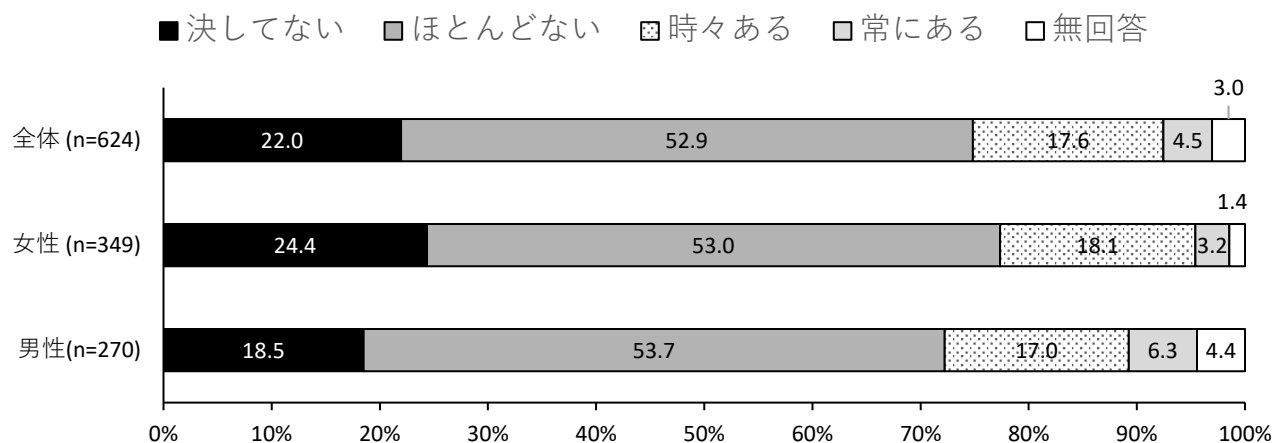
ア 自分には人との付き合いがないと感じること



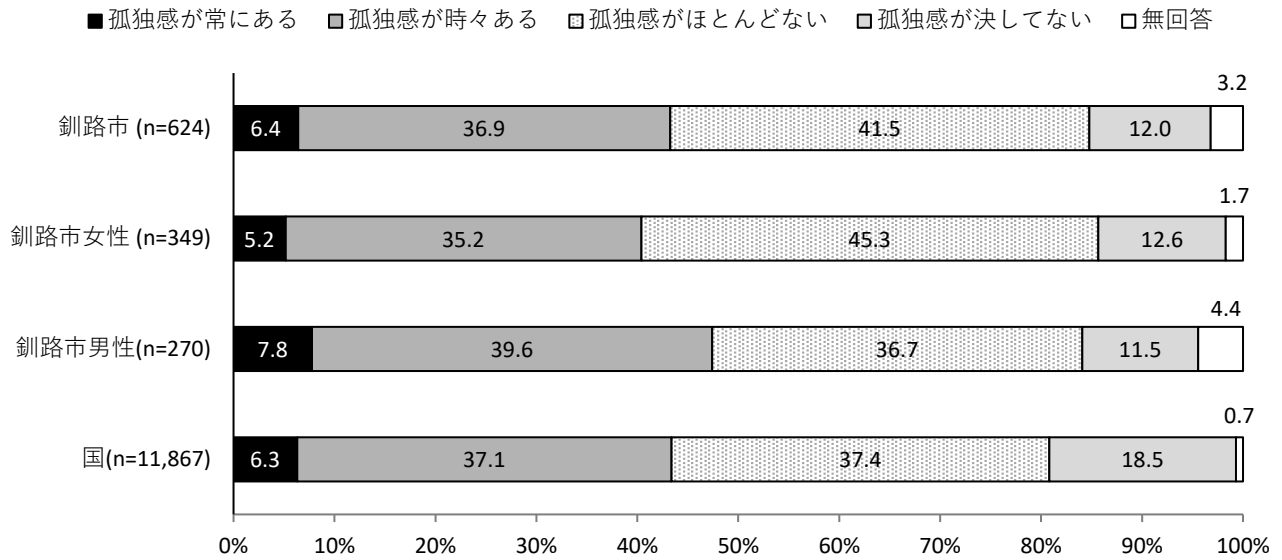
イ 自分は取り残されていると感じること



ウ 自分はほかの人たちから孤立していると感じること



参考：UCL A 孤独感尺度による国の調査との比較



○上記参考の集計方法について ※国の調査結果と比較するため、集計を行ったもの)

・国では、カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCL A) で考案された「UCL A 孤独感尺度」に基づき調査結果の取りまとめを行っているため、国と同じ設問である 問7ア～ウ の調査結果に対し、同様の集計方法を用いて取りまとめ、比較を行った。

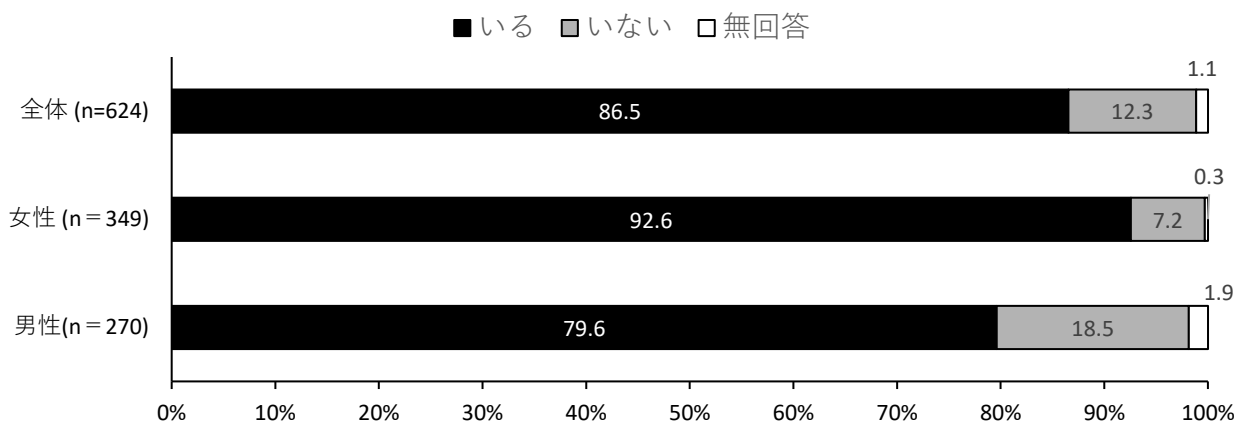
・「UCL A 孤独感尺度」とは、「孤独」という主観的な感情について、間接的な質問により数値的に測定するために考案されたもので、設問に対する回答を点数化して集計し、合計点数が高いほど「孤独感が高い」ということを表している。

・問7ア～ウ の設問それぞれに対する回答について、「決してない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点として点数化し、クロス集計を行った。

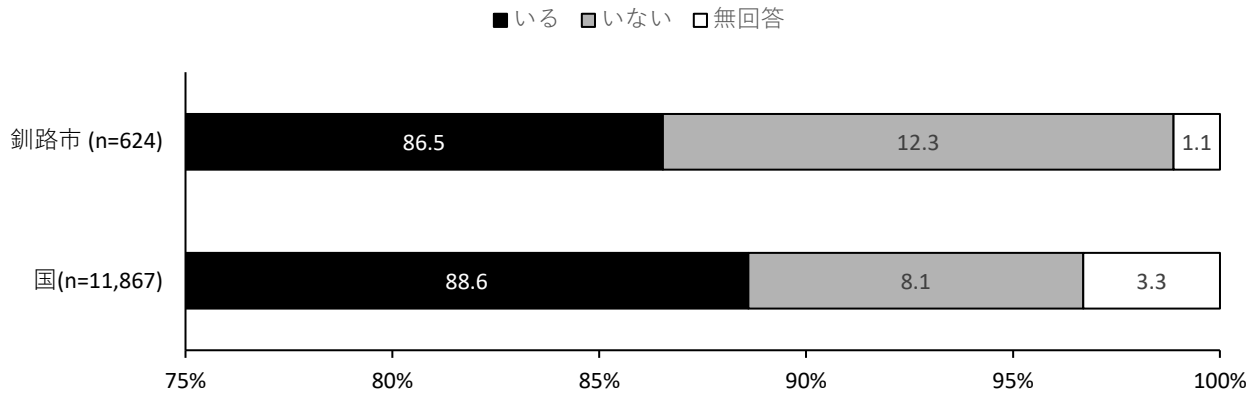
・クロス集計の結果を整理し、点数の高い順から「孤独感が常にある (10～12点)」「孤独感が時々ある (7～9点)」「孤独感がほとんどない (4～6点)」「孤独感が決してない (3点)」の4つに分類した。

・分類した結果を国と比較した結果が上記となる。

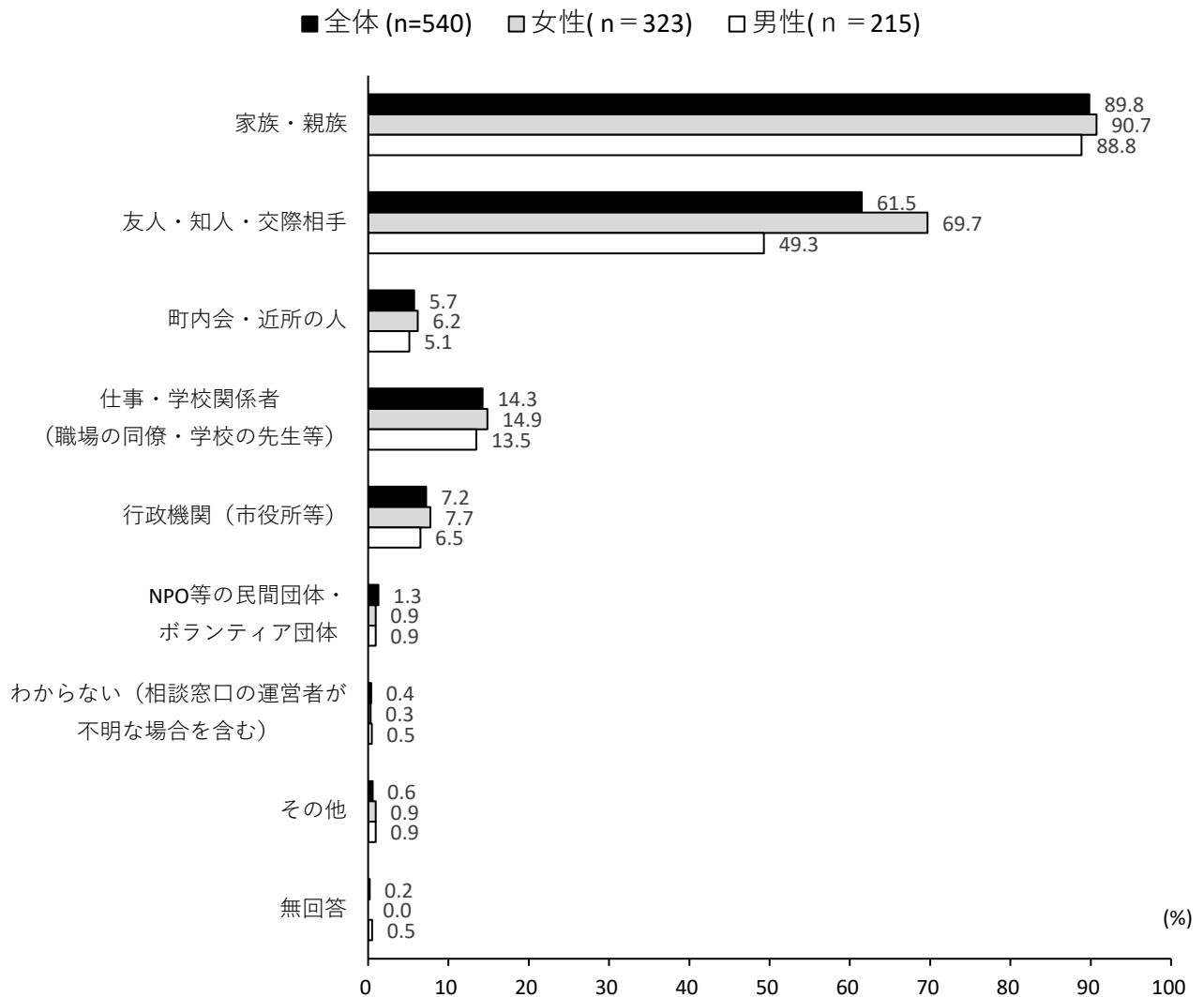
問8 不安や悩みが生じたとき、相談相手 (相談先) はいますか



相談相手の有無：国の調査との比較

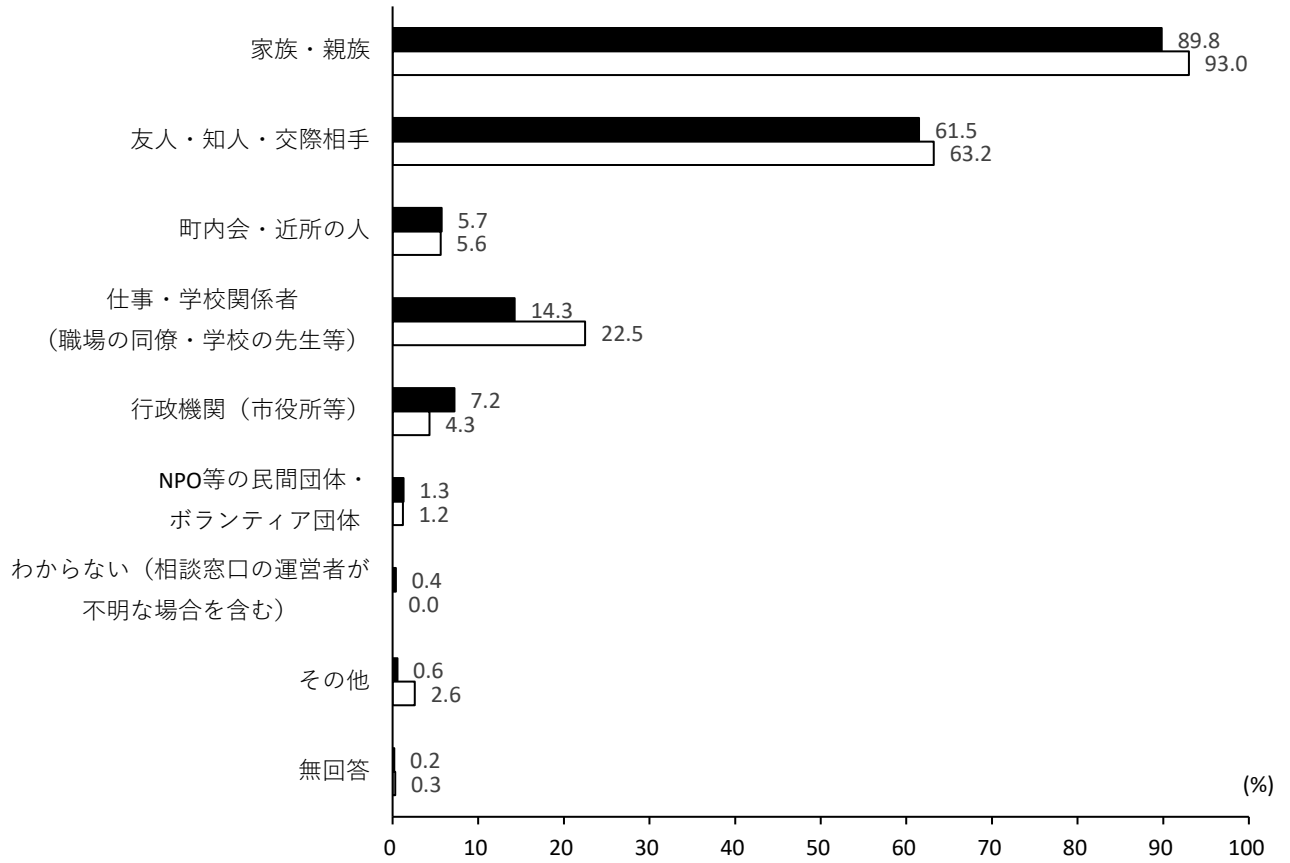


問8-1 相談相手がいると答えた方、どなたに相談しますか。(複数回答)



相談先：国の調査との比較

■ 釧路市 (n=540) □ 国 (n=10,515)

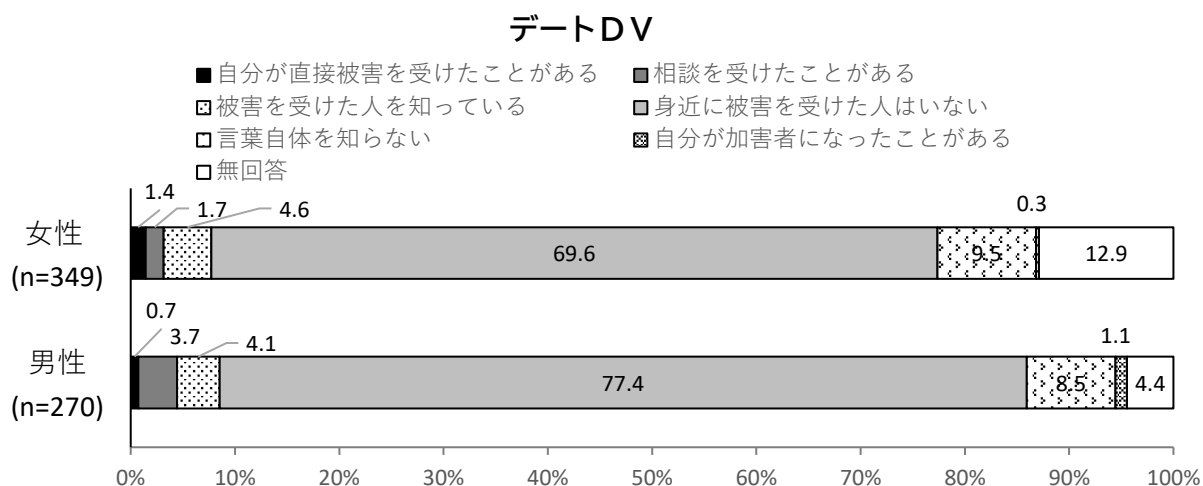
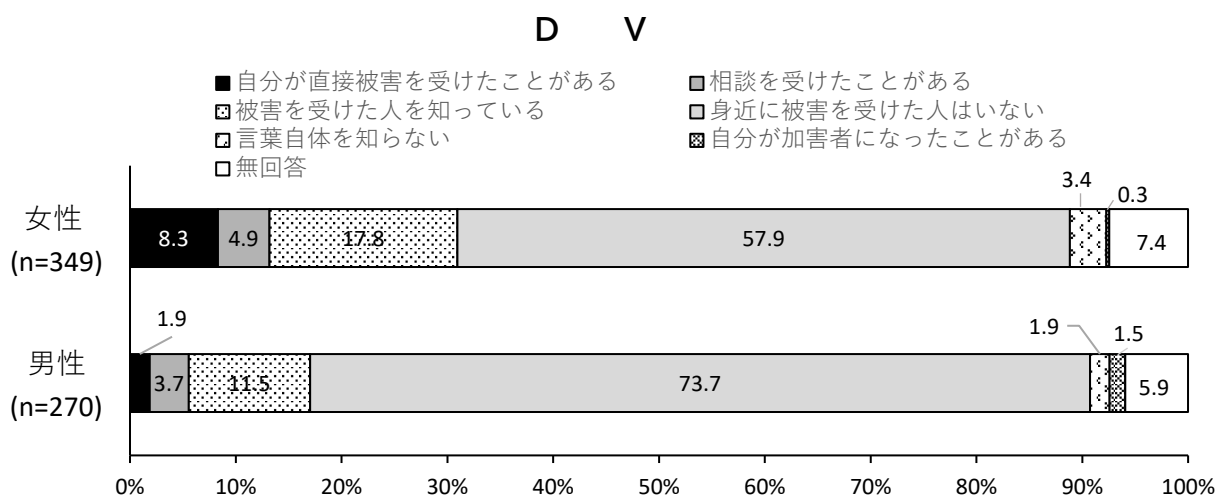


【人権について】

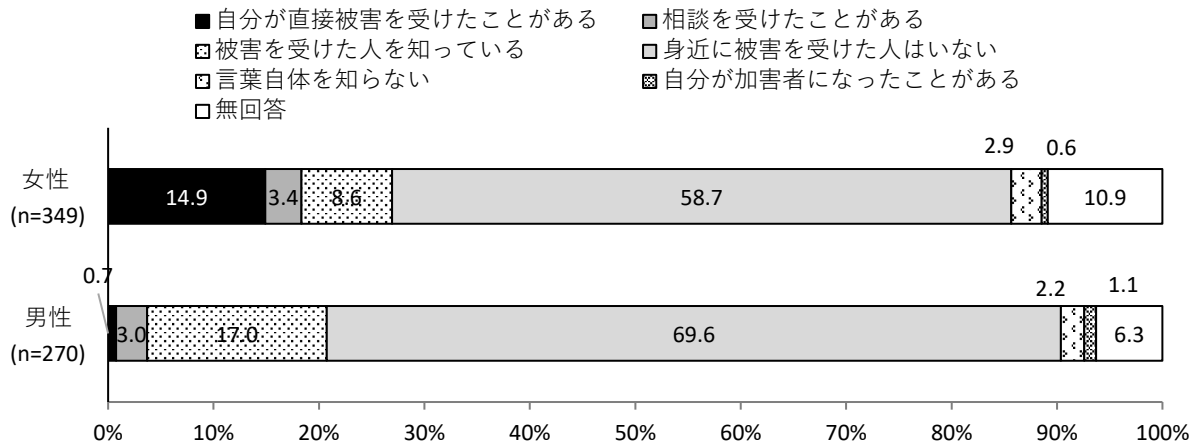
問9 DV（ドメスティック・バイオレンス、配偶者などからの暴力）、デートDV（若者の中で交際相手からふるわれる暴力）やセクシュアル・ハラスメント（セクハラ、性的嫌がらせ）について、身近で見聞きしたことがありますか。

○DV、デートDV、セクシュアルハラスメントについて

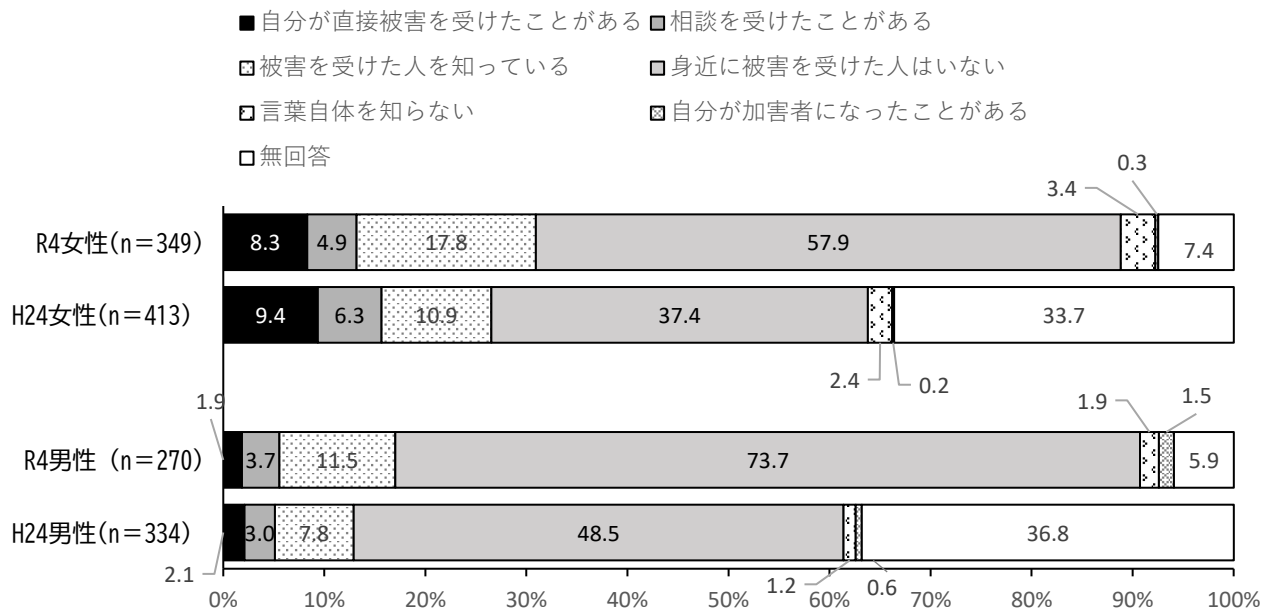
・「自分が直接被害を受けたことがある」と回答した女性の割合は、DV8.3%、デートDV1.4%、セクハラ14.9%で、前回調査と比較するとDV、デートDVでは低下しており、セクハラでは上昇している。（P32～34）



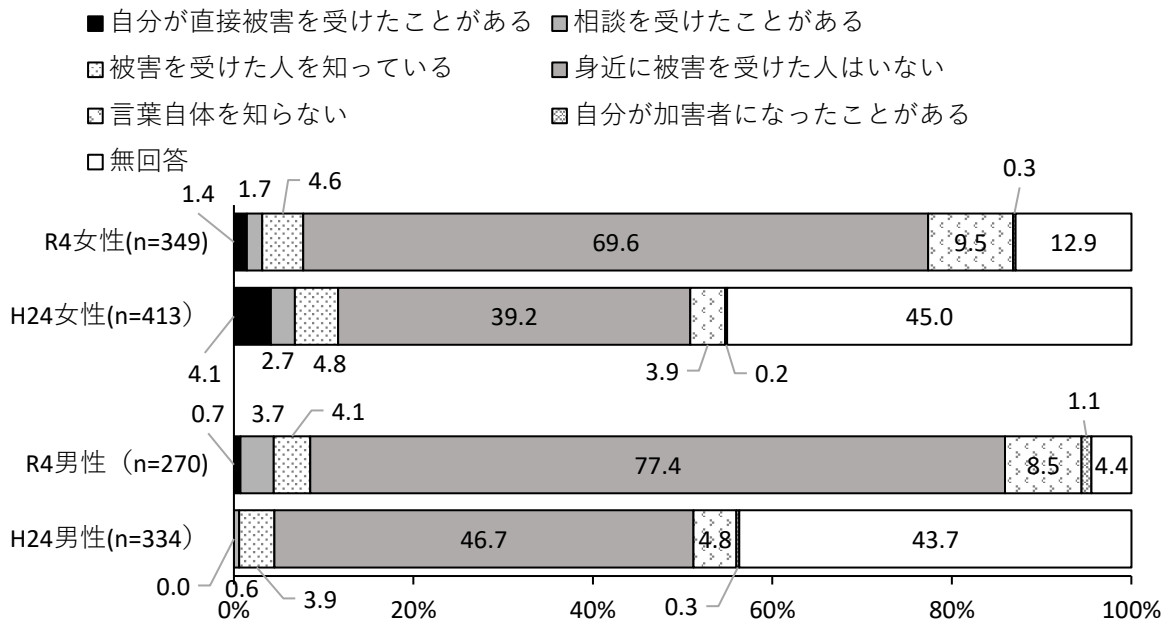
セクハラ



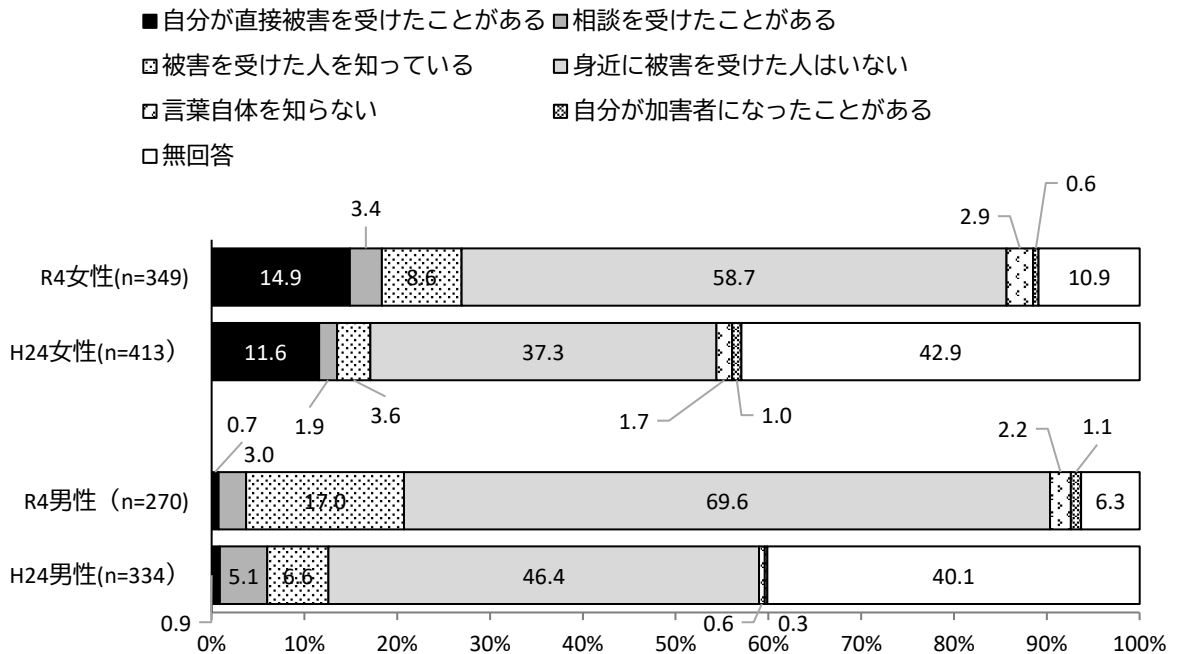
DV：前回調査との比較



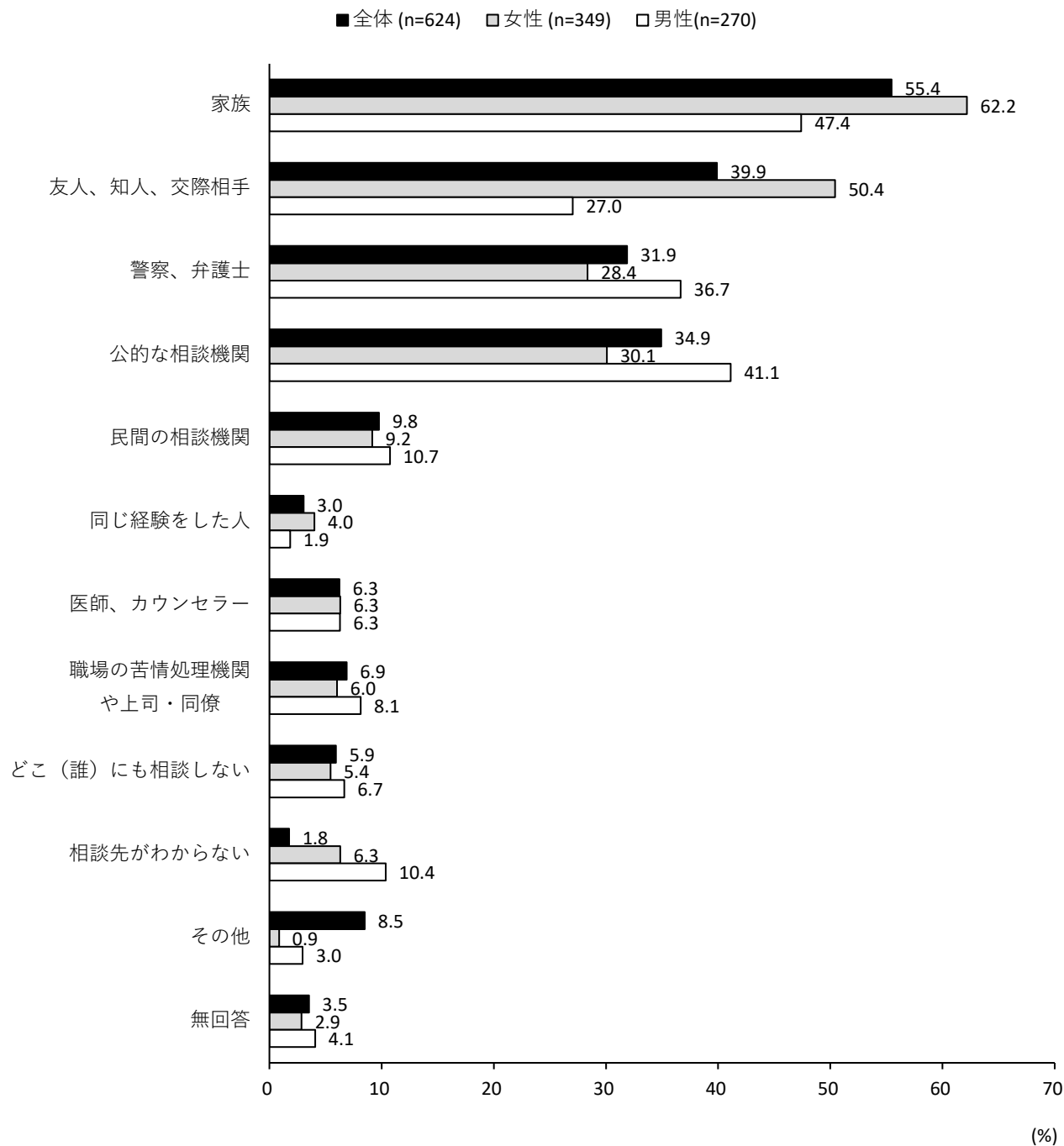
デートDV：前回調査との比較



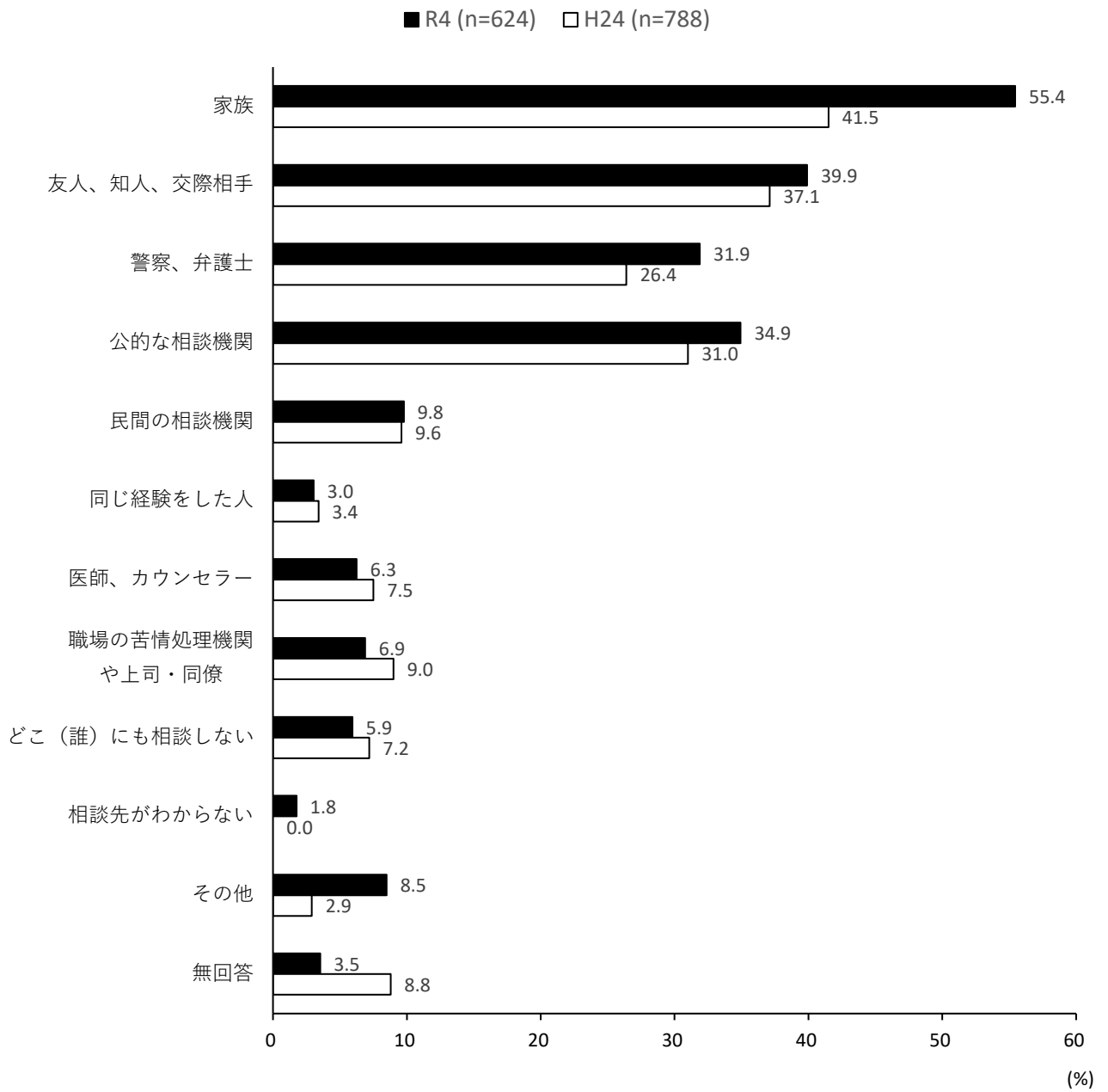
セクハラ：前回調査との比較



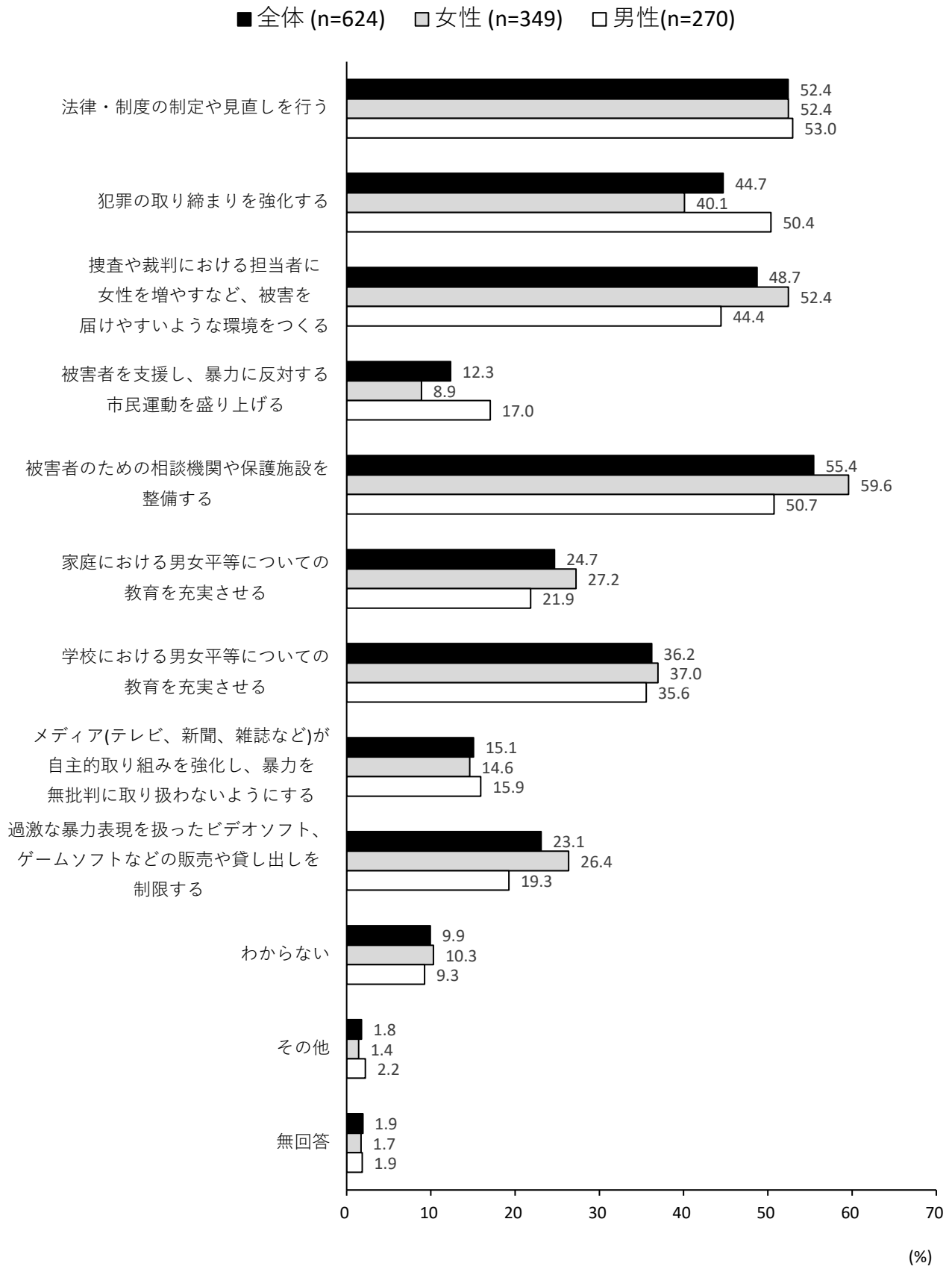
問10 もし、ドメスティック・バイオレンス、デートDV、セクシュアル・ハラスメントの被害にあったときは、どこ（誰）に相談しますか。（複数回答）



DV等の相談先：前回調査との比較

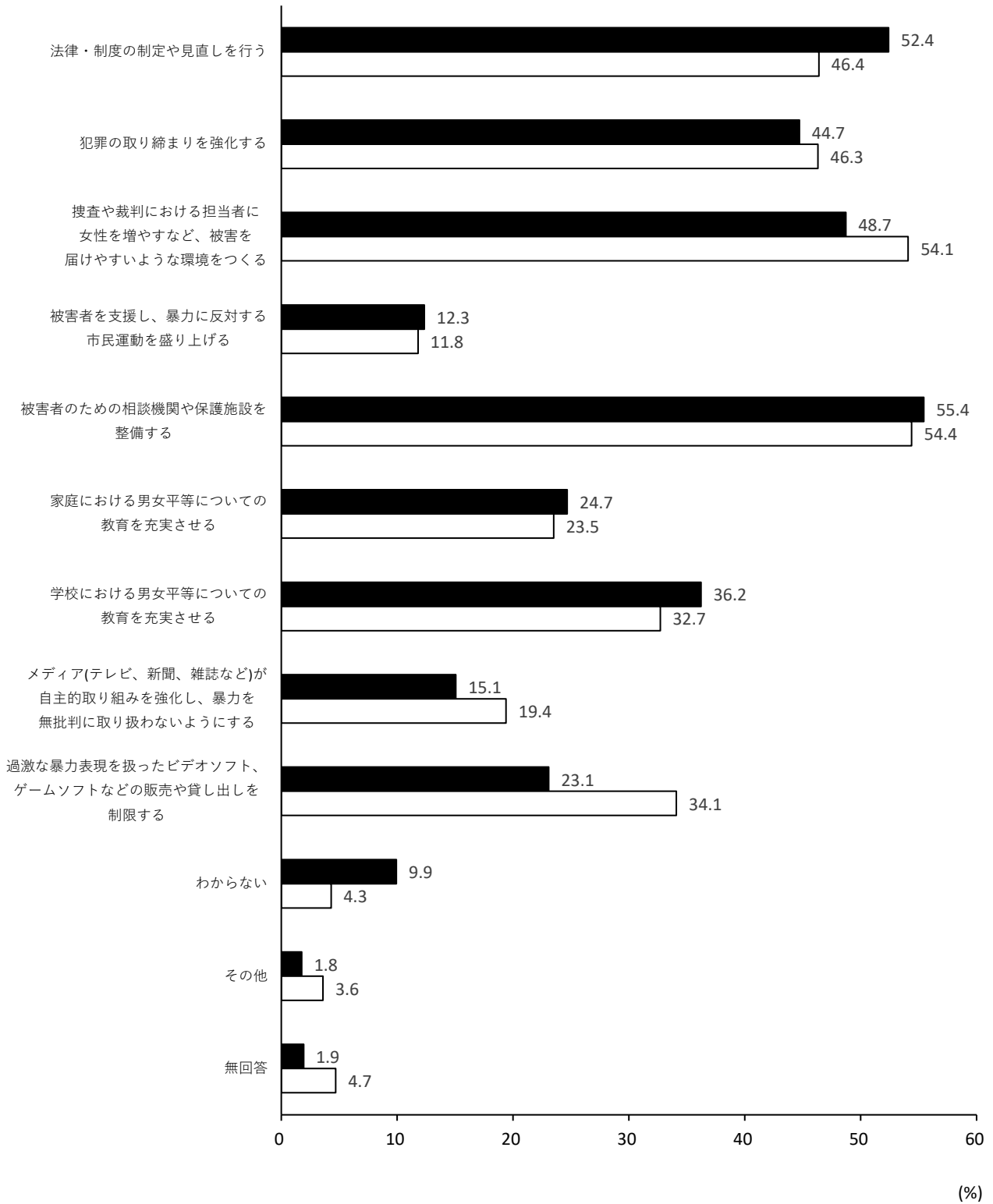


問11 性犯罪、売買春（援助交際など）、配偶者などからの暴力、セクシュアル・ハラスメントなどの暴力をなくすためには、どのようにしたらよいと思いますか。（複数回答）



暴力をなくすために：前回調査との比較

■ R4 (n=624) □ H24(n=788)



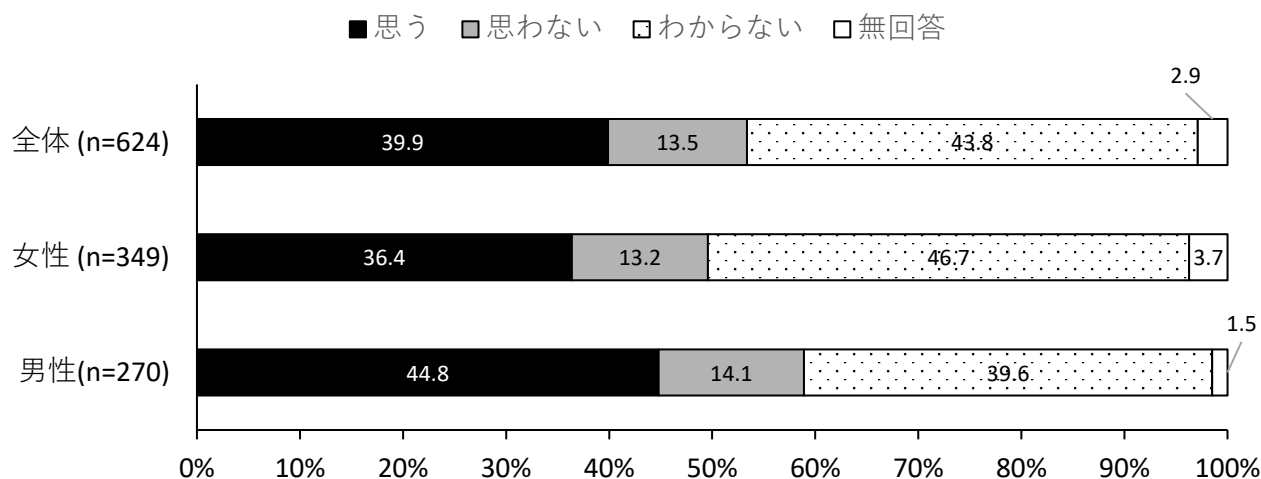
【教育について】

○学校での教育について

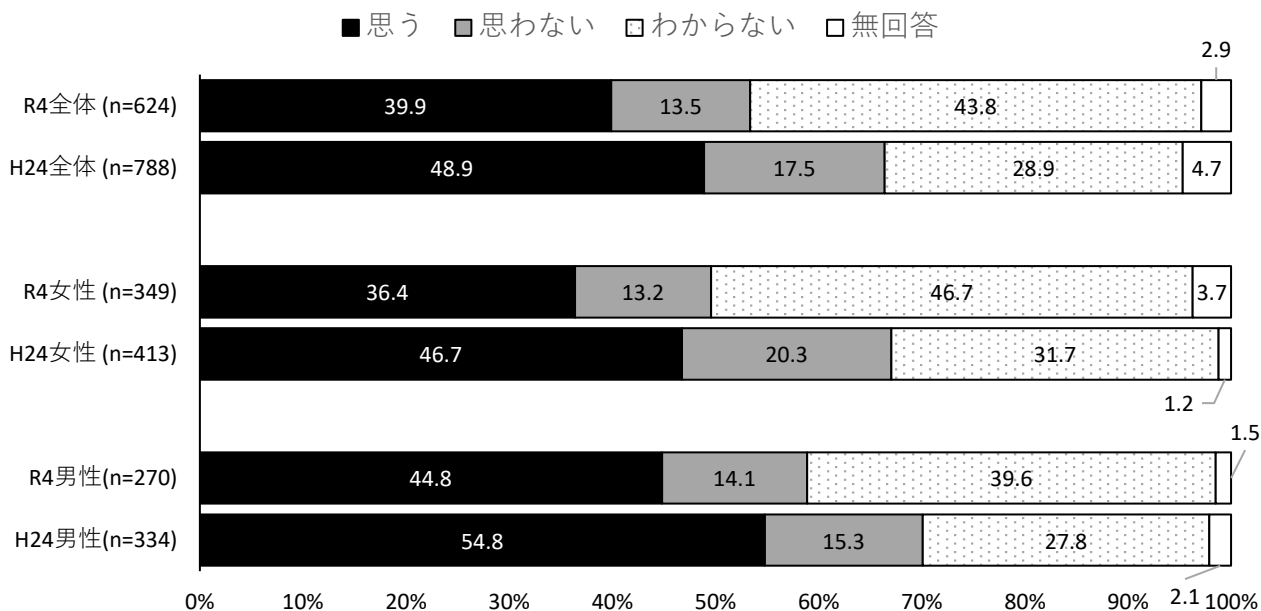
・「平等に教育されていると思うか」の設問に対しては、全体では「わからない」と回答した割合が43.8%と最も高かった。男女で比較すると、男性の方が女性よりも「平等と思う」と回答した割合が8.4ポイント高かった。（P39）

・平等ではないと考える理由は「服装」51.2%、「言葉遣いなどに対する先生の注意の仕方」35.7%、「名簿が男女別で男子が先」27.4%の順となっており、前回調査では上位3項目に入っていなかった「服装」と回答した割合が上昇している。（P40・41）

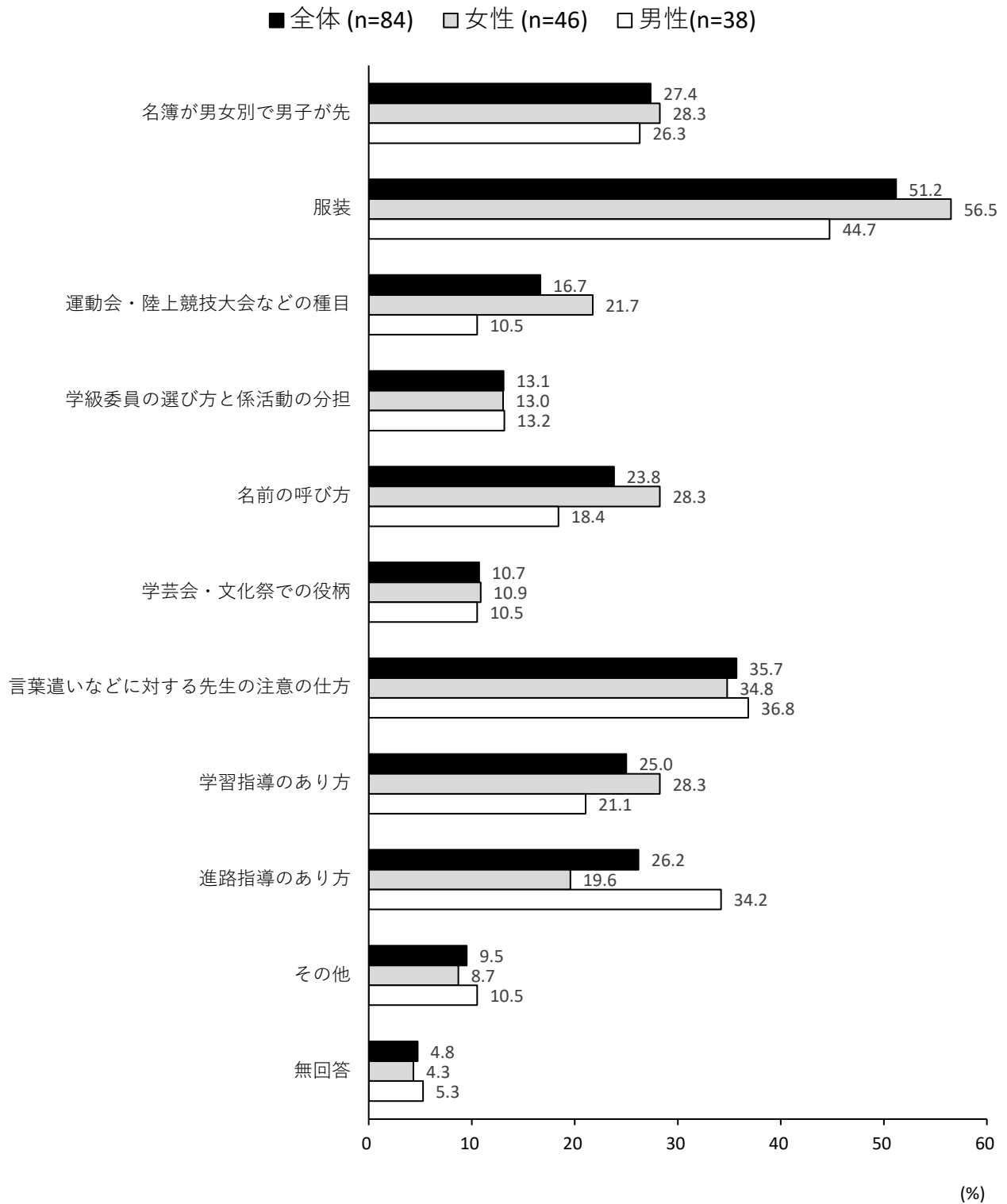
問12 あなたは学校で男女が平等に教育されていると思いますか。



教育における男女平等感：前回調査との比較

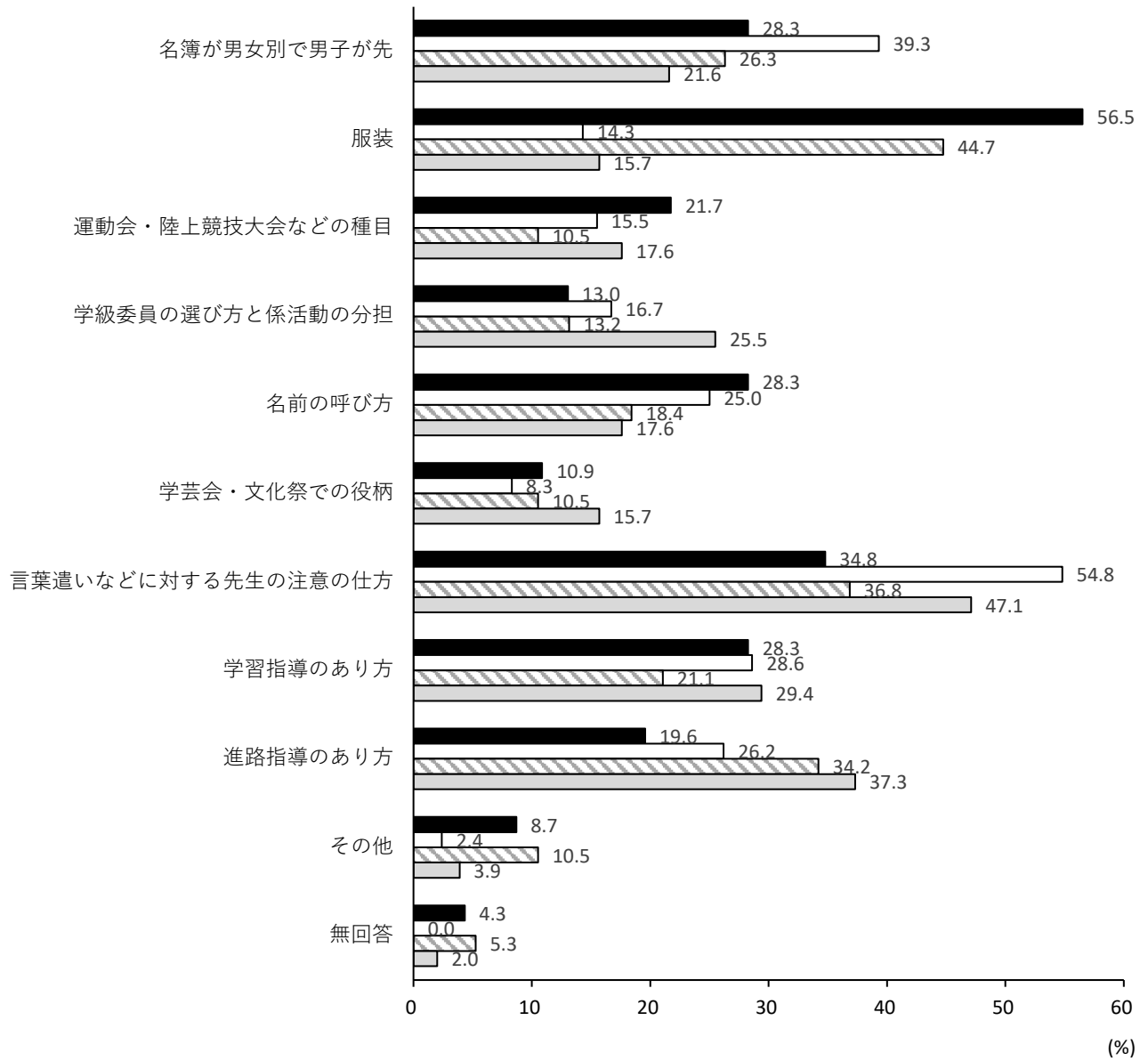


問13 学校で男女が平等に教育されていないと答えた方、その理由は何ですか（複数回答）



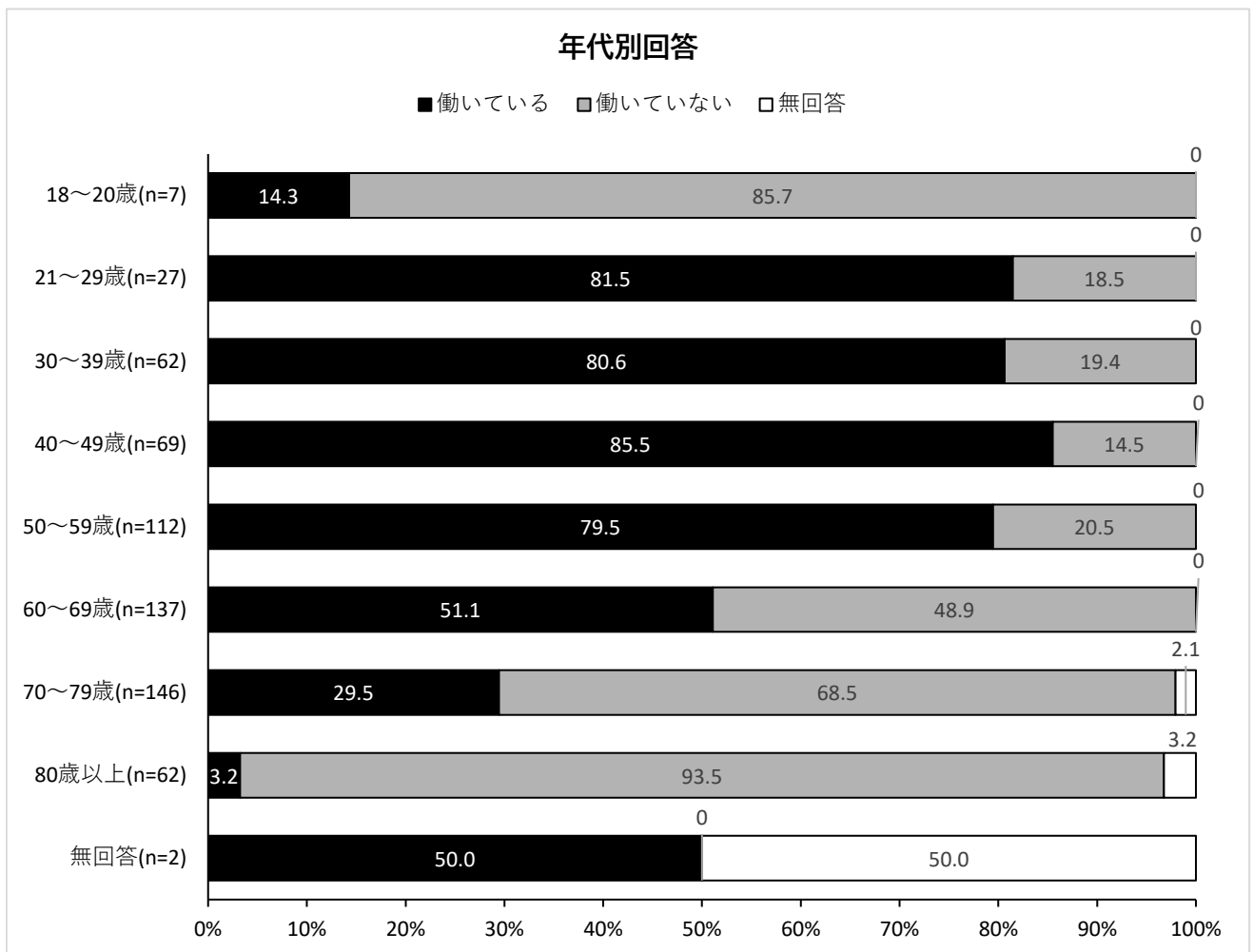
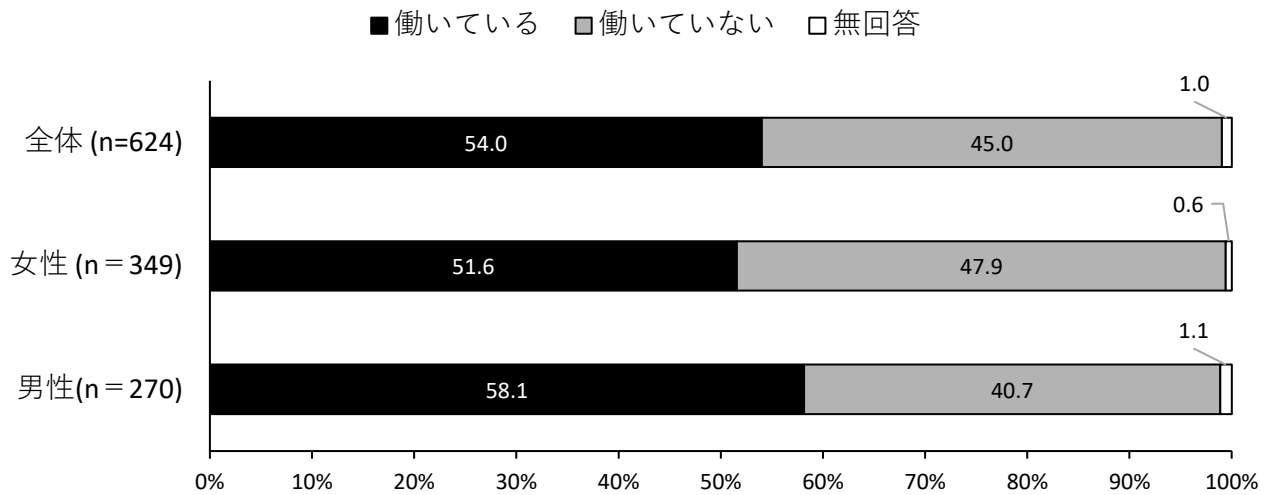
教育が平等ではないと考える理由：前回調査との比較

■ R4女性 (n=46) □ H24女性 (n=84) ▨ R4男性 (n=38) □ H24男性 (n=51)

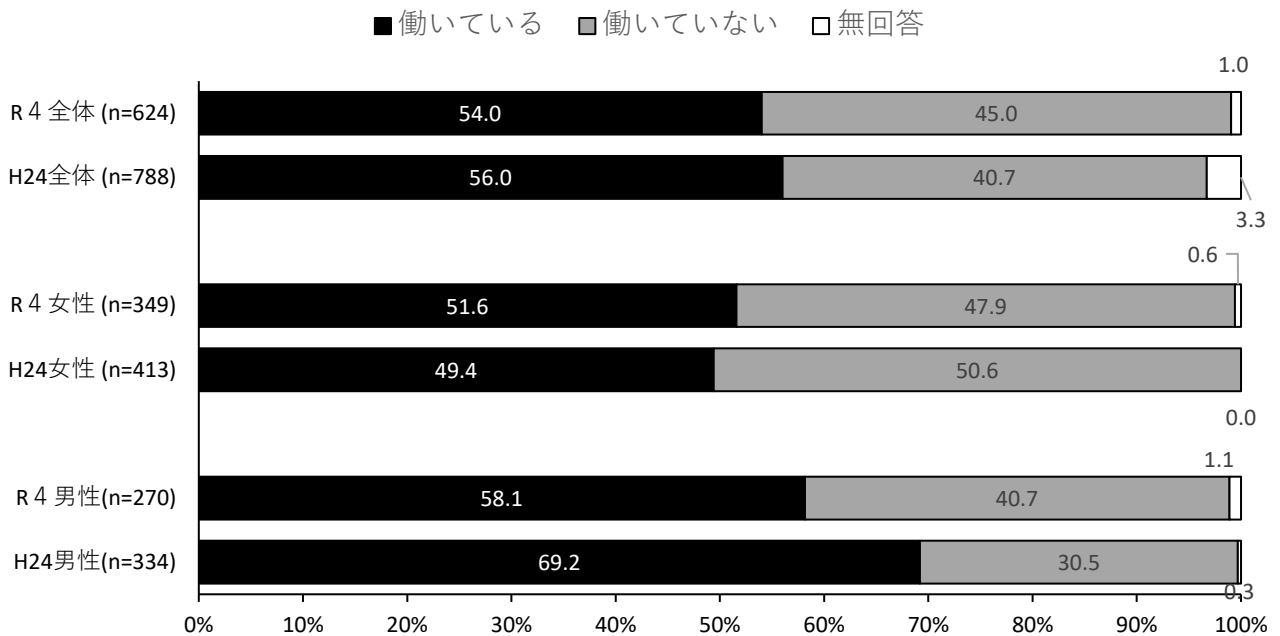


【就労について】

問14 現在、働いていますか。



就労状況：前回調査との比較

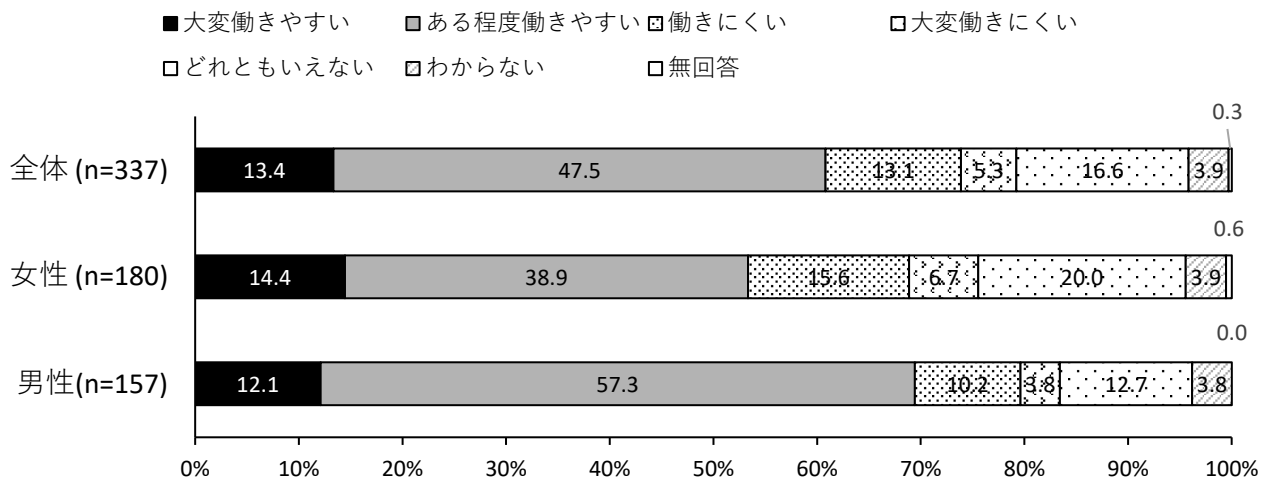


問15 現在働いている方と答えた方、今の社会は、女性が働きやすい状態（環境）にあると思いますか

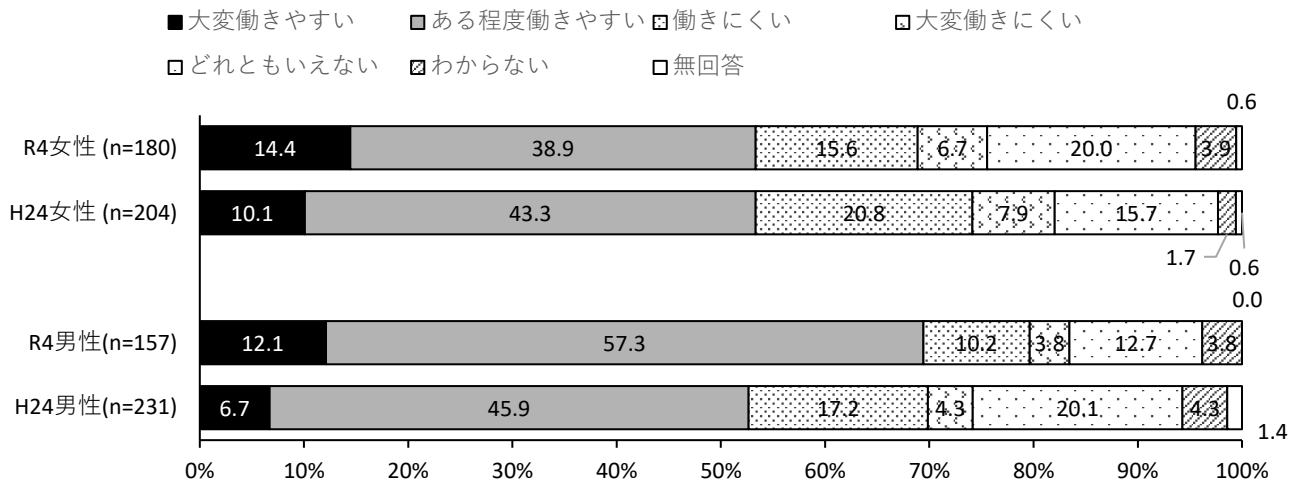
○女性が働きやすい環境にあるかについて

・「大変働きやすい」13.4%「ある程度働きやすい」47.5%となったが、男女別で見ると「ある程度働きやすい」とする回答割合は女性で38.9%、男性では57.3%と、18.4ポイントの差があり、男女での意識の差がみられる。(P43)

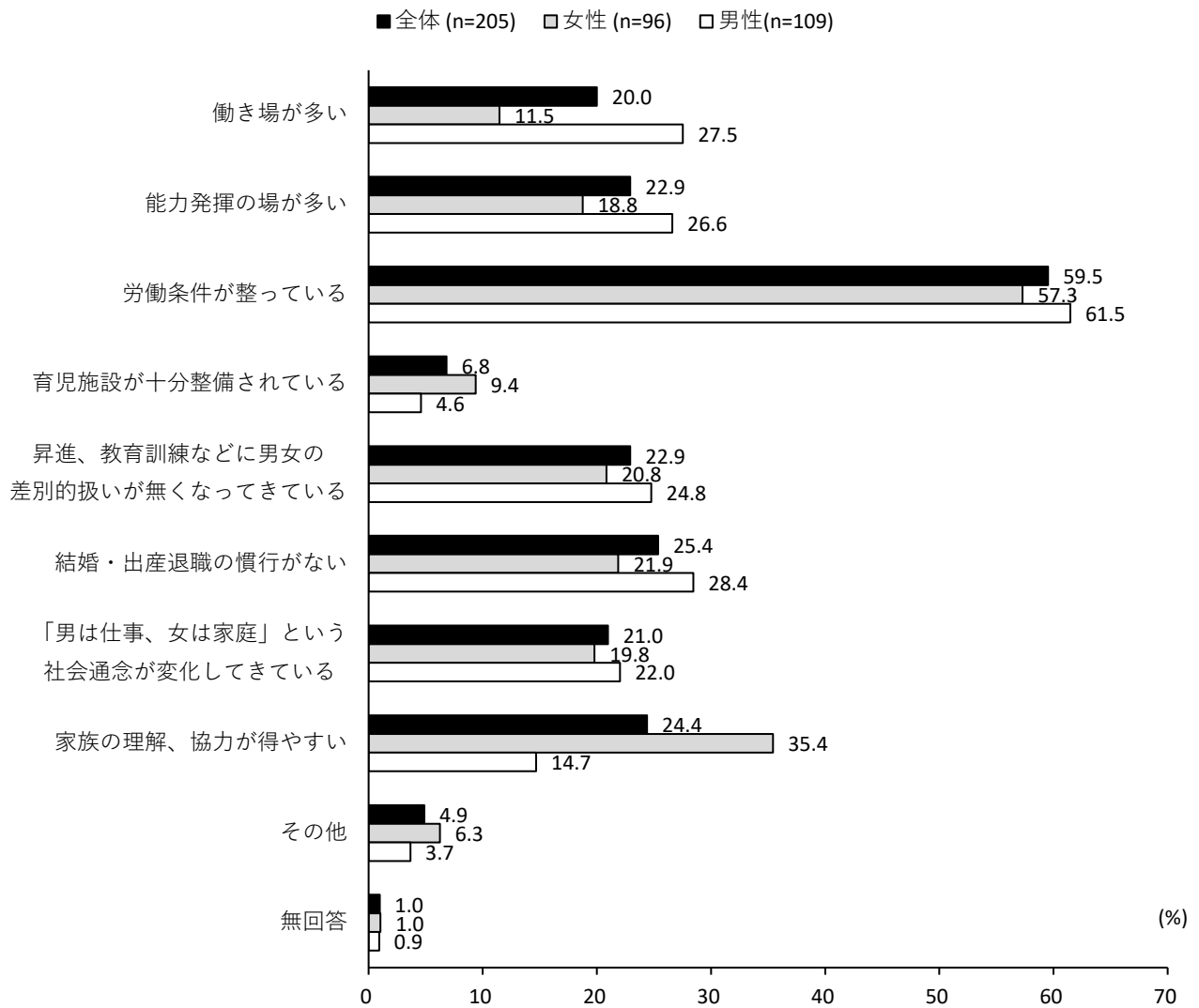
・前回調査と比較すると、「大変働きやすい」とする回答の割合が男女ともに上昇している。また、女性では「大変働きやすい」と「ある程度働きやすい」とした回答の合計は今回53.3%、前回は53.4%でほぼ変化はないが、男性では前回52.6%から今回は9.4%へと16.8ポイント上昇している。(P43)



女性の働きやすさ：前回調査との比較

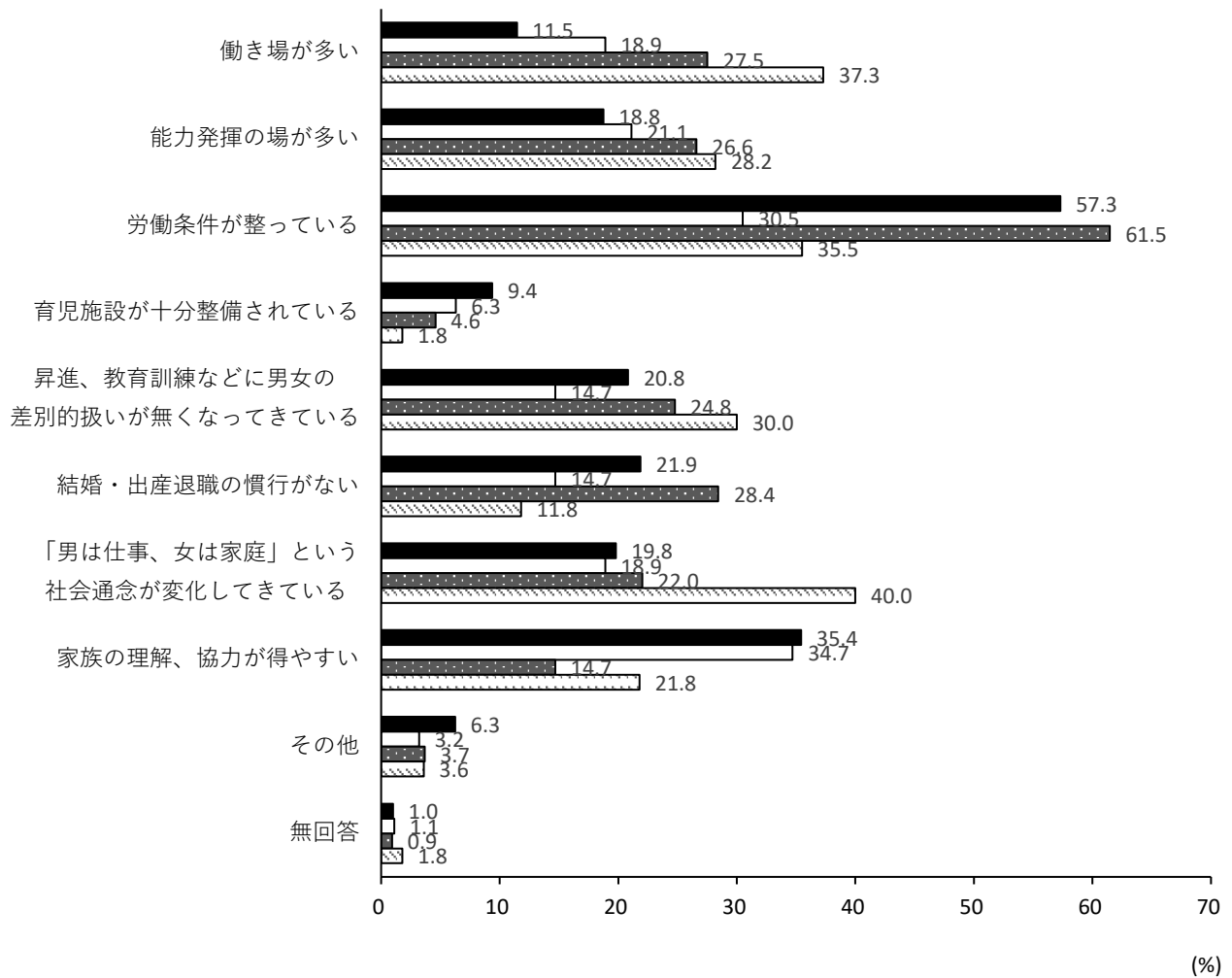


問15-1 問15で「大変働きやすい」「ある程度働きやすい」と答えた方、その理由は何ですか（複数回答）

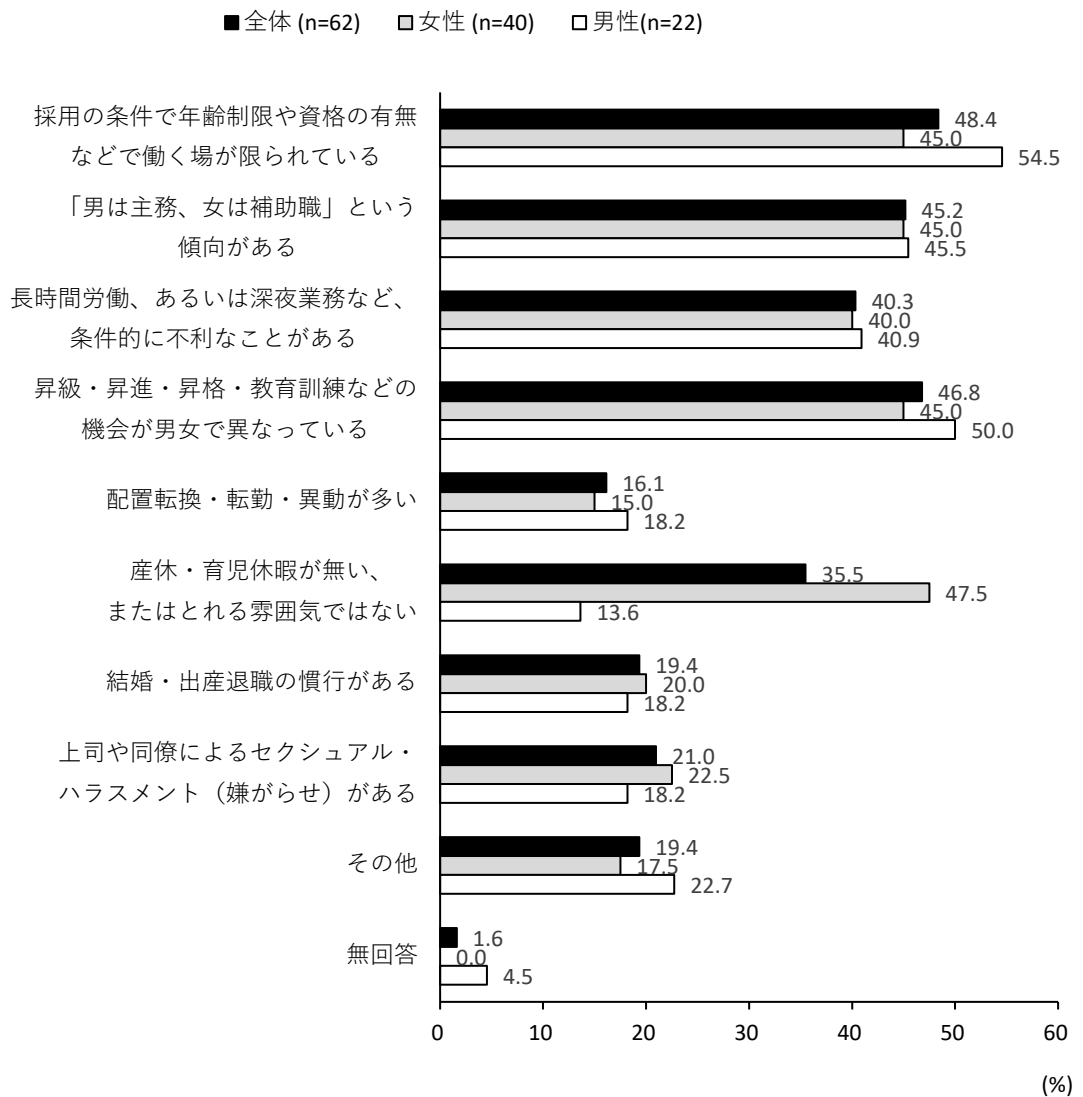


問15-1 働きやすさの理由：前回調査との比較

■ R4女性(n=96) □ H24女性(n=95) ■ R4男性(n=109) □ H24男性(n=110)

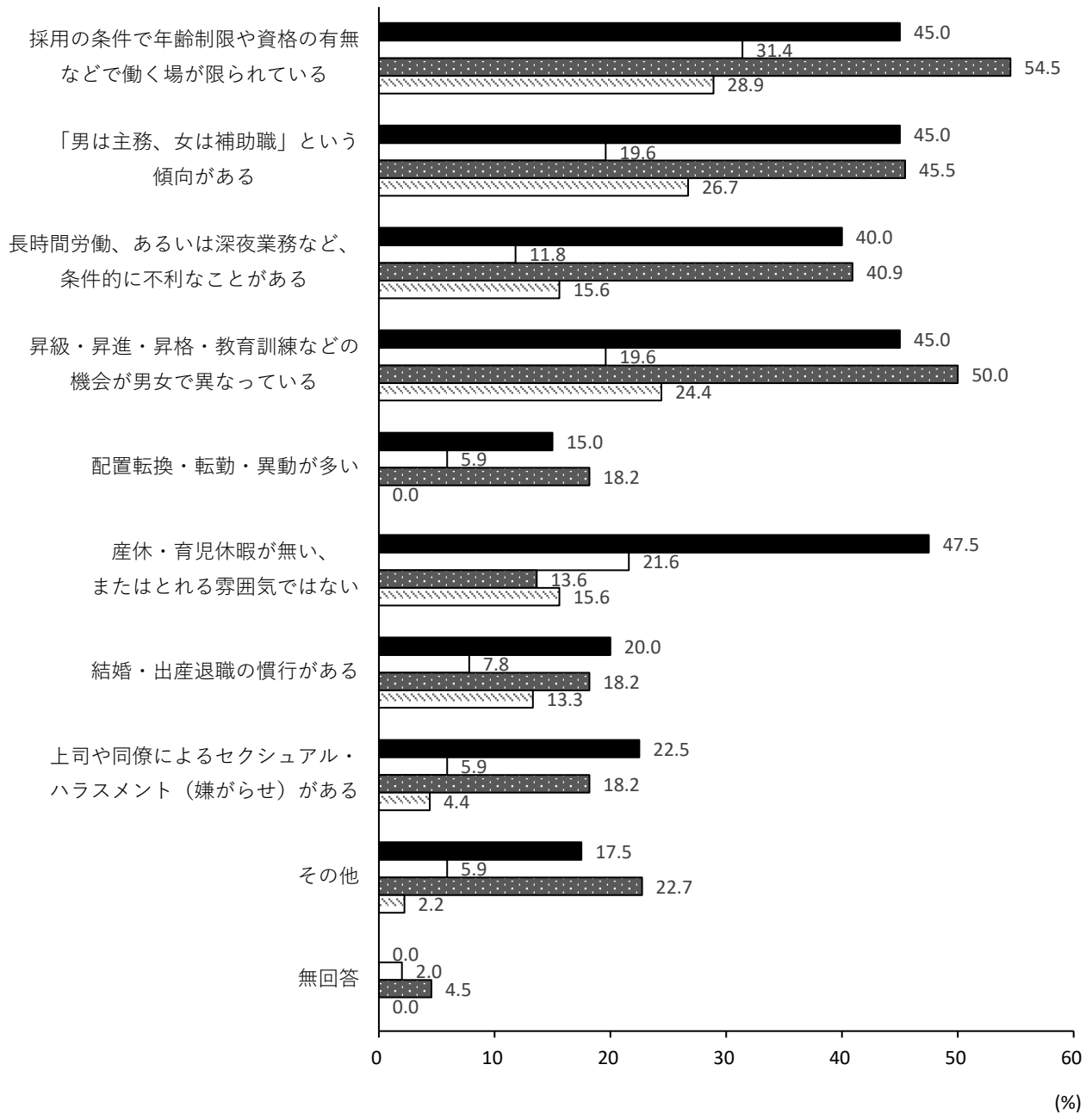


問15-2 問15で「働きにくい」「大変働きにくい」と答えた方、
その理由は何ですか（複数回答）



問15-2 働きにくさの理由：前回調査との比較

■ R4女性 (n=40) □ H24女性 (n=51) ■ R4男性(n=22) □ H24男性(n=45)

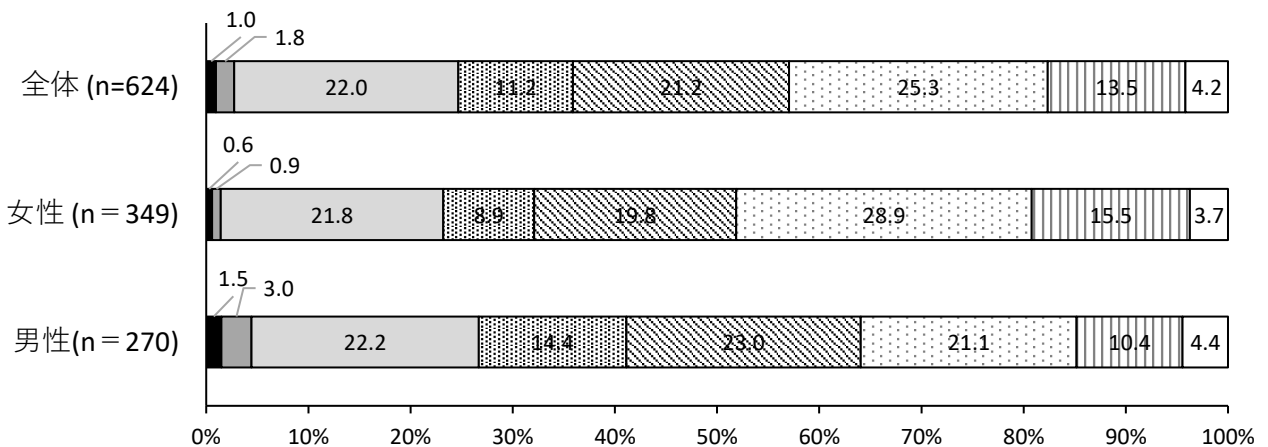


問16 女性が社会に出て働くことと家庭との関係についてどのように考えていますか

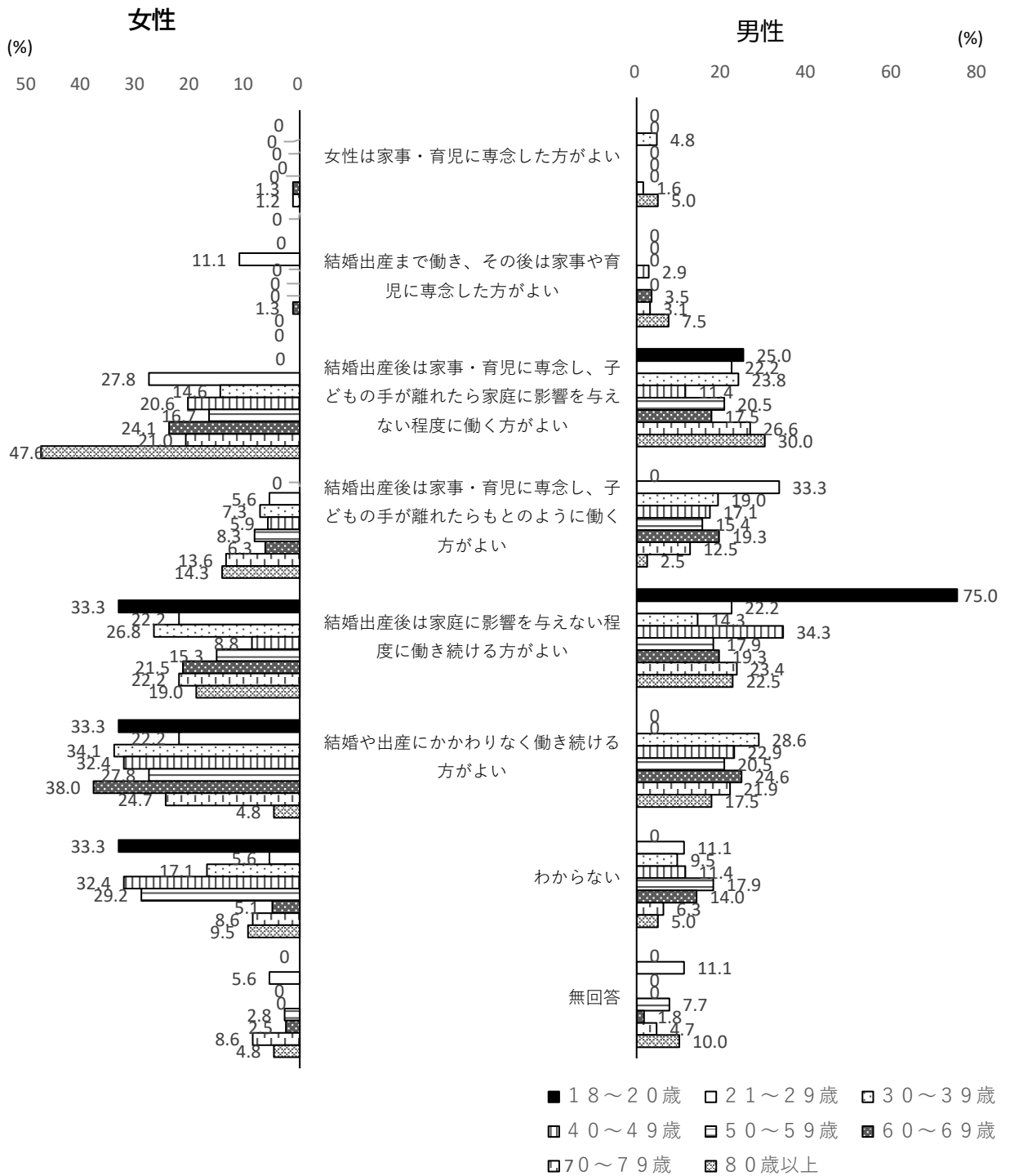
○女性が社会に出て働くことと家庭との関係について

- ・「家庭に影響を与えない程度に働く」「結婚や出産にかかわらず働く」とする職業継続派が46.5%、「子どもの手が離れたら家庭に影響を与えない程度に働く」「子どもの手が離れたらもどのように働く」とする中断就業派33.2%の順となった。前回調査では、中断就業派のほうが職業継続派よりも多くなっていたため、意識が変化していることがわかる。(P48・50)
- ・前回調査との比較では、男女ともに「結婚や出産にかかわらず働く」とする回答の割合が上昇しており、「子どもの手が離れたら家庭に影響を与えない程度に働く」とする回答の割合は低下している。(P50)

- 女性は家事・育児に専念した方がよい
- 結婚出産まで働き、その後は家事や育児に専念した方がよい
- 結婚出産後は家事・育児に専念し、子どもの手が離れたら家庭に影響を与えない程度に働く方がよい
- ▨ 結婚出産後は家事・育児に専念し、子どもの手が離れたらもどのように働く方がよい
- ▩ 結婚出産後は家庭に影響を与えない程度に働き続ける方がよい
- 結婚や出産にかかわらず働き続ける方がよい
- わからない
- 無回答

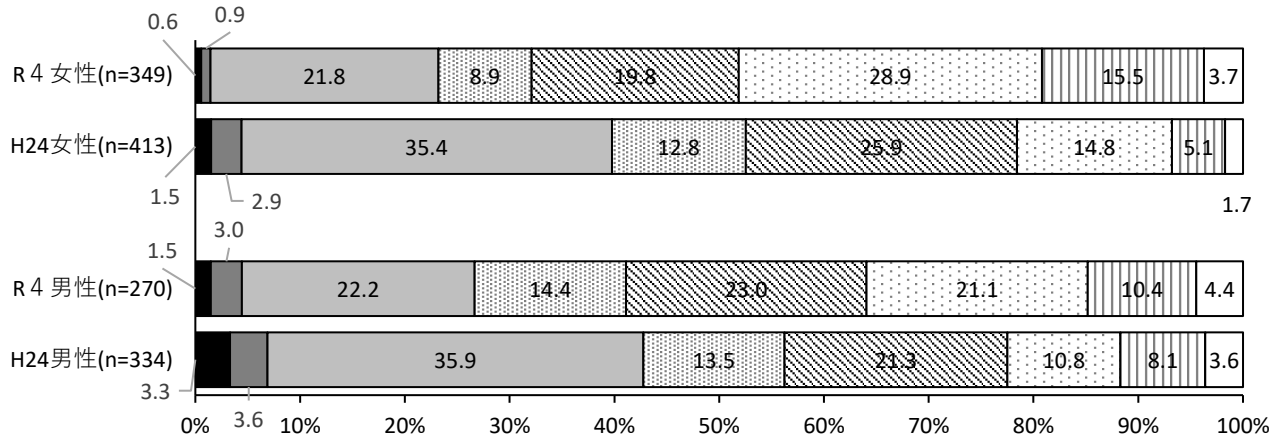


問16 女性が社会に出て働くことと家庭との関係について（年代別回答）

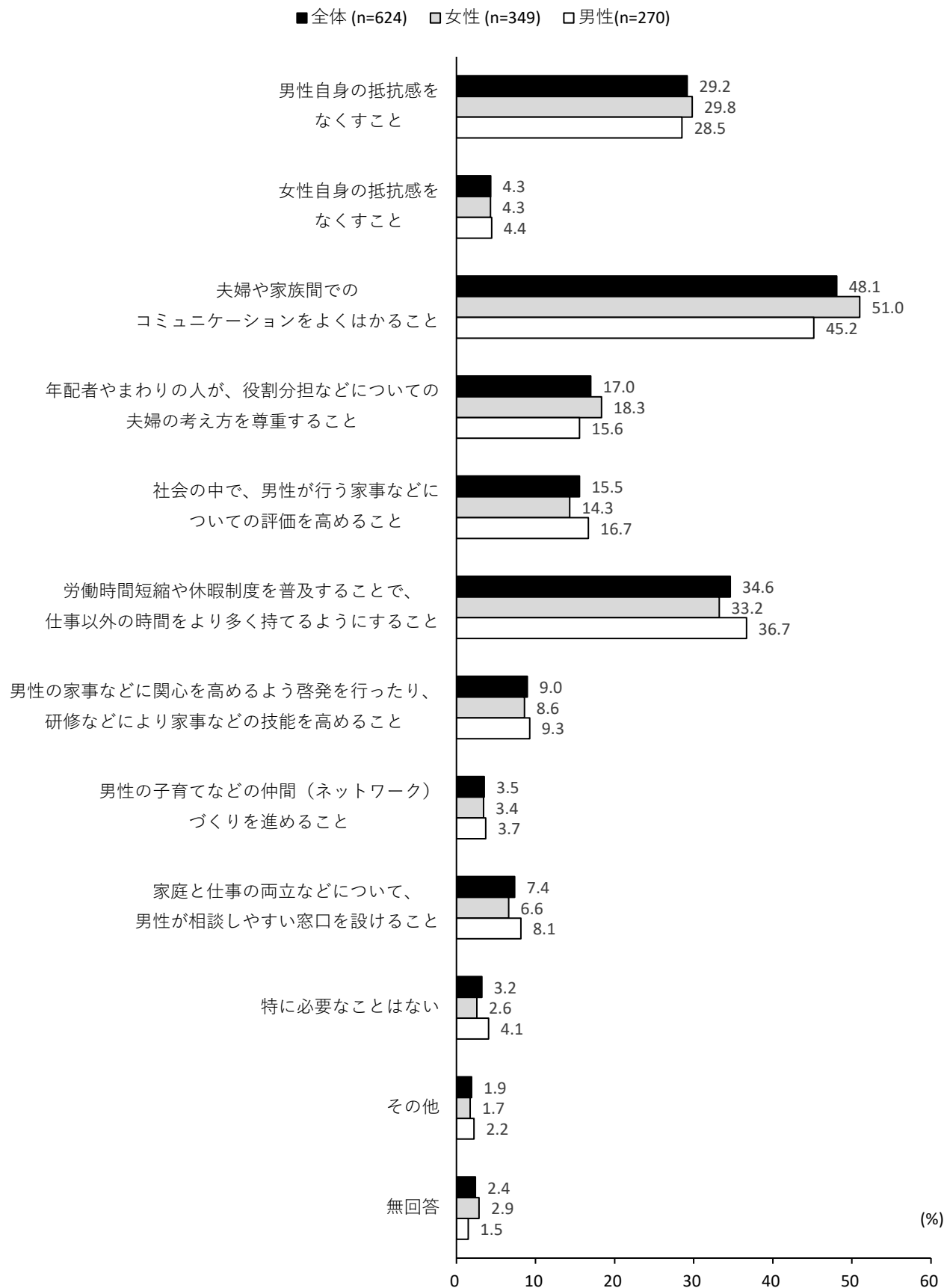


女性が社会に出て働くことと家庭との関係：前回調査との比較

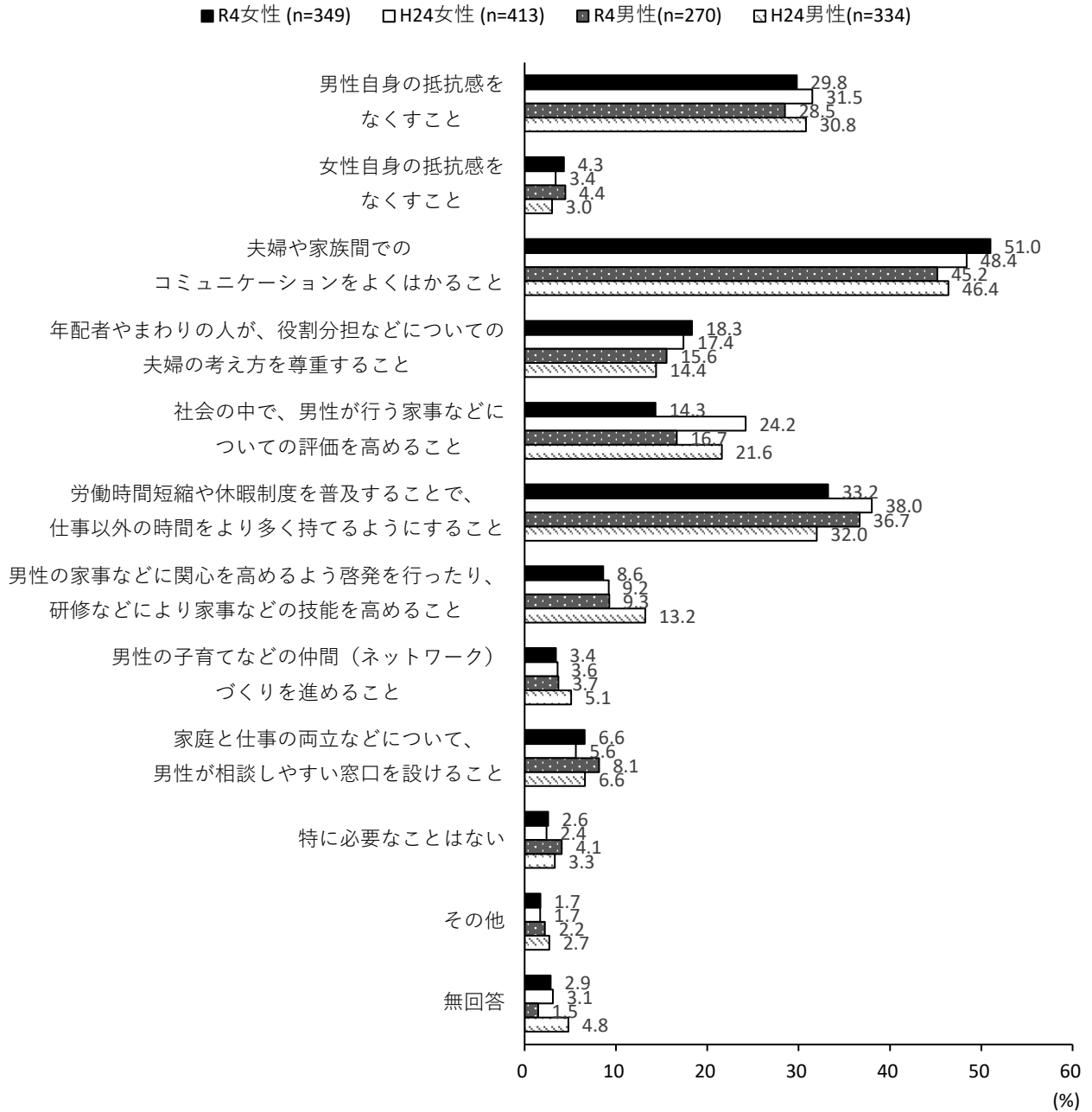
- 女性は家事・育児に専念した方がよい
- 結婚出産まで働き、その後は家事や育児に専念した方がよい
- 結婚出産後は家事・育児に専念し、子どもの手が離れたら家庭に影響を与えない程度に働く方がよい
- ▨ 結婚出産後は家事・育児に専念し、子どもの手が離れたらもどのように働く方がよい
- ▩ 結婚出産後は家庭に影響を与えない程度に働き続ける方がよい
- 結婚や出産にかかわらず働き続ける方がよい
- わからない
- 無回答



問17 男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、
 どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)



男性が家事、子育て等に積極的に参加していくために：前回調査との比較



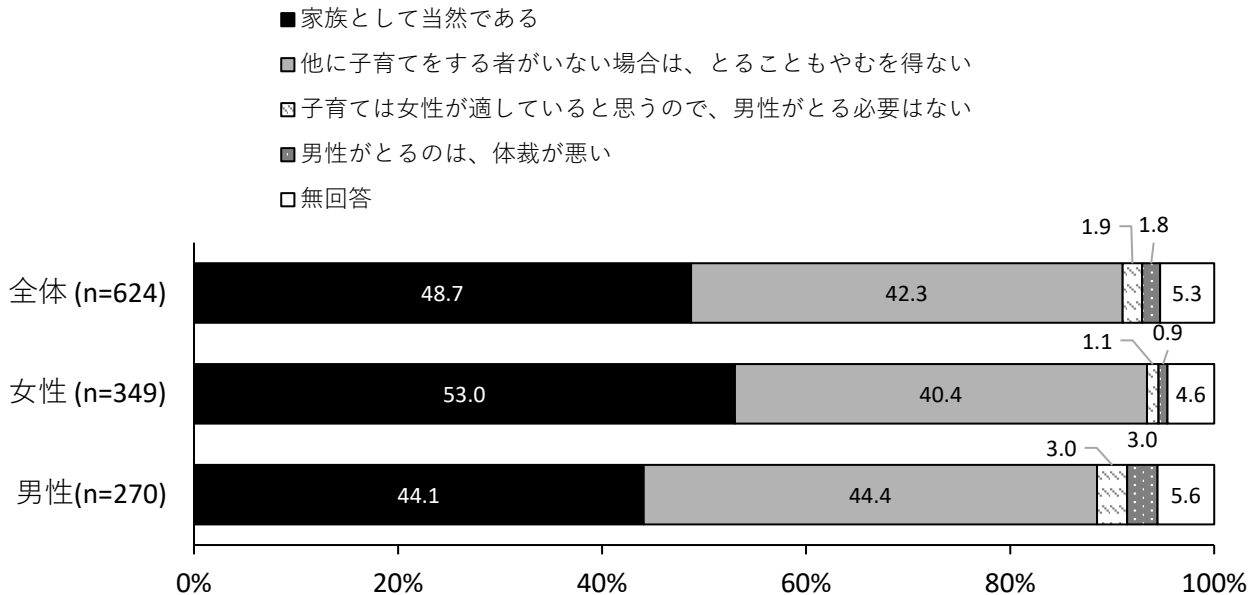
問18 あなたは、男性が育児休業や介護休業をとることについてどう思いますか。

○男性が育児休業や介護休業をとることについて

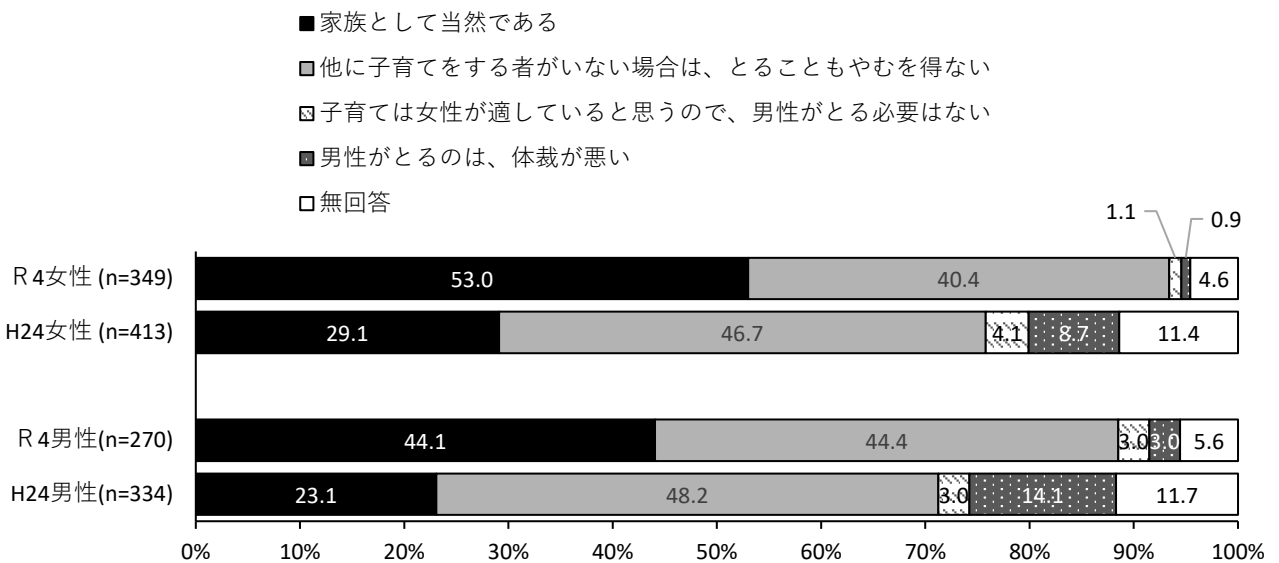
・全体では、育児休業・介護休業ともに「家族として当然である」とする回答割合が高くなっている。男女を比較すると、「家族として当然である」とする割合は、男性の方が女性よりも育児休業で8.9ポイント、介護休業で7.3ポイント低くなっている。(P53)

・前回調査と比較すると「家族として当然である」とする回答の割合は上昇し、「他に子育て・介護をする者がいない場合はとることもやむを得ない」「男性が取るのは体裁が悪い」とする回答の割合は低下している。(P53・54)

育児休業

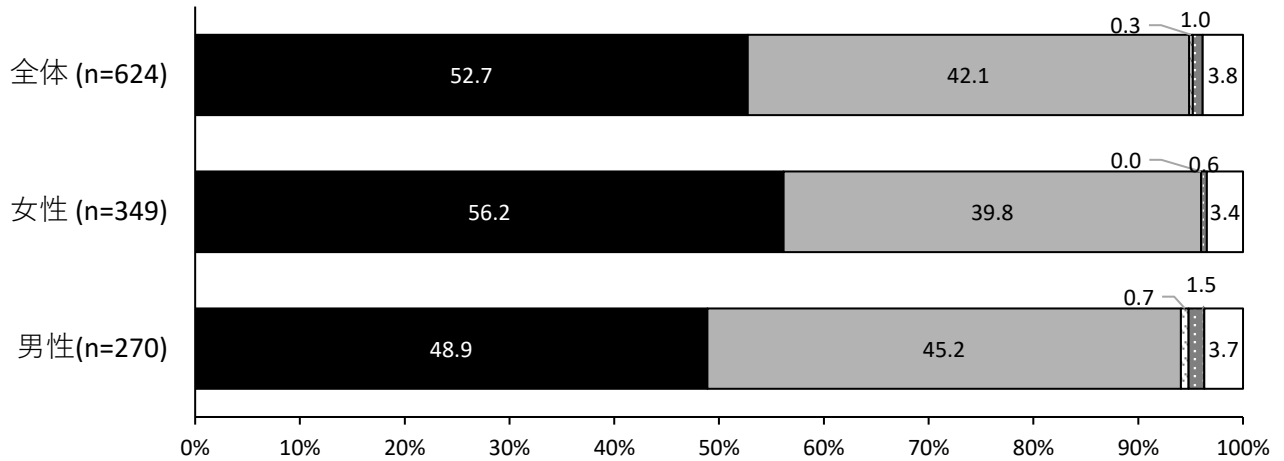


育児休業：前回調査との比較



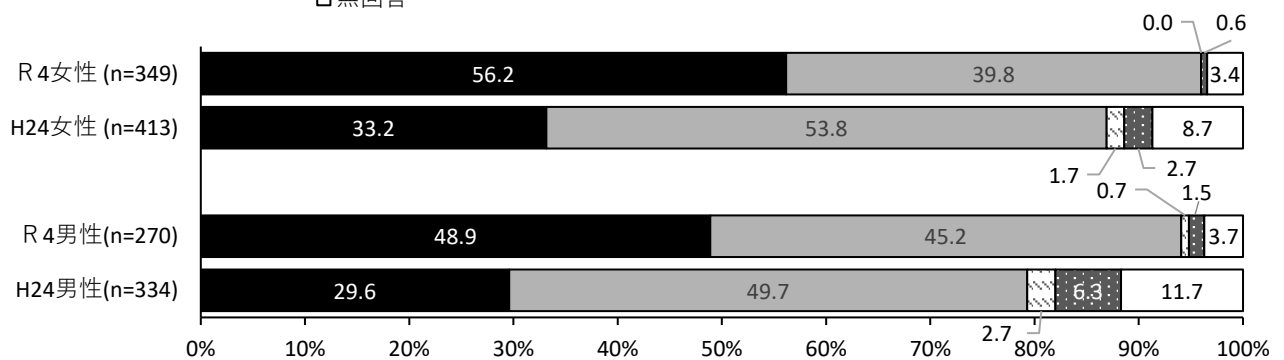
介護休業

- 家族として当然である
- ▣ 他に介護をする者がいない場合は、とることもやむを得ない
- 介護は女性が適していると思うので、男性がとる必要はない
- 男性がとるのは、体裁が悪い
- 無回答



介護休業：前回調査との比較

- 家族として当然である
- ▣ 他に介護をする者がいない場合は、とることもやむを得ない
- 介護は女性が適していると思うので、男性がとる必要はない
- 男性がとるのは、体裁が悪い
- 無回答



問19 あなたは「ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）」という言葉を知っていますか。

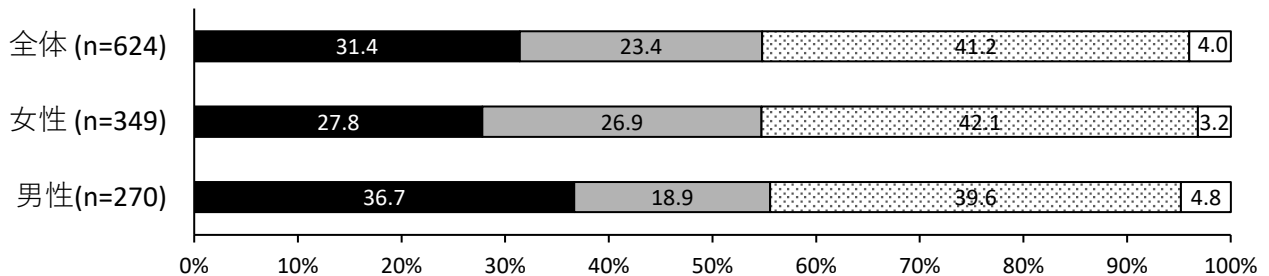
○ワーク・ライフ・バランスについて

- ・「言葉を聞いたことがあり、意味も知っている」「聞いたことはあるが、意味は知らない」とする回答割合は全体で54.8%で、前回調査で「ワーク・ライフ・バランスという言葉を見たり聞いたりしたことがあるか」と聞いた際には「聞いたことがある」と回答した割合は女性25.9%、男性20.9%であったことから、認知度は高まっていることがわかる。（P55）
- ・「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の中で何を優先したいかの間では、「仕事」を優先することを希望している割合は3.8%であったが、現実では「仕事を優先している」割合が18.1%と、希望と現実との間で乖離がみられる。（P56～58）

【参考】 前回調査では「次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるもの」の設問内で「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について尋ねたところ「見たり聞いたりしたことがある」と回答したのは、女性(n=413)25.9%、男性(n=344)20.9%であった。

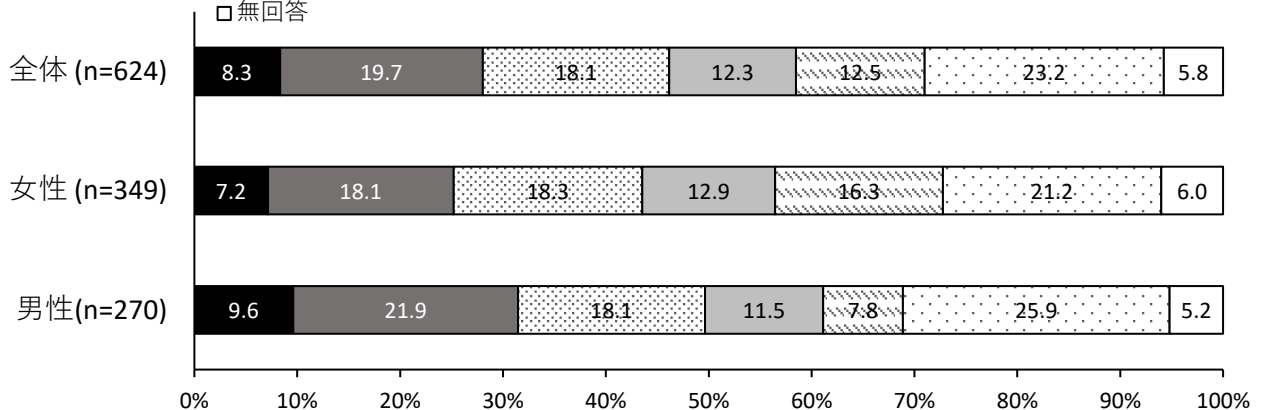
ワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていますか

- 聞いたことがあり、意味も知っている
- ▣ 聞いたことはあるが、意味は知らない
- ▤ 聞いたことがない
- 無回答



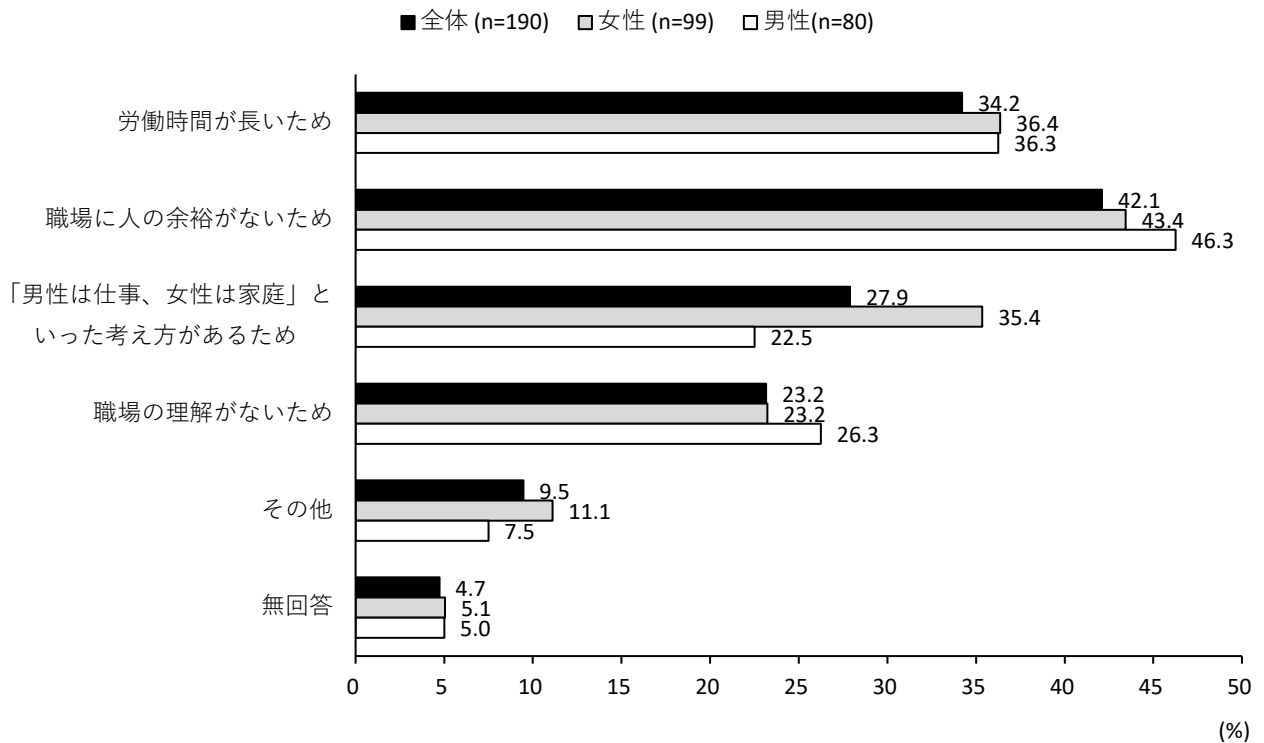
問20 あなたは「ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）」が実現できていると思いますか。

- 実現できている
- ▣ どちらかというと実現できている
- ▤ どちらかというと実現できていない
- ▥ 実現できていない
- ▦ どちらともいえない
- ▧ わからない
- 無回答

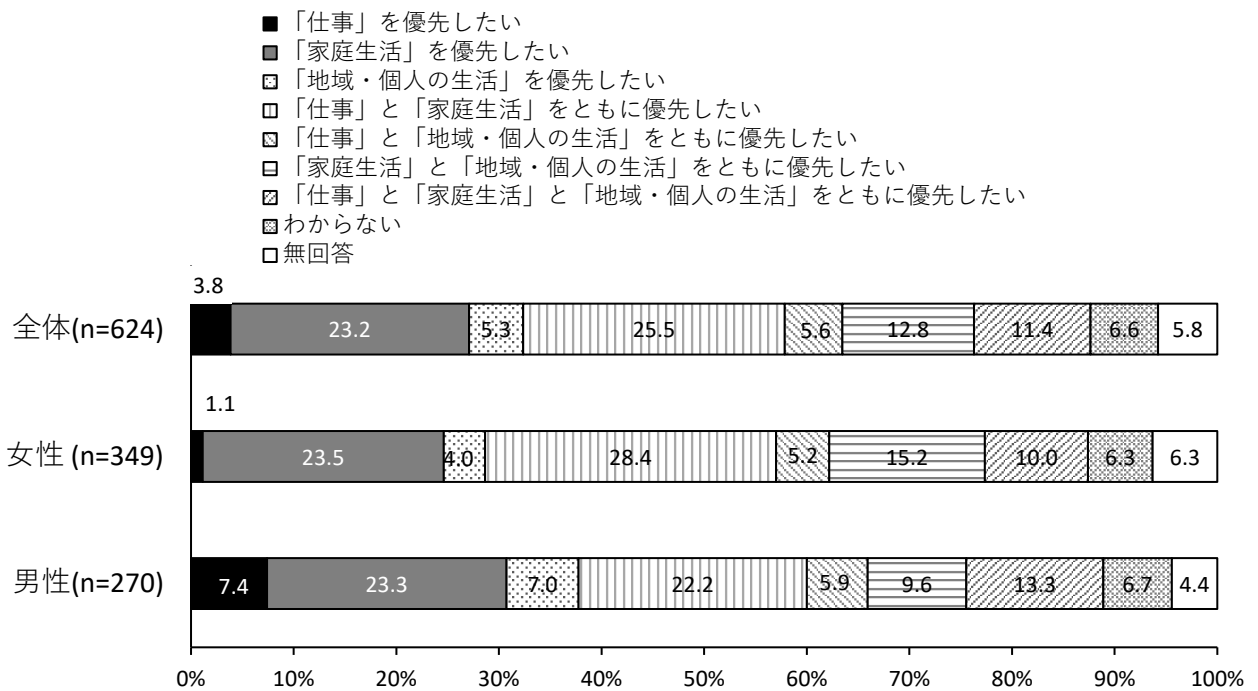


問20-1 問20で「3 どちらかといえば実現できていない」「4 実現できていない」と答えた方にお聞きます。

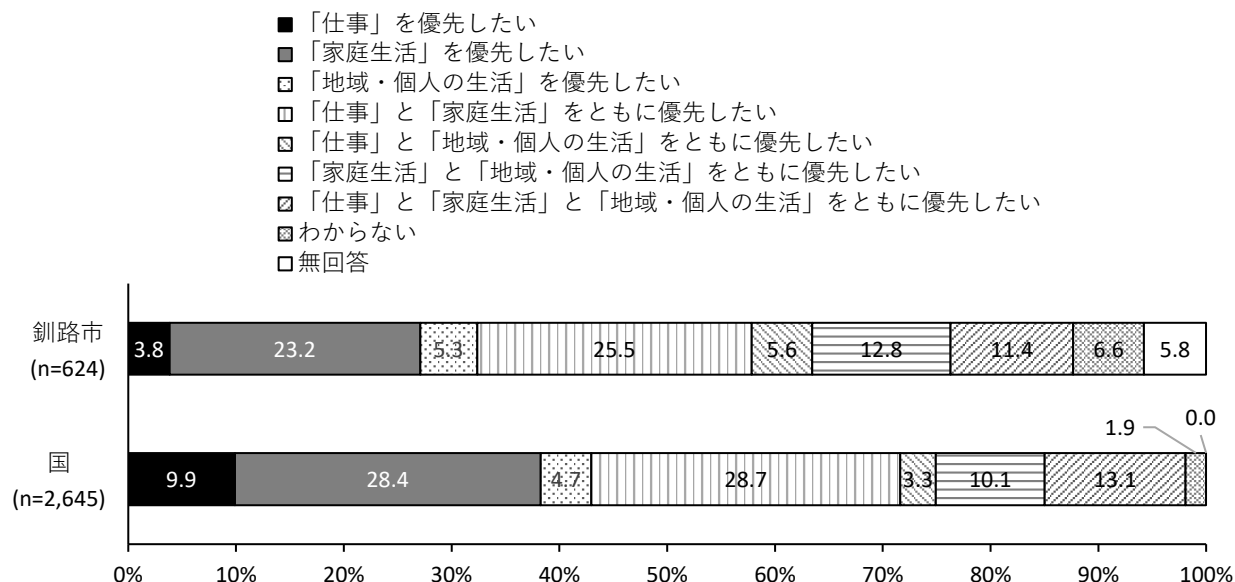
「ワーク・ライフ・バランス」が実現できていない理由は何だと思えますか。(複数回答)



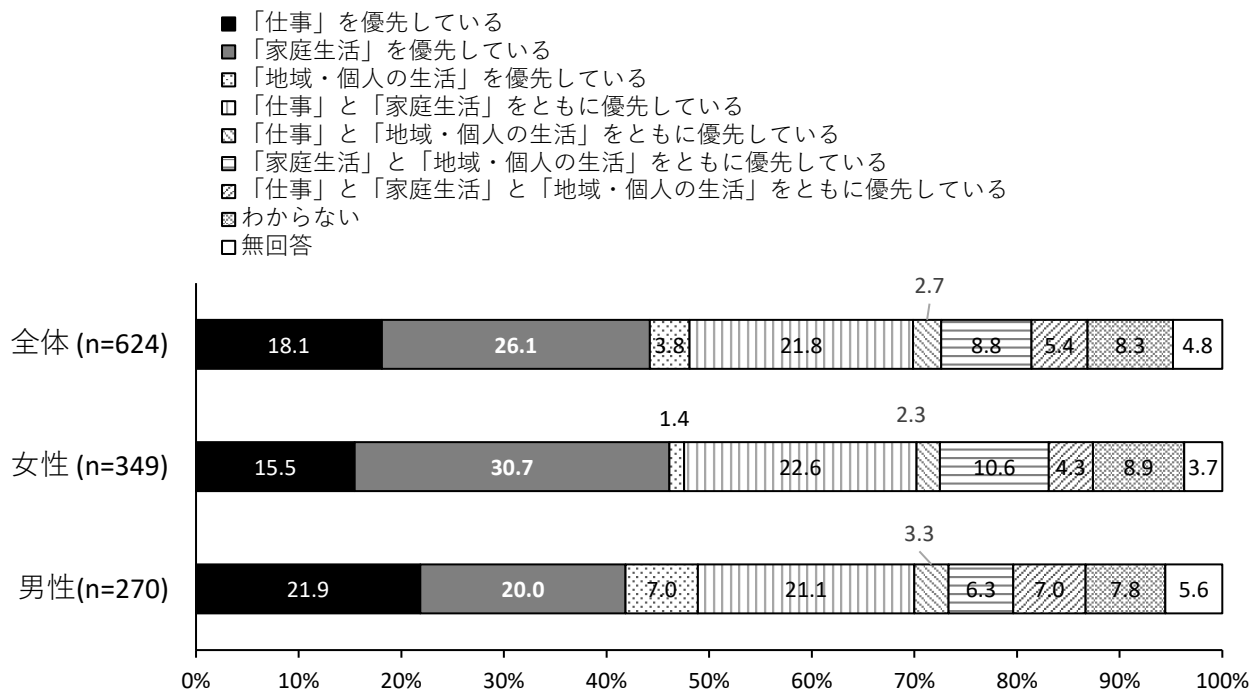
問21 あなたの生活の中で、「仕事」「家庭生活」地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の中で何を優先するのか、希望に最も近いものはどれですか。



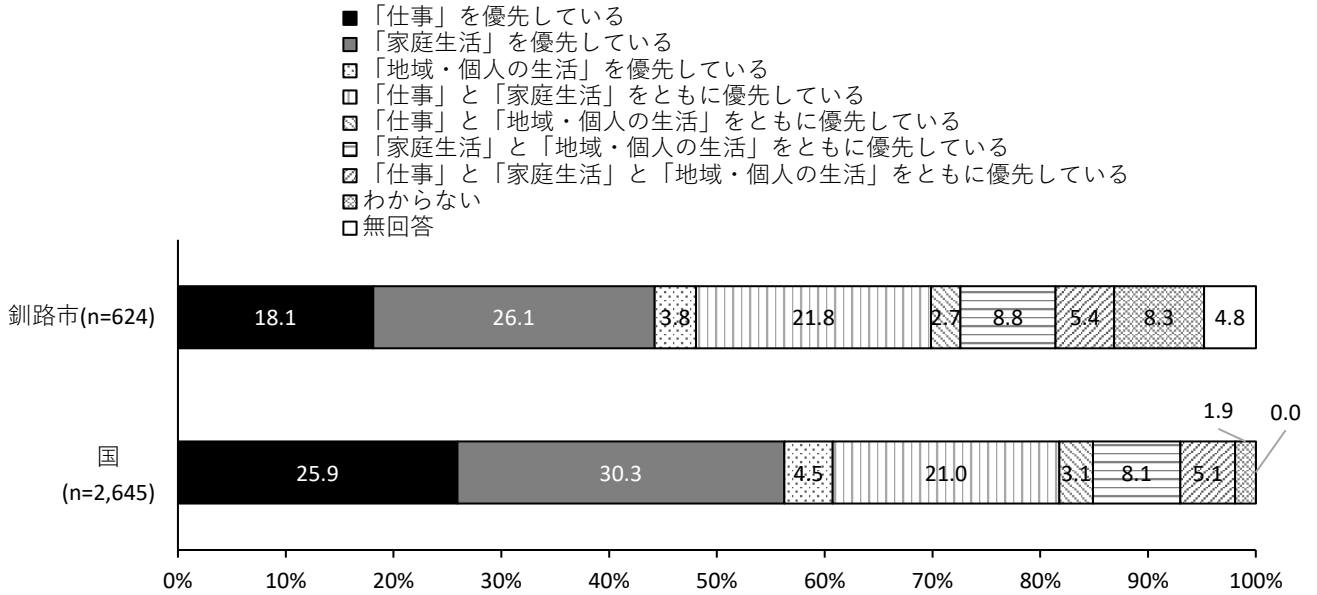
希望：国の調査との比較



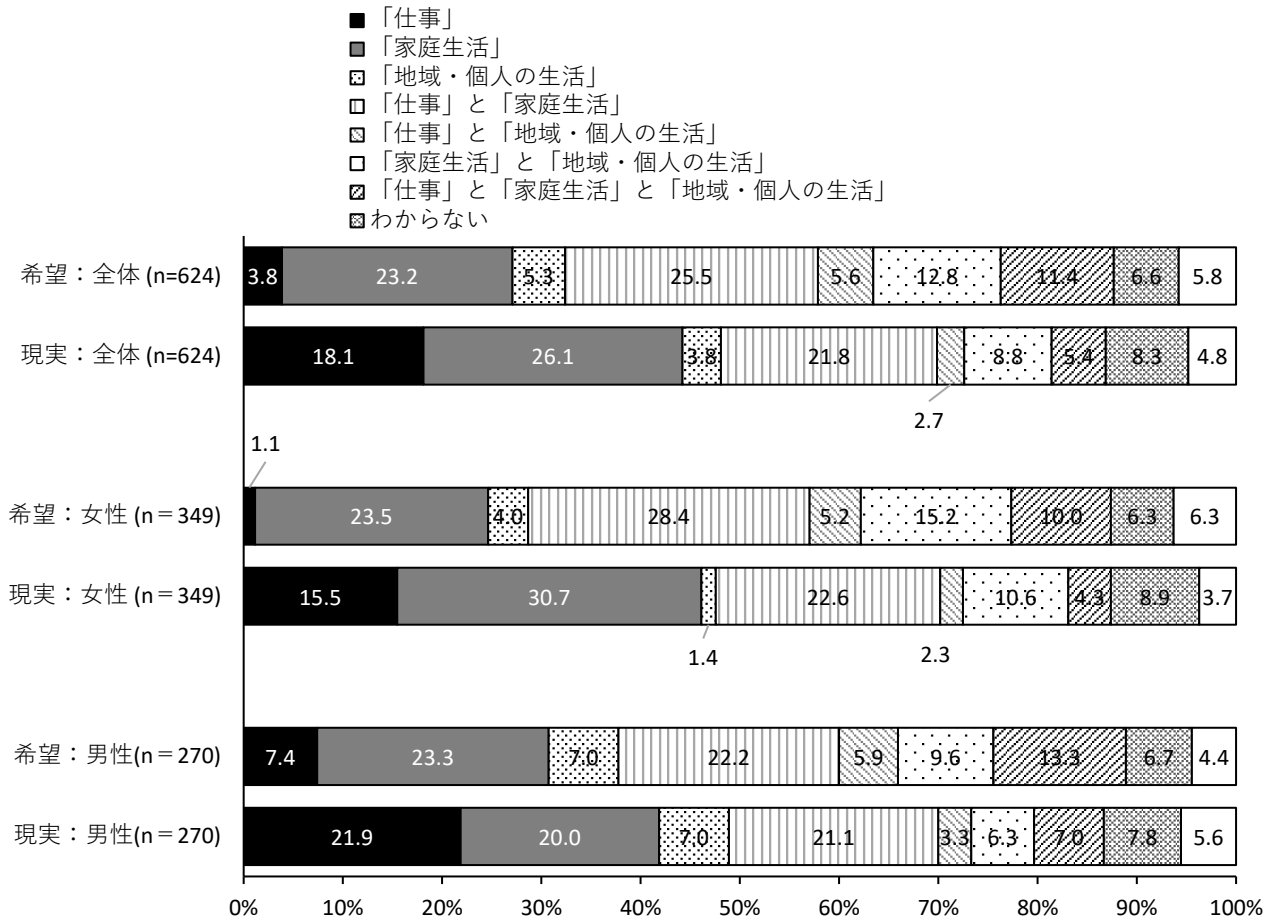
問21-1 問21の設問内容について、あなたの現実・現状に最も近いものはどれですか。



現実・現状：国の調査との比較



優先したいもの：希望と現実の比較

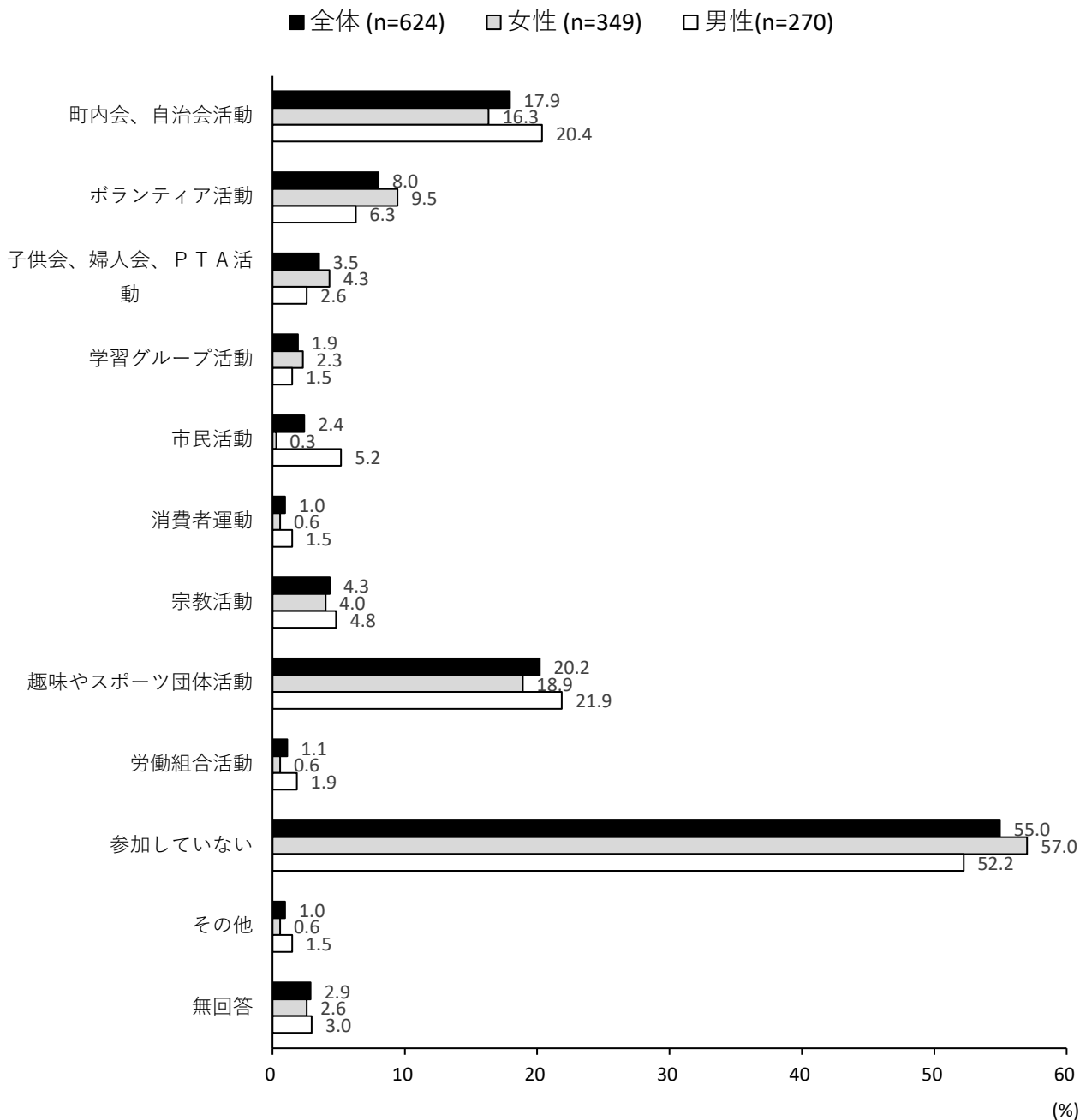


【社会参加及び男女平等参画の推進について】

問22 仕事以外にどのような社会活動に参加されていますか。(複数回答)

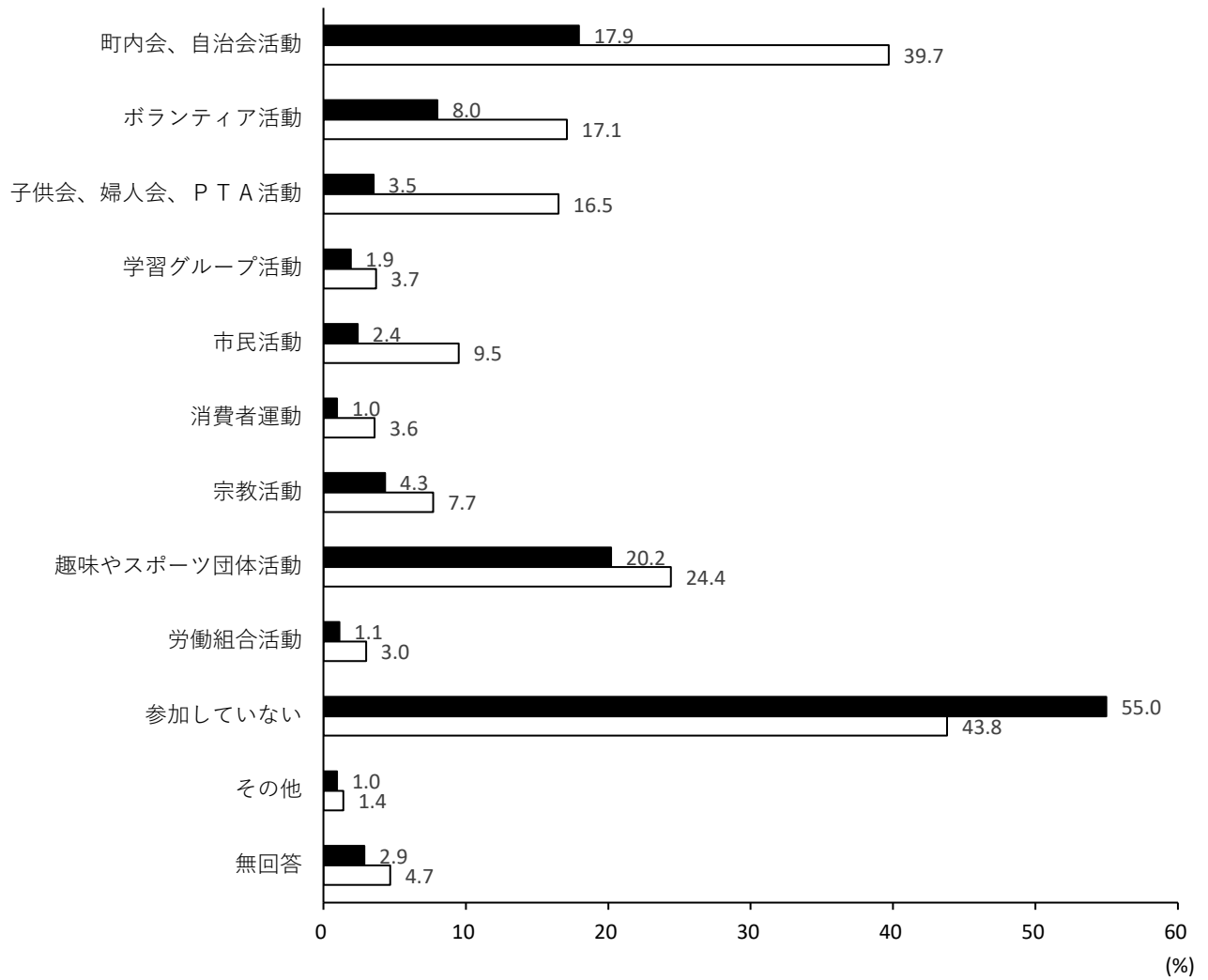
○仕事以外に参加している社会活動について

・「参加していない」55.0%「趣味やスポーツ団体活動」20.2%「町内会、自治会活動」17.9%の順となり、前回調査と比較すると「参加していない」割合が11.2ポイント増加し、「町内会、自治会活動」に参加している割合は21.8ポイント減少している。(P59・60)

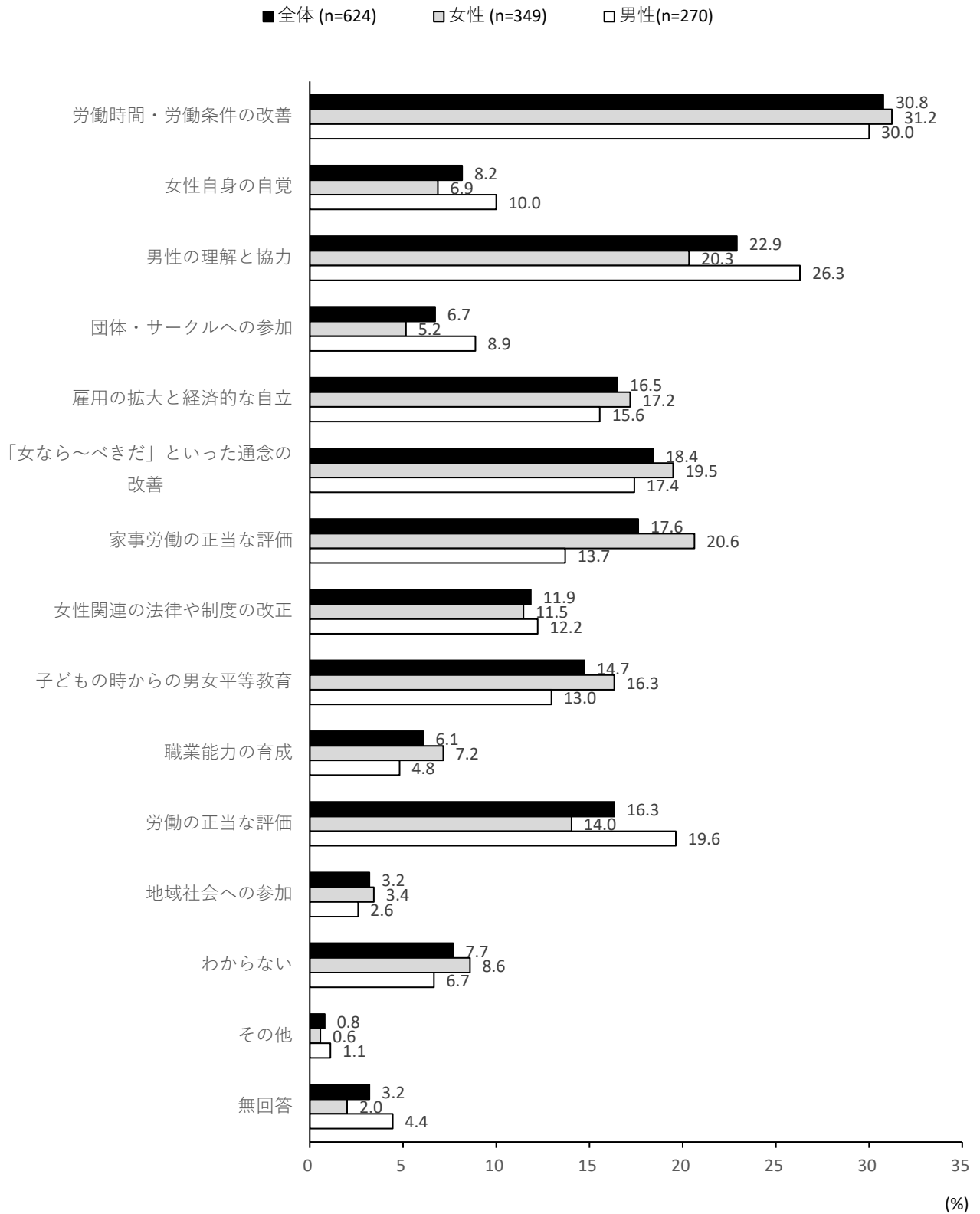


参加している社会活動：前回調査との比較

■ R4 (n=624) □ H24 (n=788)

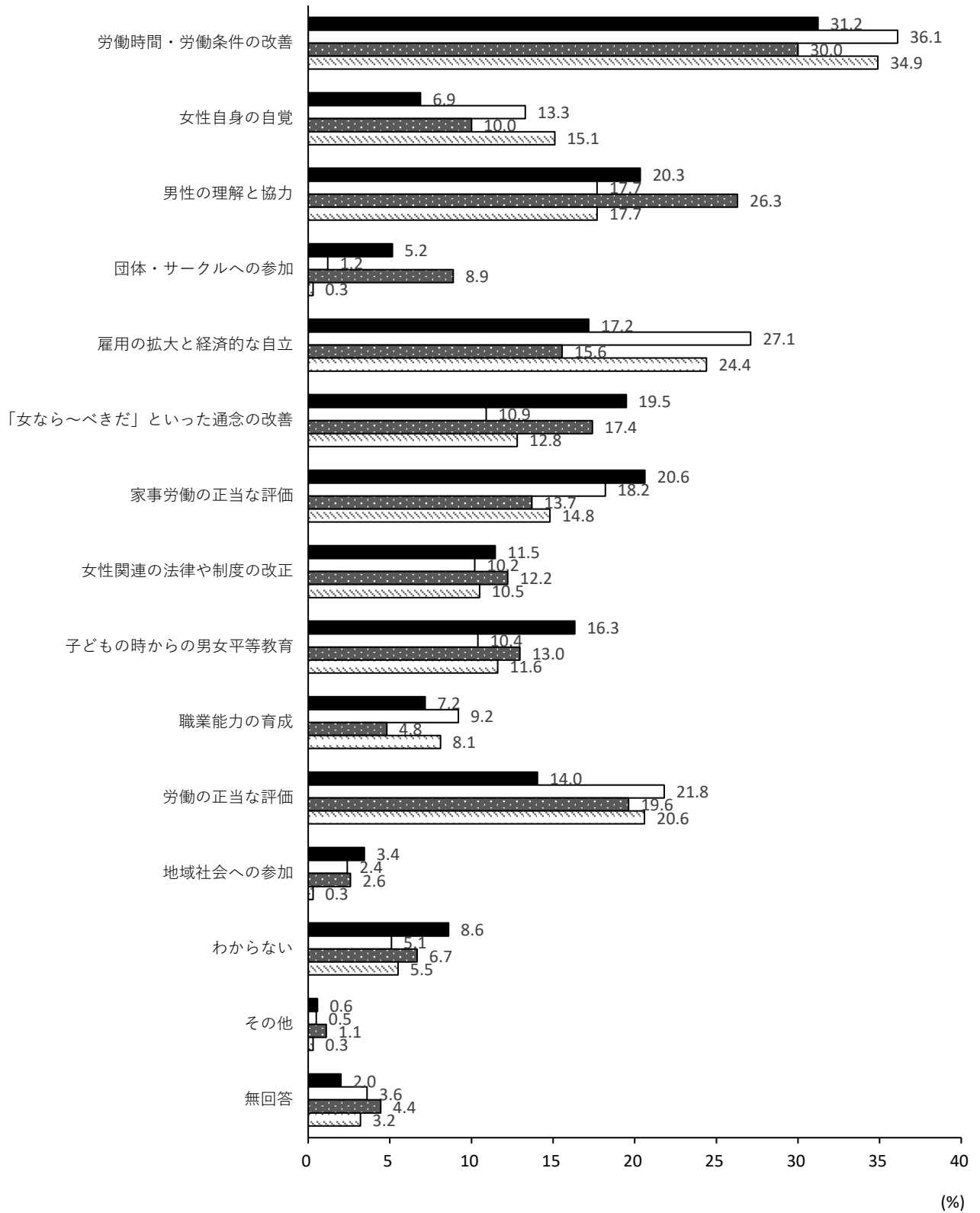


問23 女性がおかれている社会的条件の改善のために必要だと思うこと。(複数回答)

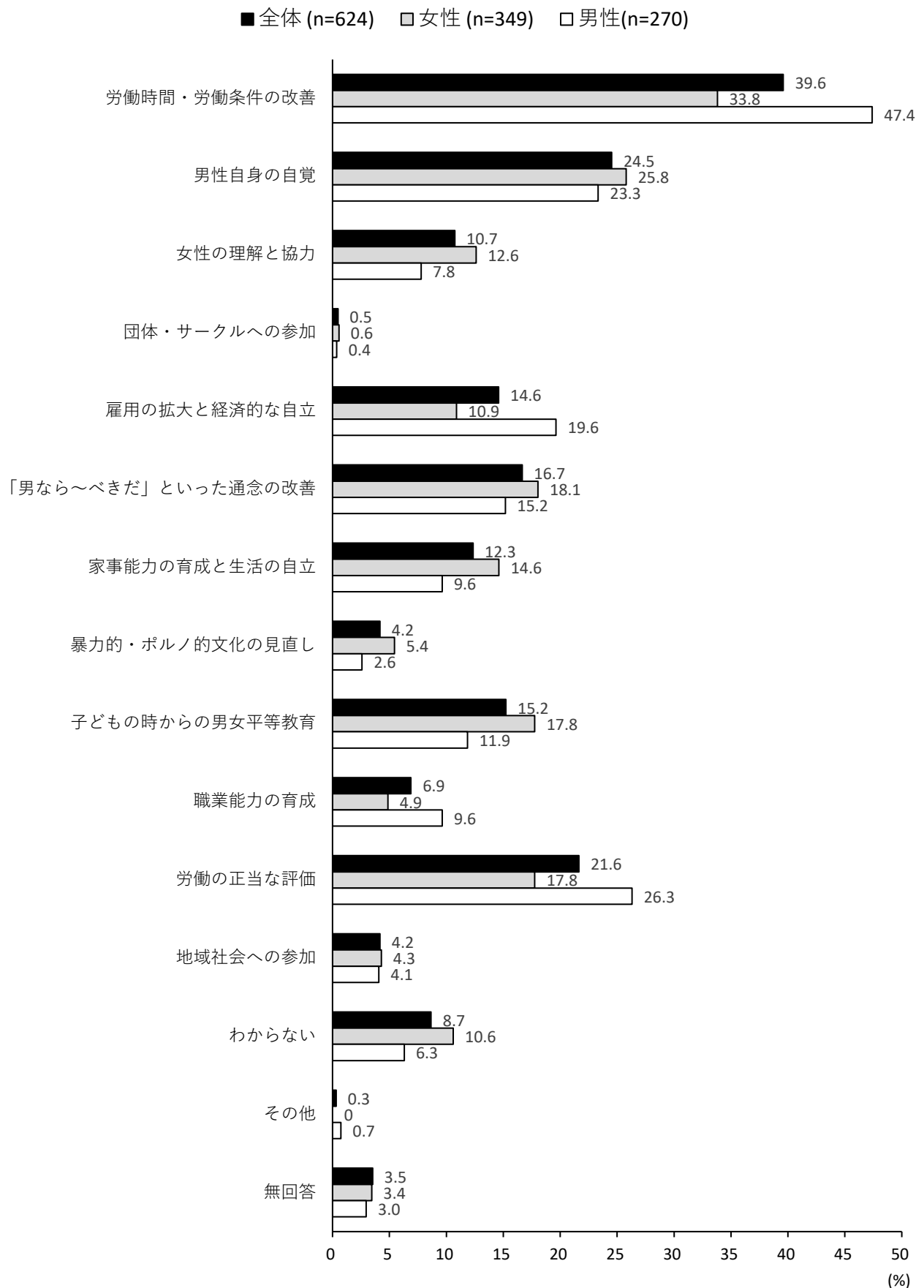


女性の社会的条件改善のために必要だと思うこと：前回調査との比較

■ R4女性 (n = 349) □ H24女性 (n = 413) ▨ R4男性 (n = 270) □ H24男性 (n = 344)

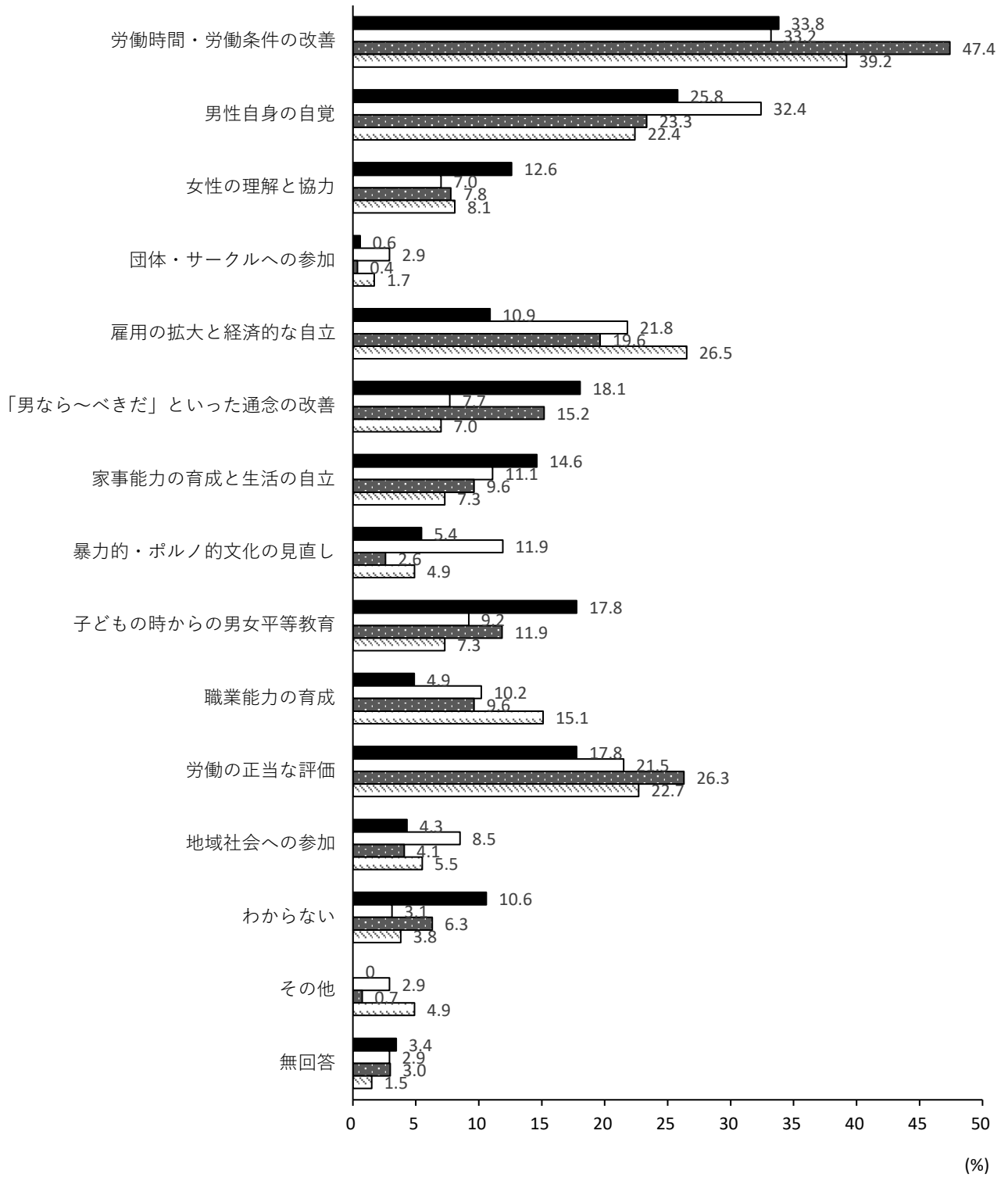


問2 4 男性がおかれている社会的条件の改善のために必要だと思うこと。
 (複数回答)



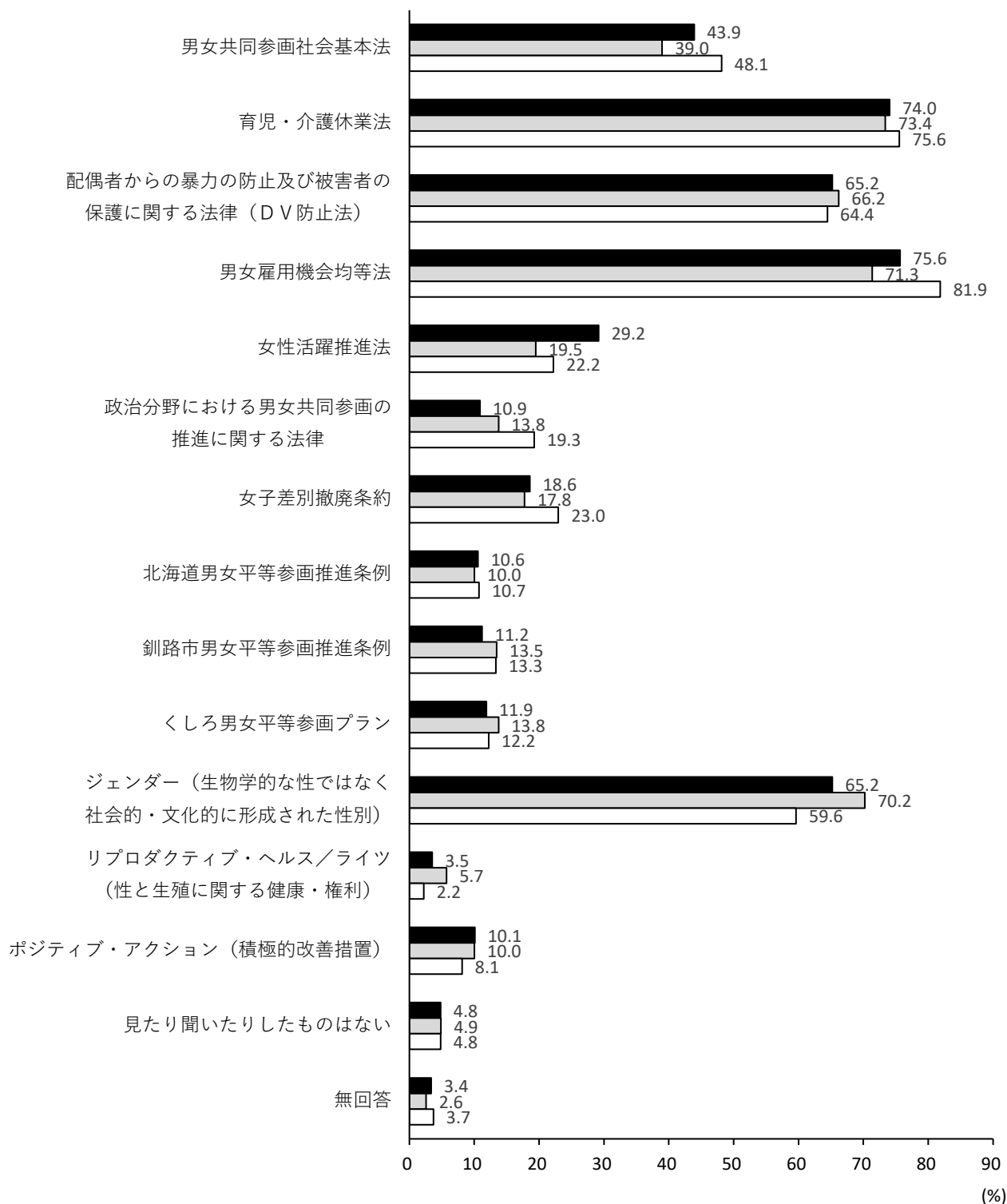
男性の社会的条件の改善のために必要だと思うこと：前回調査との比較

■ R4女性 (n=349) □ H24女性 (n=413) ■ R4男性 (n=270) □ H24男性 (n=344)

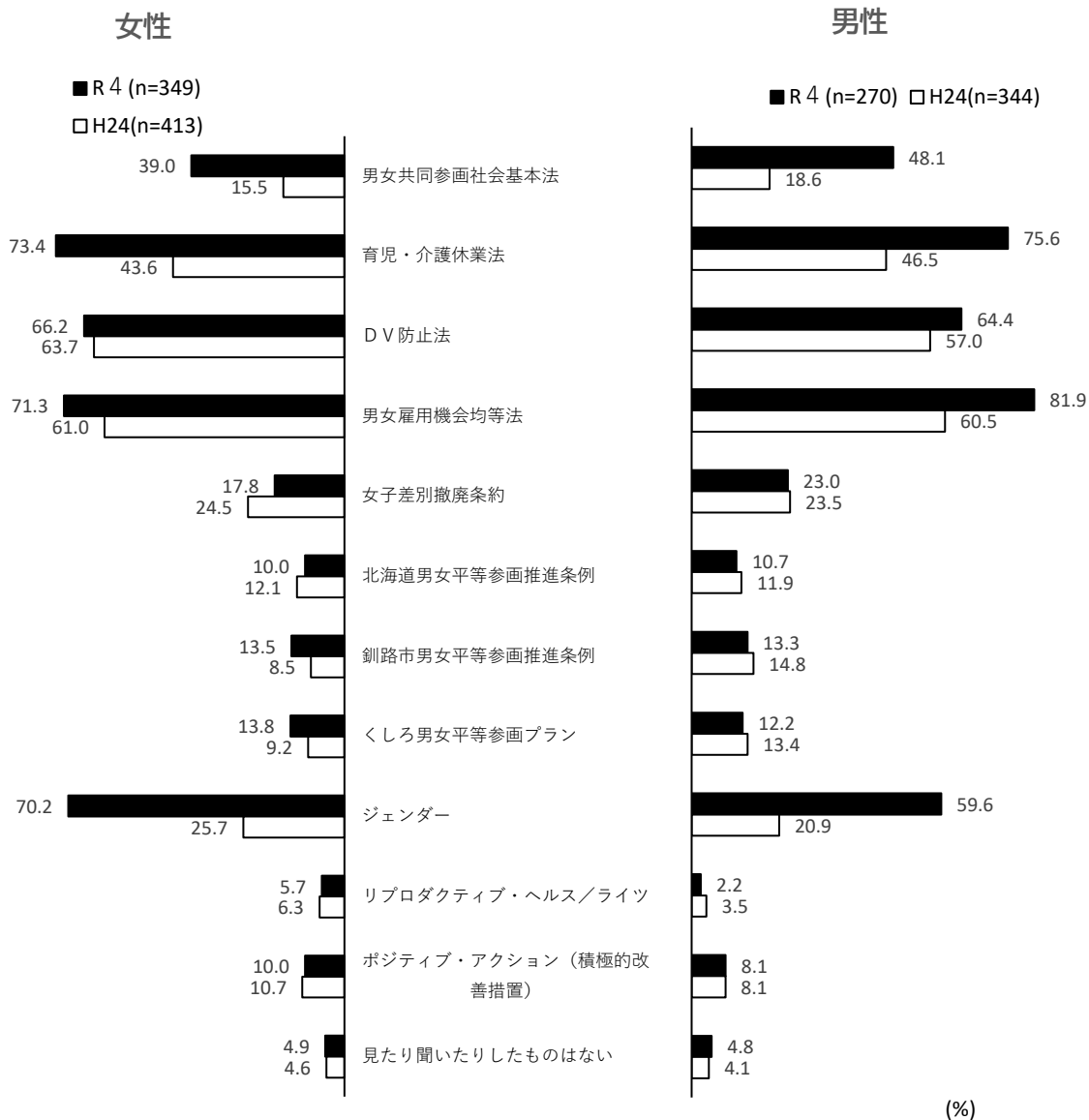


問25 次のうち、見たり聞いたりしたことがある言葉はどれですか。(複数回答)

■全体 (n=624) □女性 (n=49) □男性(n=270)

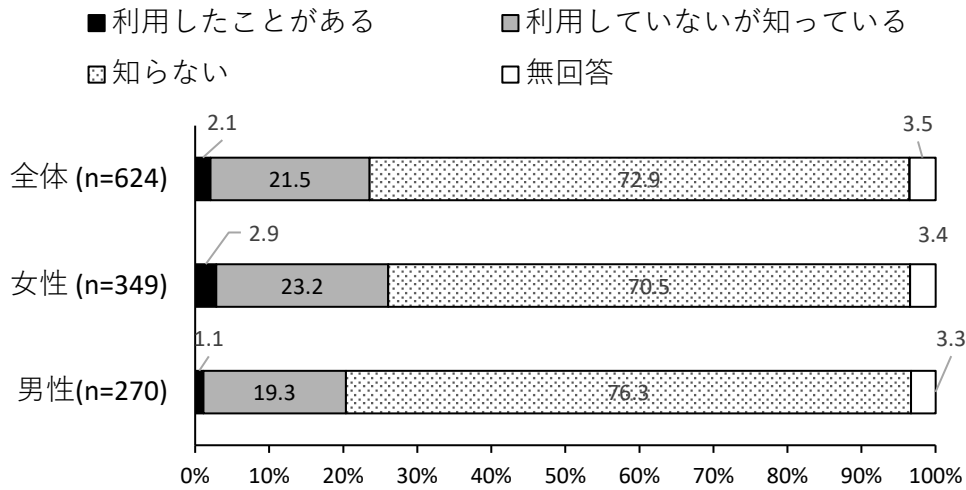


問25 見たり聞いたりしたことのある言葉：前回調査との比較

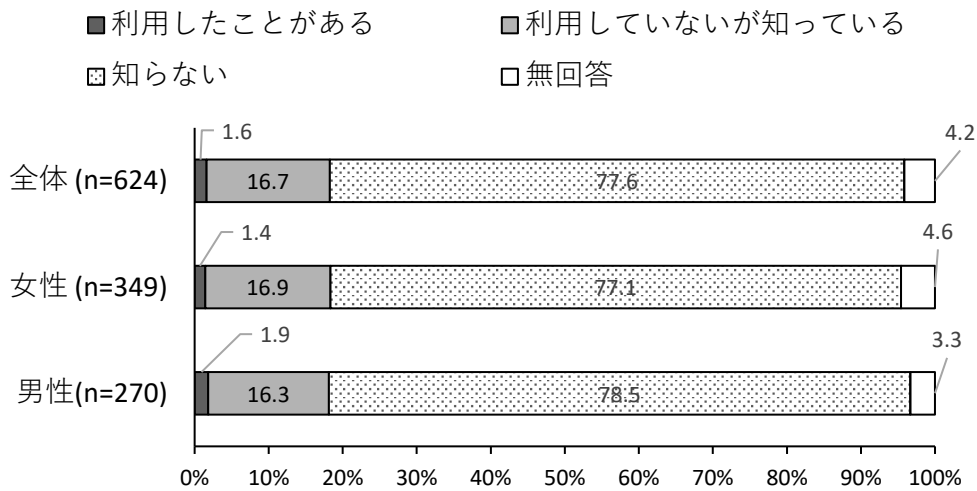


問26 「釧路市男女平等参画センター（ふらっと）」を利用したことがありますか。

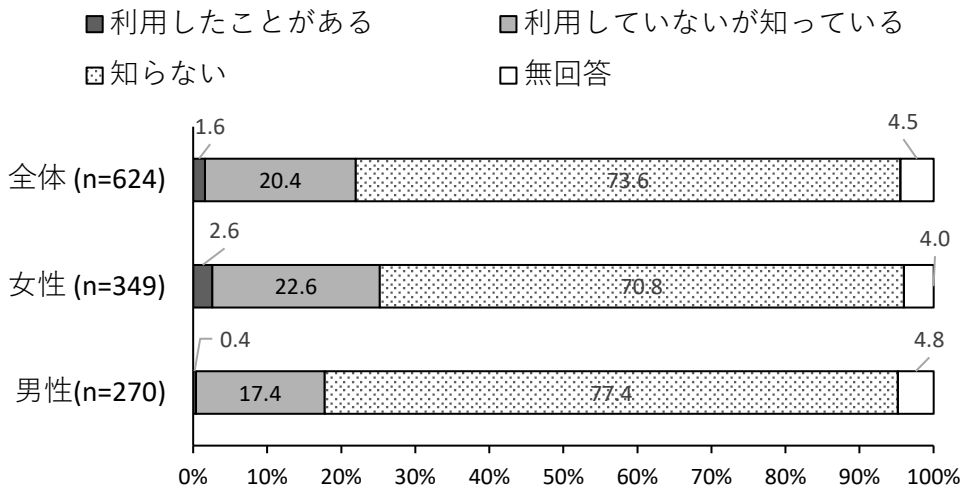
各種セミナー・講演会



会議室

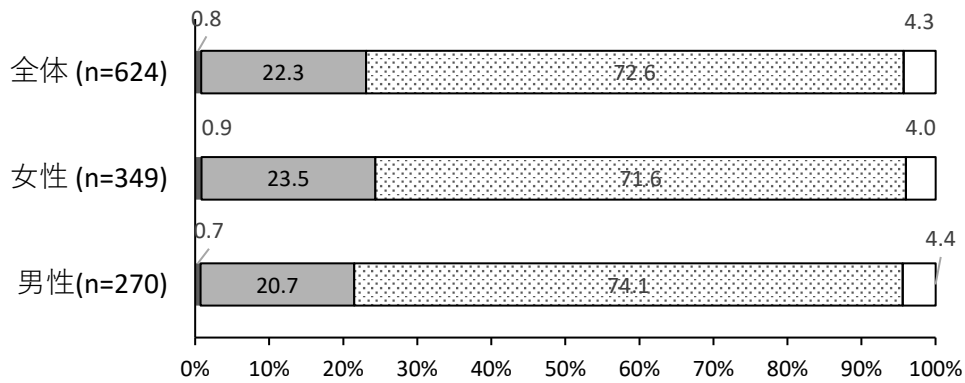


交流広場・キッズコーナー



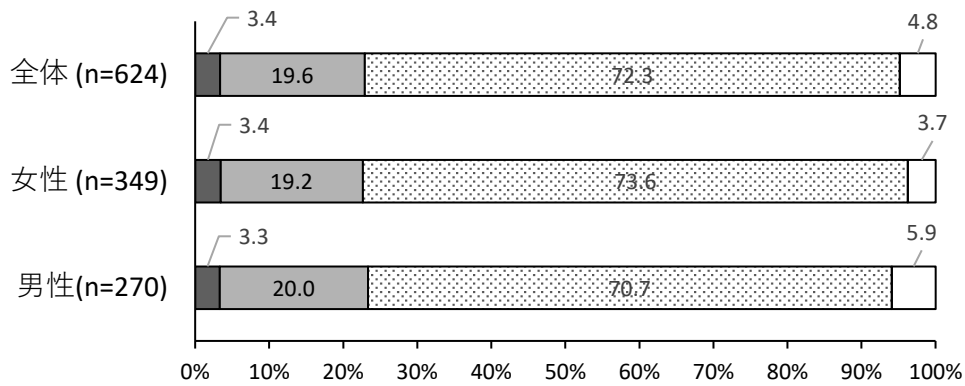
電話相談・法律相談

- 利用したことがある
- 利用していないが知っている
- ▨ 知らない
- 無回答



図書コーナー、学習スペース

- 利用したことがある
- 利用していないが知っている
- ▨ 知らない
- 無回答

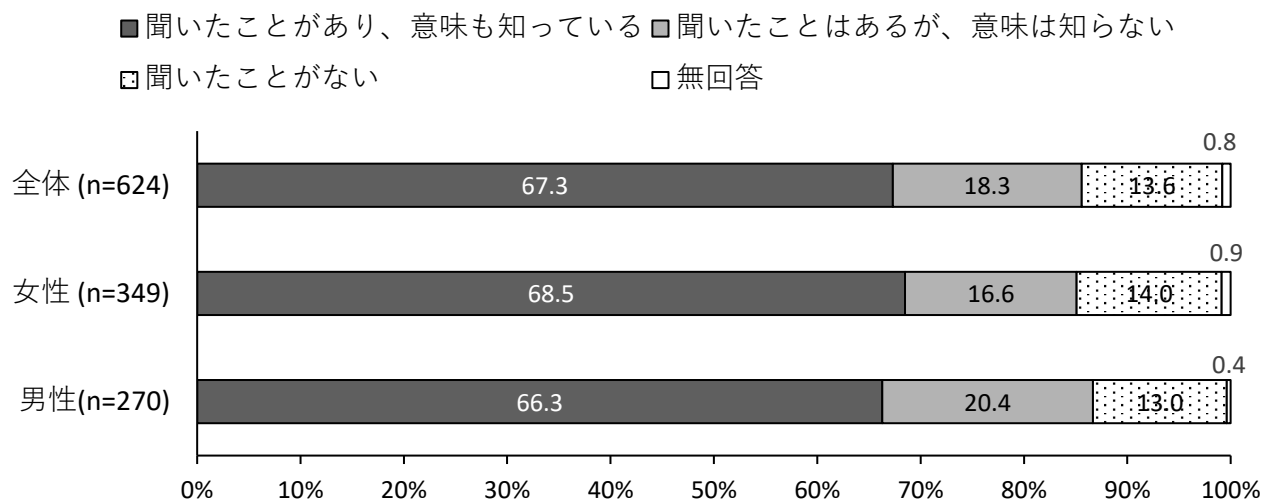


【性の多様性について】

問27 「LGBT」という言葉を聞いたことがありますか。

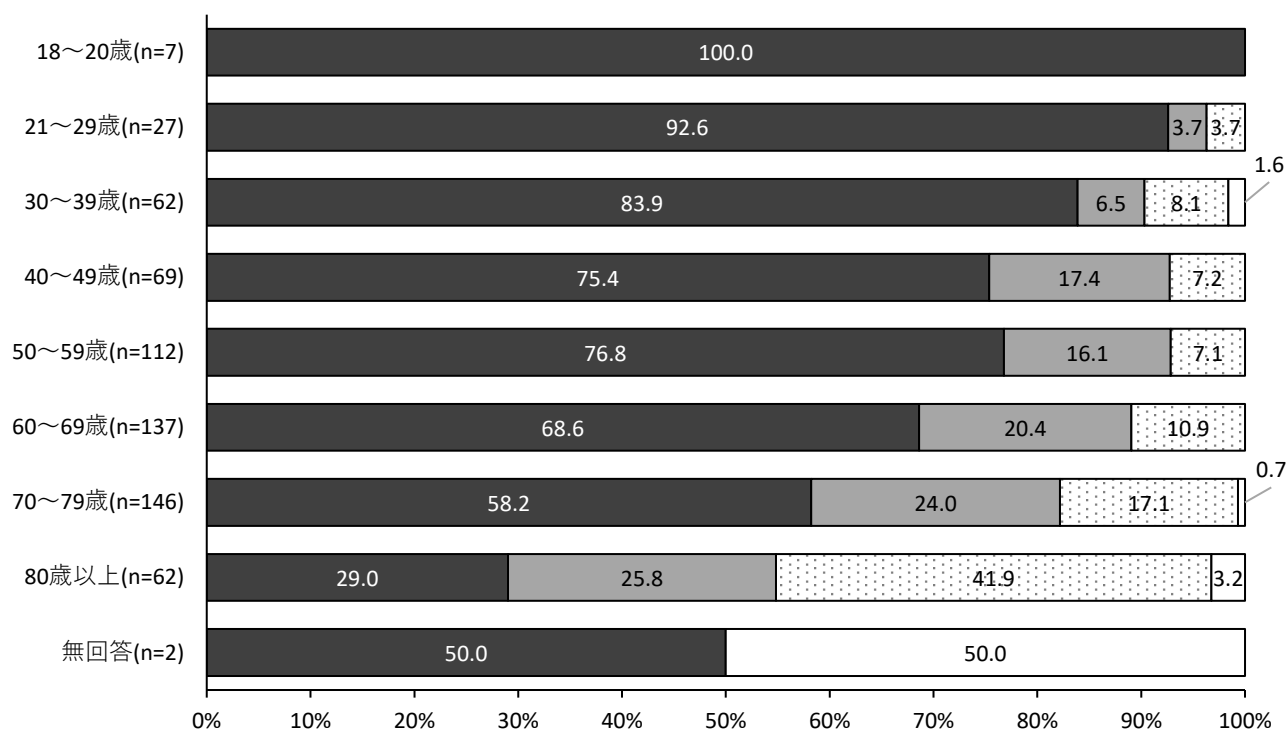
○「LGBT」という言葉を聞いたことがあるかについて

- ・「聞いたことがあり、意味も知っている」が全体の67.3%となり、男女別での回答差はほぼ見られなかった。
- ・年代別では、年代が若いほど「知っている」と回答した割合が高くなっている。



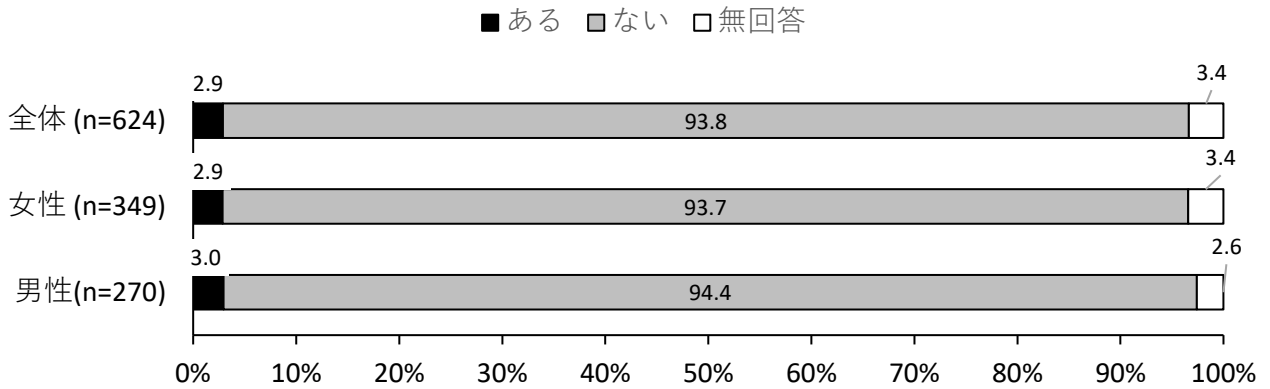
問27 「LGBT」という言葉を聞いたことがありますか：年代別回答

- 聞いたことがあり、意味も知っている ■ 聞いたことはあるが、意味は知らない
□ 聞いたことがない □ 無回答

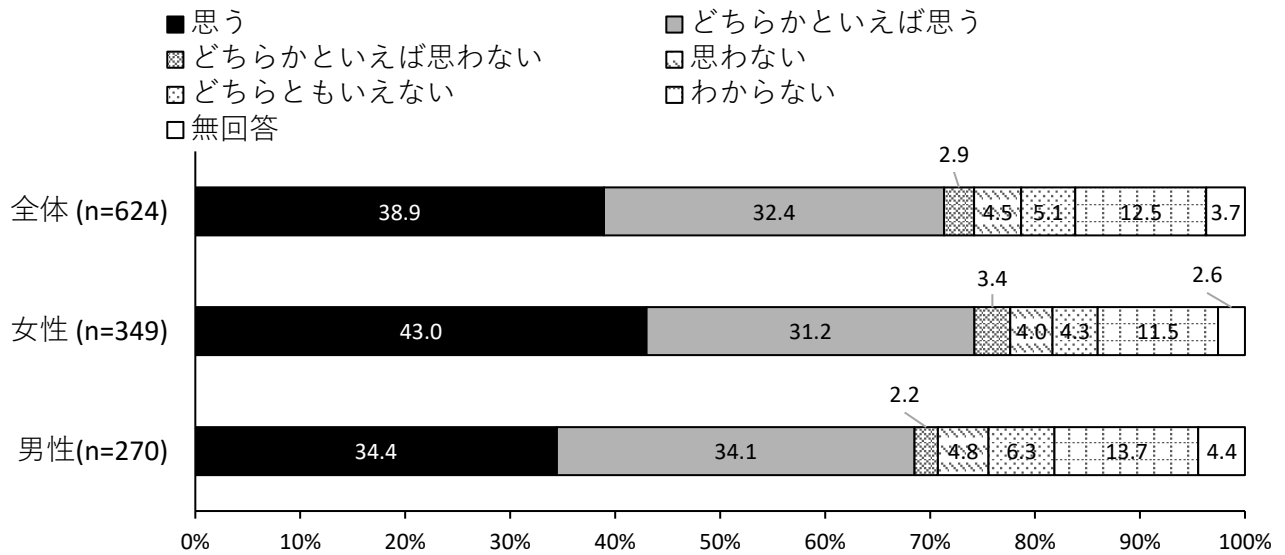


問28 あなたは、自分自身が性的マイノリティ（LGBT等）に属すると感じたことはありますか。

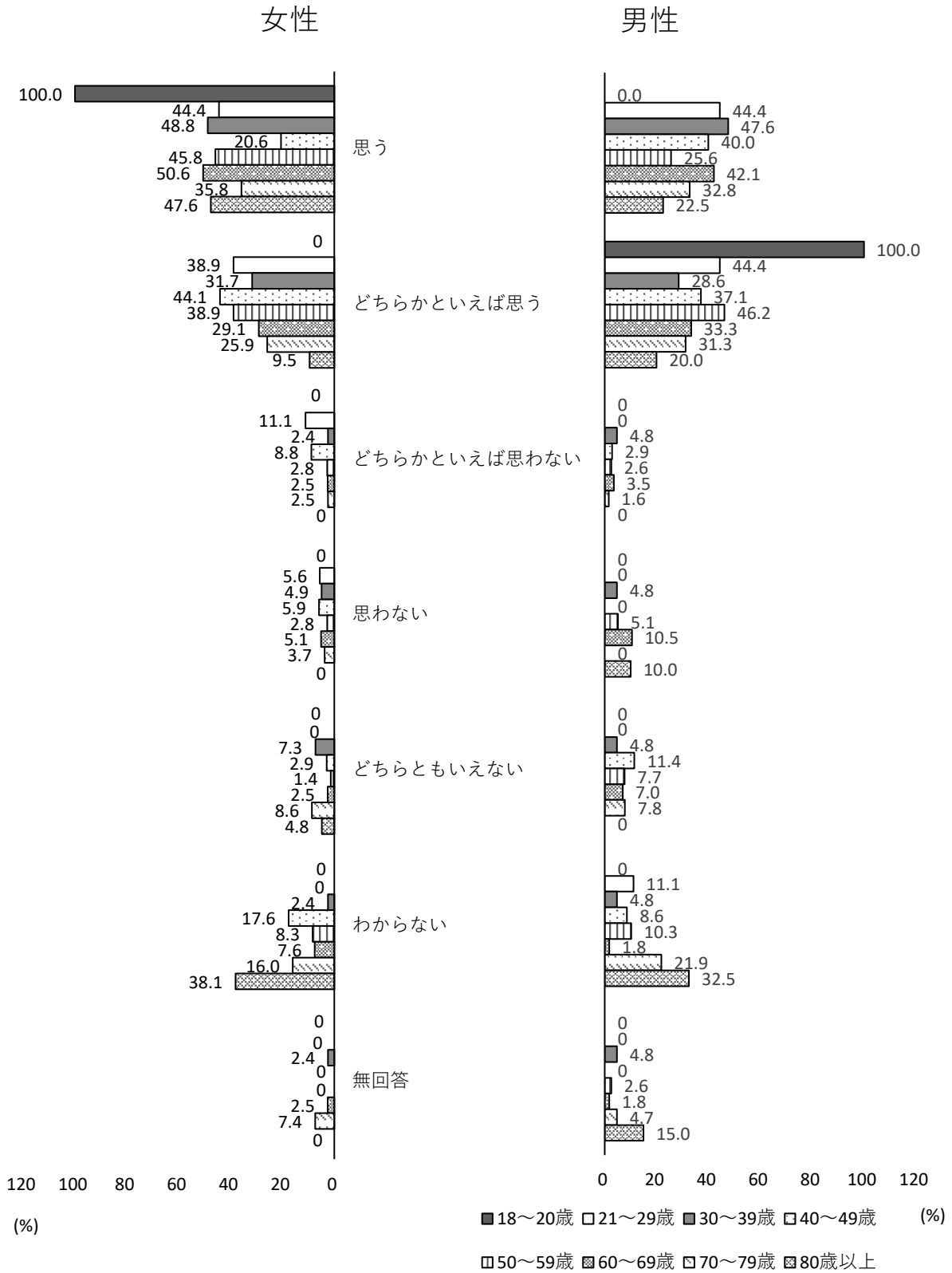
○自分自身が性的マイノリティに属すると感じたことがあるかについて、「ある」と回答した人の割合は、女性で2.9%、男性で3.0%であった。



問29 現在、性的マイノリティ（LGBT等）の方々にとって、差別や偏見などにより生活しにくい社会だと思いますか。

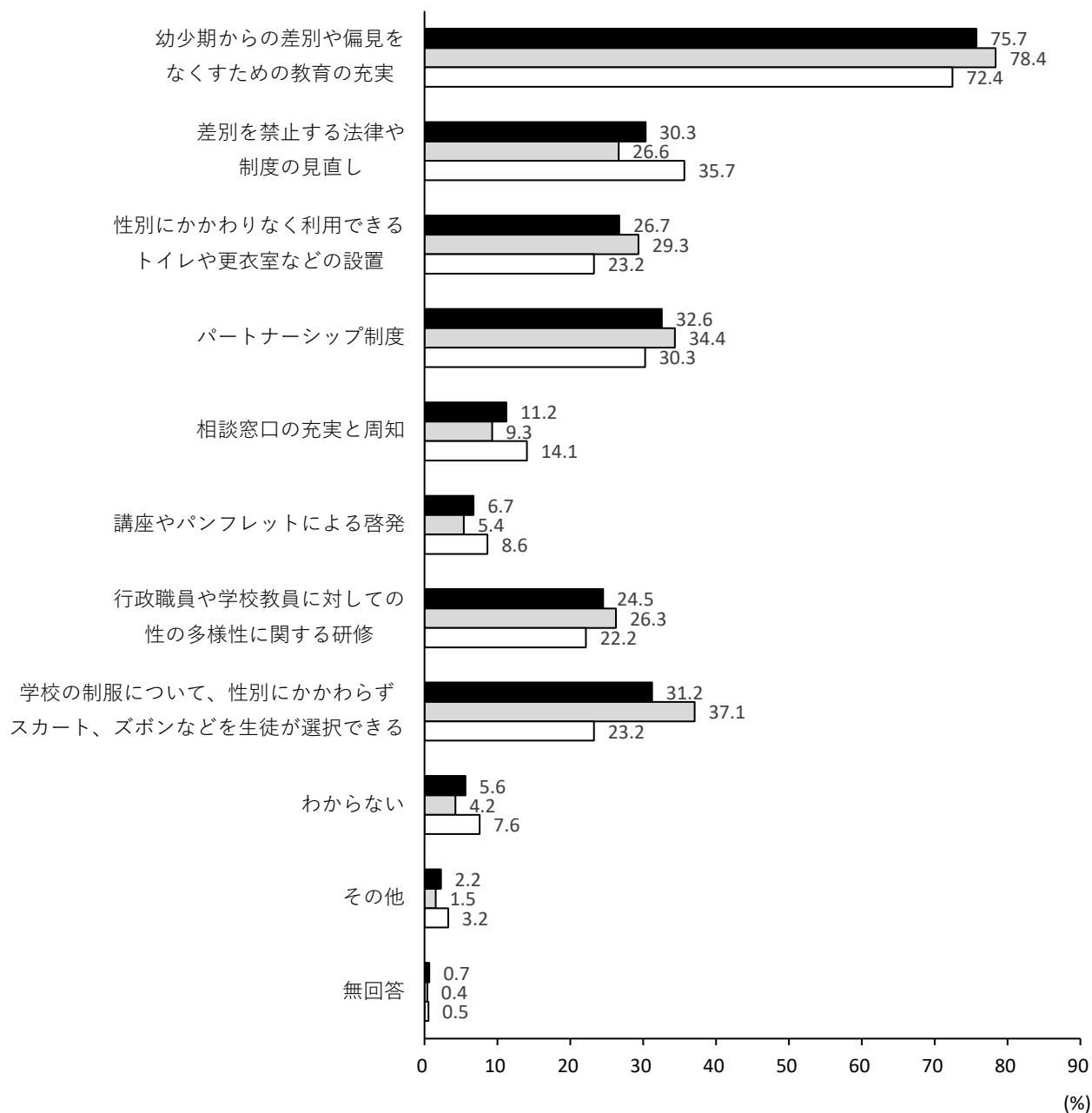


問29 性的マイノリティ（LGBT等）の方々にとって生活しにくい社会だと思えますか：年代別回答



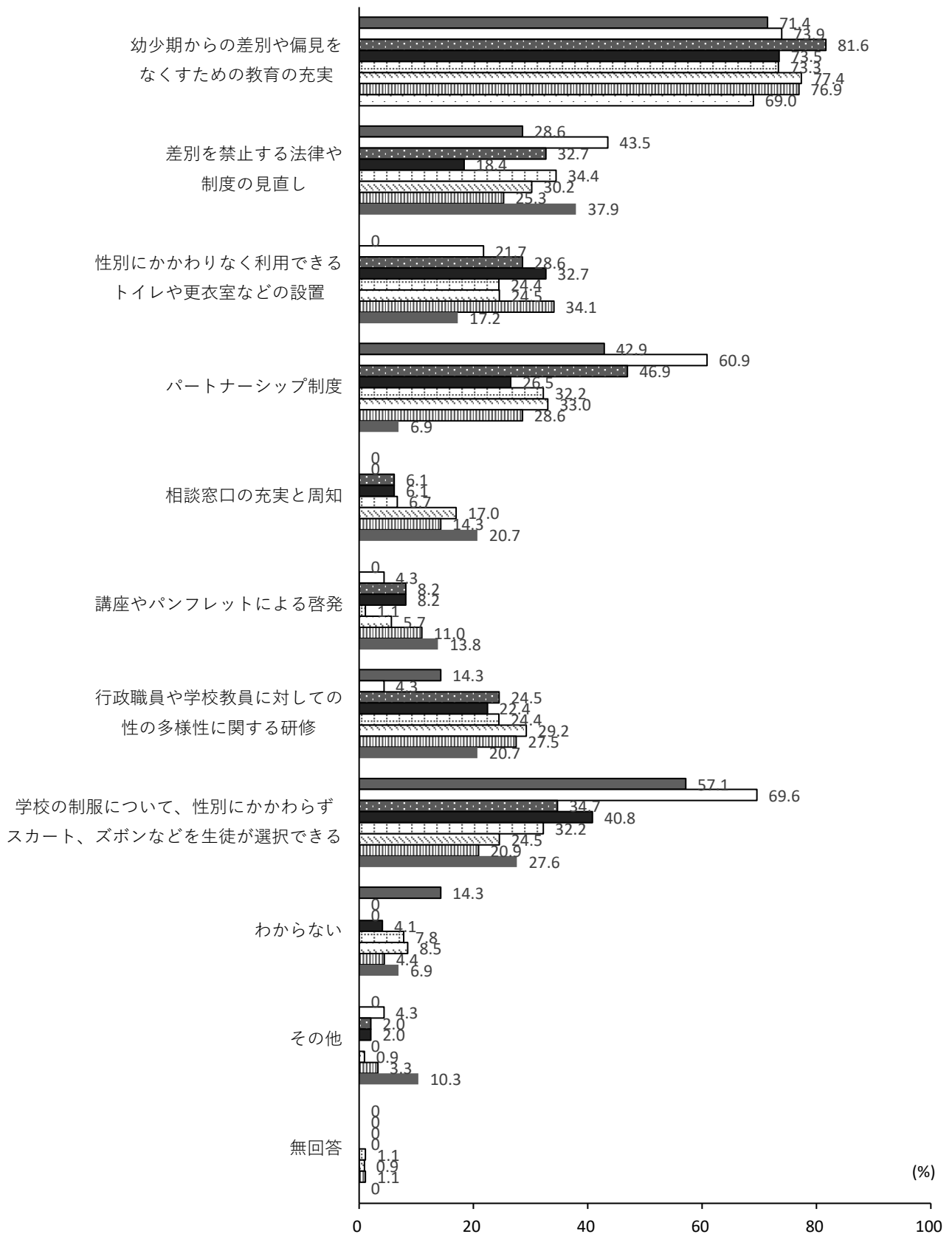
問30 問29で「思う」「どちらかといえば思う」と答えた方にお聞きします。
 性的マイノリティ（LGBT等）の人たちに対する差別や偏見をなくし、
 暮らしやすい社会にするためには、どのような対策が必要だと思いますか。（複数回答）

■ 全体 (n=445) □ 女性 (n=259) □ 男性 (n=185)



問30 性的マイノリティの方のための対策：年代別回答

■ 18～20歳(n=7) □ 21～29歳(n=23) ■ 30～39歳(n=49) ■ 40～49歳(n=49)
 □ 50～59歳(n=90) □ 60～69歳(n=106) ▨ 70～79歳(n=91) ■ 80歳以上(n=29)



釧路市 男女平等に関する市民意識・実態調査

～ アンケート ご協力をお願い ～

日頃から、市政に対しましてご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

釧路市では、男女が互いに人権を尊重しあい、個性と能力を発揮することができる男女平等参画社会の実現をめざして、「くしろ男女平等参画プラン」を策定し、さまざまな取り組みを進めています。

この調査は、市民の皆さまの男女平等参画に対するお考えやご意見、現状を幅広くお伺いし、今後予定している「くしろ男女平等参画プラン」の中間見直し作業や、市の今後の施策を検討するうえでの基礎的な資料とさせていただくことを目的に実施するものです。

アンケートの内容につきましては、平成24年10月に実施した同様のアンケート内容を基本に、「釧路市男女平等参画審議会」でのご意見を得て作成いたしました。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

令和4年10月

釧路市長 蝦名 大也

《ご回答をいただく方へ》

- ◆ アンケートの回答をお願いしているのは、令和4年10月1日現在、釧路市に住民登録されている方の中から、無作為に抽出した18歳以上の男女各1,000人、合計2,000人の方々です。
- ◆ 皆さまのご回答は、全て統計的に処理いたしますので、個人のご意見がそのまま発表されることはありません。また、アンケートの結果が目的以外に使用されることはありません。
- ◆ 必ずご自身でご記入ください。また、ご自身のお考えでお答えください。
ご記入できない事情がある場合は、そのままご返送ください。
- ◆ 回答は、10月1日現在で記入し、あてはまる欄、番号に○をつけてください。

回答方法について

※郵送またはインターネット、どちらかの回答方法をお選びください。


【郵送での回答方法】

この回答用紙にご記入いただき、同封の返信用封筒に入れて、ポストに投函してください。
切手を貼る必要はありません。

【インターネットでの回答方法】

パソコン、スマートフォンなどから、以下のURLまたはQRコードより「釧路市 男女平等に関する市民意識・実態調査」のサイトにアクセスし、回答してください。

URL : <https://logoform.jp/form/5Kjn/145004>

QRコード：

(留意事項)

- ・郵送で回答された方は、インターネットでの回答をしないようご注意ください。
- ・インターネットによる回答は1回限りとし、再回答や、回答の修正はしないでください。
- ・回答途中に一時保存もできます。時間がかかるとタイムアウトになることがあります。
- ・通信サービスの接続料金は、ご回答者の負担となります。

回答は、11月15日(火)までに投函または送信してください。

- ◆ この調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

釧路市総合政策部市民協働推進課

電話 31-4504 FAX 23-5220

E-mail shi-shiminkyoudou@city.kushiro.lg.jp

【1 男女平等についておたずねします】

問1 あなたは次のア～クにあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれについて、1～6の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
ア	家庭生活の中で	1	2	3	4	5	6
イ	職場の中で	1	2	3	4	5	6
ウ	町内会やPTA活動などの地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
エ	学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
オ	政治の場で	1	2	3	4	5	6
カ	法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
キ	社会一般に通用している常識や見解などで	1	2	3	4	5	6
ク	社会全体として	1	2	3	4	5	6

問2 家庭生活や結婚について、さまざまな考え方がありますが、あなたは次のア～ウの意見についてどう思いますか。1～6の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

		賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	わからない
ア	「男は仕事、女は家庭」という役割分担の考え方	1	2	3	4	5	6
イ	夫婦は戸籍上、別々の姓を名乗ってもかまわない	1	2	3	4	5	6
ウ	結婚後、通称として旧姓使用が可能な範囲が広がる方がよい	1	2	3	4	5	6

問3 一般的に、共働き家庭での家事や育児の役割分担について、あなたはどのように考えますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つだけ)

1	男性女性とも、同じように家事や育児を行うのがよい
2	どちらでも手のあいている方が家事や育児をすればよい
3	家事や育児は主として女性がやり、男性は女性を手伝う程度でよい
4	男性は家事や育児をしなくてもよい
5	わからない
6	その他(具体的に：)

【2 家庭生活についておたずねします】

問4 あなたの世帯構成はどのようになっていますか。あてはまる番号に○をつけてください。
(○は1つだけ)

1	単身世帯（一人暮らし）	→問6へ
2	夫婦・パートナーのみ（事実婚を含む）	
3	親と子ども（2世代世帯※）	※自分と親、自分と子ども
4	親と子どもと孫（3世代世帯※）	※自分と親と子ども、自分と親と祖父母、自分と子どもと孫
5	その他（	）

問5 あなたの家庭では、次のア～コにあげる仕事は主にどなたがしていますか。
それぞれについて、1つずつ選んでその番号に○をつけてください。

	自分	配偶者 (パートナー)	等が平等に	自分と配偶者	子どもまたは その配偶者等	家族全員	その他	この家事自体 がない
ア	炊事	1	2	3	4	5	6	7
イ	洗濯	1	2	3	4	5	6	7
ウ	掃除	1	2	3	4	5	6	7
エ	ゴミ出し	1	2	3	4	5	6	7
オ	日常の買い物	1	2	3	4	5	6	7
カ	子どもの世話・しつけ	1	2	3	4	5	6	7
キ	家族の介護	1	2	3	4	5	6	7
ク	家計の管理	1	2	3	4	5	6	7
ケ	学校行事・PTA活動	1	2	3	4	5	6	7
コ	地域活動・近所付き合い	1	2	3	4	5	6	7

問6 あなたが「少子化」の原因として感じているものを次の中から選んでその番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

1	子育てにかかる費用の負担が大きいから
2	結婚しない人が増えたから
3	結婚年齢が高くなったから
4	子どもよりも夫婦を中心に結婚や家庭を考える人が増えたから
5	子どもは少なく産んで十分手をかけて育てたいという人が増えたから
6	子育ては女性が中心となっており、男性の協力が足りないから
7	子育てを支援する施設や制度が十分ではないから
8	出産育児は精神的・肉体的負担が大きいから
9	子育てと仕事の両立が難しいから
10	わからない
11	その他（具体的に：
	）

問7 あなたは人とのつながりについて、どのように感じていますか。次のア～ウそれぞれについて 1つずつ選んでその番号に○をつけてください。

		決 して ない	ほ と ん ど ない	時 々 あ る	常 に あ る
ア	自分には人とのつきあいが無いと感じること	1	2	3	4
イ	自分は取り残されていると感じること	1	2	3	4
ウ	自分は他の人たちから孤立していると感じること	1	2	3	4

問8 あなたに不安や悩みが生じたとき、相談相手（相談先）はいますか。番号に○をつけてください
(○は1つだけ)

1	いる	2	いない → 問9へ
---	----	---	-----------

問8-1 問8で「1 いる」を選んだ方におたずねします。
あなたは誰に相談をしますか。次の中から選んでその番号に○をつけてください。
(○はいくつでも)

1	家族・親族
2	友人・知人・交際相手
3	町内会・近所の人
4	仕事・学校関係者（職場の同僚・学校の先生等）
5	行政機関（市役所等）
6	NPO等の民間団体・ボランティア団体
7	わからない（相談窓口の運営者が不明な場合を含む）
8	その他（ ）

【3 人権についておたずねします】

問9 あなたは、DV（ドメスティック・バイオレンス、配偶者などからの暴力）、デートDV（若者の間で交際相手からふるわれる暴力）やセクシュアル・ハラスメント（セクハラ、性的嫌がらせ）について身近で見聞きしたことがありますか。ア～ウそれぞれについて、該当するものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

		自分が直接被害を受けたことがある	相談を受けたことがある	被害を受けた人を知っている	身近に被害を受けた人はいない	言葉自体を知らない	自分が加害者になったことがある
ア	DV	1	2	3	4	5	6
イ	デートDV	1	2	3	4	5	6
ウ	セクハラ	1	2	3	4	5	6

問10 もし、あなたがドメスティック・バイオレンス、デートDV、セクシュアル・ハラスメントの被害にあったときは、どこ（誰）に相談しますか。あてはまる番号に○をつけてください（○は3つまで）

1	家族	7	医師、カウンセラー
2	友人、知人、交際相手	8	職場の苦情処理機関や上司・同僚
3	警察、弁護士	9	どこ（誰）にも相談しない
4	公的な相談機関	10	相談先がわからない
5	民間の相談機関	11	その他（ ）
6	同じ経験をした人		

問11 性犯罪、売買春（援助交際など）、配偶者などからの暴力、セクシュアル・ハラスメントなどの暴力をなくすためには、どのようにしたら良いと思いますか。（○はいくつでも）

1	法律・制度の制定や見直しを行う
2	犯罪の取り締まりを強化する
3	捜査や裁判における担当者に女性を増やすなど、被害を届けやすいような環境をつくる
4	被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる
5	被害者のための相談機関や保護施設を整備する
6	家庭における男女平等についての教育を充実させる
7	学校における男女平等についての教育を充実させる
8	メディア（テレビ、新聞、雑誌など）が自主的取り組みを強化し、暴力を無批判に取り扱わないようにする
9	過激な暴力表現を扱ったビデオソフト、ゲームソフトなどの販売や貸し出しを制限する
10	わからない
11	その他（具体的に： ）

【4 教育についておたずねします】

問12 あなたは学校で男女が平等に教育されていると思いますか。番号に○をつけてください
(○は1つだけ)

1	思う →問14へ	2	思わない →問13へ	3	わからない →問14へ
---	----------	---	------------	---	-------------

問13 問12で「2 思わない」に○をつけた方におたずねします。
 学校で男女が不平等だと思われる番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

1	名簿が男女別で男子が先	6	学芸会・文化祭での役柄
2	服装	7	言葉遣いなどに対する先生の注意の仕方
3	運動会・陸上競技大会などの種目	8	学習指導のあり方
4	学級委員の選び方と係活動の分担	9	進路指導のあり方
5	名前の呼び方	10	その他(具体的に:)

【5 就労についておたずねします】

問14 あなたは現在、働いていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1	働いている → 問15へ	2	働いていない → 問16へ
---	--------------	---	---------------

問15 現在働いている方にお聞きします。今の社会は、女性が働きやすい状態(環境)にあると思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つだけ)

1	大変働きやすい →問15-1へ	4	大変働きにくい →問15-2へ
2	ある程度働きやすい →問15-1へ	5	どれともいえない →問16へ
3	働きにくい →問15-2へ	6	わからない →問16へ

問15-1 問15で「1 大変働きやすい」「2 ある程度働きやすい」に○をつけられた方にお聞きします。それはどのような理由からですか。あてはまる番号に○をつけてください
(○はいくつでも)

1	働き場が多い
2	能力発揮の場が多い
3	労働条件が整っている
4	育児施設が十分整備されている
5	昇進、教育訓練などに男女の差別的扱いが無くなってきている
6	結婚・出産退職の慣行がない
7	「男は仕事、女は家庭」という社会通念が変化してきている
8	家族の理解、協力が得やすい
9	その他(具体的に:)

問15-2 問15で「3 働きにくい」「4 大変働きにくい」に○をつけられた方にお聞きします。
女性が「働きにくい」原因について、次の中からあなたの職場であてはまると感じているものを選んで、その番号に○をつけてください。 (○はいくつでも)

1	採用の条件で年齢制限や資格の有無などで働く場が限られている
2	「男は主務、女は補助職」という傾向がある
3	長時間労働、あるいは深夜業務など、条件的に不利なことがある
4	昇級・昇進・昇格・教育訓練などの機会が男女で異なっている
5	配置転換・転勤・異動が多い
6	産休・育児休暇が無い、またはとれる雰囲気ではない
7	結婚・出産退職の慣行がある
8	上司や同僚によるセクシュアル・ハラスメント（嫌がらせ）がある
9	その他（具体的に： _____)

問16 あなたは女性が社会に出て働くことと家庭との関係についてどのようにお考えですか。
あてはまる番号に○をつけてください。 (○は1つだけ)

1	女性は家事・育児に専念した方がよい
2	結婚出産まで働き、その後は家事や育児に専念した方がよい
3	結婚出産後は家事・育児に専念し、子どもの手が離れたら家庭に影響を与えない程度に働く方がよい
4	結婚出産後は家事・育児に専念し、子どもの手が離れたらもとのように働く方がよい
5	結婚出産後は家庭に影響を与えない程度に働き続ける方がよい
6	結婚や出産にかかわらず働き続ける方がよい
7	わからない

問17 男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、
どのようなことが必要だと思いますか。 (○は2つまで)

1	男性自身の抵抗感をなくすこと
2	女性自身の抵抗感をなくすこと
3	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
4	年配者やまわりの人が、役割分担などについての夫婦の考え方を尊重すること
5	社会の中で、男性が行う家事などについての評価を高めること
6	労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
7	男性の家事などに関心を高めるよう啓発を行ったり、研修などにより家事などの技能を高めること
8	男性の子育てなどの仲間（ネットワーク）づくりを進めること
9	家庭と仕事の両立などについて、男性が相談しやすい窓口を設けること
10	特に必要なことはない
11	その他（ _____)

問18 あなたは、男性が育児休業や介護休業をとることについてどう思いますか。

ア、それぞれについて、該当するものを1つずつ選んで、その番号に○をつけてください。

		家族として当然である	他人に子育てや介護をする者がいない場合は、男性もやむを得ない	他に子育てや介護をする者がない	子育てや介護は女性が適していると思うので、男性がとる必要はない	男性がとるのは、体裁が悪い
ア	育児休業	1	2	3	4	
イ	介護休業	1	2	3	4	

問19 あなたは「ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）」という言葉を知っていますか。あてはまる番号に○をつけてください。（○は1つだけ）

1	聞いたことがあり、意味も知っている	3	聞いたことがない
2	聞いたことはあるが、意味は知らない		

問20 あなたは「ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）※」が実現できていると思いますか。（○は1つだけ）

1	実現できている →問21へ	4	実現できていない
2	どちらかというと実現できている →問21へ	5	どちらともいえない →問21へ
3	どちらかというと実現できていない	6	わからない →問21へ

※ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）とは・・・

国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会

問20-1 問20で「3 どちらかといえば実現できていない」「4 実現できていない」と答えた方にお聞きします。「ワーク・ライフ・バランス」が実現できていない理由は何だと思いませんか。（○は2つまで）

1	労働時間が長いため	4	職場の理解がないため
2	職場に人の余裕がないため	5	その他（具体的に：_____）
3	「男性は仕事、女性は家庭」といった考え方があるため		

問21 あなたの生活の中で、「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の中で何を優先するのか、希望に最も近いものはどれですか。（○は1つだけ）

1	「仕事」を優先したい	5	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
2	「家庭生活」を優先したい	6	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
3	「地域・個人の生活」を優先したい	7	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
4	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	8	わからない

問21-1 問21の設問内容について、あなたの**現実・現状に最も近いもの**はどれですか。

(○は1つだけ)

1	「仕事」を優先している	5	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
2	「家庭生活」を優先している	6	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
3	「地域・個人の生活」を優先している	7	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
4	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	8	わからない

【6 社会参加および男女平等参画の推進についておたずねします】

問22 あなたは仕事以外にどのような社会活動に参加されていますか。(○はいくつでも)

1	町内会、自治会活動	7	宗教活動
2	ボランティア活動	8	趣味やスポーツ団体活動
3	子供会、婦人会、PTA活動	9	労働組合活動
4	学習グループ活動	10	参加していない
5	市民活動	11	その他(具体的に:)
6	消費者運動		

問23 女性がおかれている社会的条件の改善のために、今後どのようなことが必要と思われますか。

(○は2つ) ※2つ選択してください

1	労働時間・労働条件の改善	8	女性関連の法律や制度の改正
2	女性自身の自覚	9	子どもの時からの男女平等教育
3	男性の理解と協力	10	職業能力の育成
4	団体・サークルへの参加	11	労働の正当な評価
5	雇用の拡大と経済的な自立	12	地域社会への参加
6	「女なら～べきだ」といった通念の改善	13	わからない
7	家事労働の正当な評価	14	その他(具体的に:)

問24 男性がおかれている社会的条件の改善のために、今後どのようなことが必要と思われますか。

(○は2つ) ※2つ選択してください

1	労働時間・労働条件の改善	8	暴力的・ポルノ的文化の見直し
2	男性自身の自覚	9	子どもの時からの男女平等教育
3	女性の理解と協力	10	職業能力の育成
4	団体・サークルへの参加	11	労働の正当な評価
5	雇用の拡大と経済的な自立	12	地域社会への参加
6	「男なら～べきだ」といった通念の改善	13	わからない
7	家事能力の育成と生活の自立	14	その他(具体的に:)

問25 次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものの番号に○をつけてください。

(○はいくつでも)

1	男女共同参画社会基本法
2	育児・介護休業法
3	配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）
4	男女雇用機会均等法
5	女性活躍推進法
6	政治分野における男女共同参画の推進に関する法律
7	女子差別撤廃条約
8	北海道男女平等参画推進条例
9	釧路市男女平等参画推進条例
10	くしろ男女平等参画プラン
11	ジェンダー（生物学的な性ではなく社会的・文化的に形成された性別）
12	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康・権利）
13	ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
14	見たり聞いたりしたものはない

問26 釧路市には、男女平等参画を推進するための拠点施設として「釧路市男女平等参画センター（愛称 ふらっと）」があります。あなたは、この施設を利用したことがありますか。

ア～オについて1つずつ選んで番号に○をつけてください。

		利用した ことがある	利用していない が知っている	知らない
ア	各種セミナー、講演会	1	2	3
イ	会議室	1	2	3
ウ	交流ひろば・キッズコーナー	1	2	3
エ	電話相談・法律相談	1	2	3
オ	図書コーナー、学習スペース	1	2	3

【7 性の多様性についておたずねします】

問27 あなたは「LGBT」という言葉を聞いたことがありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。(○は1つだけ)

1	聞いたことがあります、意味も知っている	3	聞いたことがない
2	聞いたことはあるが、意味は知らない		

LGBTとは・・・

L（レズビアン 女性を好きになる女性）、G（ゲイ 男性を好きになる男性）、B（バイセクシュアル 同性も異性も好きになる人）、T（トランスジェンダー 身体の性に違和感を持つ人）
の頭文字をとった、性的マイノリティの 総称のひとつ

問28 あなたは、自分自身が性的マイノリティ（LGBT等）に属すると感じたことはありますか。

（〇は1つだけ）

1	ある	2	ない
---	----	---	----

問29 現在、性的マイノリティ（LGBT等）の方々にとって、差別や偏見などにより生活しにくい社会だと思いませんか。（〇は1つだけ）

1	思う	4	思わない	→問31へ
2	どちらかといえば思う	5	どちらともいえない	→問31へ
3	どちらかといえば思わない	6	わからない	→問31へ

問30 問29で「1 思う」「2 どちらかといえば思う」と答えた方にお聞きします
性的マイノリティ（LGBT等）の人たちに対する差別や偏見をなくし、暮らしやすい社会にするためには、どのような対策が必要だと思いませんか。（〇は3つまで）

1	幼少期からの差別や偏見をなくすための教育の充実	6	講座やパンフレットによる啓発
2	差別を禁止する法律や制度の見直し	7	行政職員や学校教員に対しての性の多様性に関する研修
3	性別にかかわらず利用できるトイレや更衣室などの設置	8	学校の制服について、性別にかかわらずスカート、ズボンなどを生徒が選択できる
4	パートナーシップ制度※	9	わからない
5	相談窓口の充実と周知	10	その他（ ）

※パートナーシップ制度とは・・・

法律婚ができない同性のカップルに対し、市町村等が公的に「婚姻に相当する関係」と認める制度

【8 あなたご自身についておたずねします】

※ 10月1日現在で記入してください。

問31 あなたの性別は（自認する性別でお答えください。）

1	女性	2	男性	3	その他
---	----	---	----	---	-----

問32 あなたの年齢は

1	18～20歳	5	50～59歳
2	21～29歳	6	60～69歳
3	30～39歳	7	70～79歳
4	40～49歳	8	80歳以上

問33 あなたは現在結婚していますか。(○は1つだけ)

1	結婚している(事実婚を含む)	2	結婚していたが離婚・死別	3	未婚
---	----------------	---	--------------	---	----

問33-1 問33で「1 結婚している(事実婚を含む)」と答えた方にお聞きします。ご自身および配偶者の就労状況は次のどれですか。(○は1つだけ)

1	共働きしている	3	配偶者だけ働いている
2	自分だけ働いている	4	どちらも働いていない

問34 あなたのご職業は何ですか。あてはまるものを1つ選んでその番号に○をつけて下さい。仕事は2つ以上ある場合は、収入の多い方について記入してください。(○は1つだけ)

自営業主 家族従業者	1	農林漁業
	2	商工サービス業(卸・小売店経営、オーナー社長含む)
	3	専門的職業(開業医・税理士・寺社・芸術家など)
	4	その他
勤め人	5	事務・経理
	6	運輸・技能・生産(運転手・建設工・修理工など)
	7	専門的職業(勤務医・教員・看護師・エンジニアなど)
	8	役員・管理職(課長以上)
	9	その他
パート	10	パート・アルバイト・臨時・内職
無職	11	学生
	12	専業主婦・家事手伝い
	13	無職
	14	その他
その他	15	その他(具体的に:)

問35 あなたはお子さんがいらっしゃいますか(同居、別居は問いません)。お子さんの状況について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	乳幼児
2	小・中学生
3	高校生、大学生(高専、短大、専門学校を含む)
4	その他(上記1~3以外)
5	子どもはいない

★ ご協力ありがとうございました。 ★